

**令和3年度大学教育再生戦略推進費
「大学の世界展開力強化事業」計画調書
～ アジア高等教育共同体(仮称)形成促進 ～**

[基本情報:タイプ]

(A①:CAプラス)

1. 大学名 <small>(○が代表申請大学)</small>	○ 千葉大学、芝浦工業大学						
2. 機関番号	<small>代表申請大学</small>	12501	32619				
3. 主たる交流先の相手国	中国・韓国・タイ・マレーシア						
4. 事業者 <small>(大学の設置者)</small>	ふりがな なかやま としのり (氏名) 中山 俊憲		(所属・職名) 学長				
5. 申請者 <small>(大学の学長)</small>	ふりがな なかやま としのり (氏名) 中山 俊憲						
6. 事業責任者	ふりがな うえだ あきら (氏名) 植田 憲		デザイン・リサーチ・インスティテュート・ (所属・職名) 所長				
7. 事業名	【和文】 ソーシャル・デザイン・イニシアティブ						
	【英文】 SDI-A: Social Design Initiative in Asia						
8. 取組学部・研究科等名 <small>(必要に応じ[]書きで課程区分を記入。複数の部局で合わせて取組を形成する場合は、全ての部局名を記入。大学全体の場合は全学と記入の上[]書きで全ての部局名を記入。)</small>	<small>学問分野</small>	○ 人社系 ○ 理工系 ○ 農学系 ○ 医歯薬系 ○ 看護・医療系 ● 全学 ○ その他					
	<small>実施対象(学部・大学院)</small>	○ 学部 ● 大学院 ○ 学部及び大学院					
全学[人文公共学府、専門法務研究科、教育学研究科、融合理工学府、園芸学研究科、医学薬学府、看護学研究科、大学院総合国際学位プログラム]							

9. 海外相手大学				
	国名	大学名(日本語)	大学名(英語)	部局名
1	中国	浙江大学	Zhejiang University	国際デザイン研究院
2	韓国	延世大学	Yonsei University	人文芸術大学デザイン芸術学部
3	タイ	マヒドン大学	Mahidol University	MUIC
4	タイ	キングモンクット工科大学トンブリ校	King Mongkut's University of Technology Thonburi	International Affairs Office
5	マレーシア	マレーシア工科大学	University Technology Malaysia	UTM International
6				
7				
8				
9				
10				

10. 連携して事業を行う機関(国内連携大学等)					
	大学等名	取組学部・研究科等名		大学等名	取組学部・研究科等名
1	芝浦工業大学	全学[大学院理工学研究科、デザイン工学部、工学部、システム理工学部、建築学部]	4		
2			5		
3			6		

(大学名:○千葉大学、芝浦工業大学) (タイプ (A①:CAプラス))

11. 「学校教育法施行規則」第172条の2第1項において「公表するものとする」とされた教育研究活動等の状況について、公表しているHPのURL

(千葉大学)
<https://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/teaching/index.html>

(芝浦工業大学)
<https://www.shibaura-it.ac.jp/about/info/>

12. 本事業経費 (単位:千円) ※千円未満は切り捨て

年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計	
事業規模 (総事業費)	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	90,000	
内訳	補助金申請額	15,800	14,220	12,798	11,518	10,366	64,702
	大学負担額	2,200	3,780	5,202	6,482	7,634	25,298

13. 本事業事務総括者部課の連絡先

部課名			所在地		
責任者	ふりがな (氏名)			(所属・職名)	
担当者	ふりがな (氏名)			(所属・職名)	
	電話番号			緊急連絡先	
	e-mail(主)			e-mail(副)	

(大学名:○千葉大学、芝浦工業大学) (タイプ (A①):CAプラス)

質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容【1ページ以内】

① 交流プログラムの目的・概要等

【交流プログラムの目的及び概要等】

本事業は、社会が抱えるさまざまな課題を、デザイン思考により解決することができるソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)人材を育成するものである。未来社会に存在する課題を解決できる人材育成のプログラムを、千葉大学と芝浦工業大学が連携し、両大学のグローバル・ネットワークのもとに構築する。千葉大学は、これまで旧日中韓(キャンパス・アジア)やキャンパス・アジア(モード2)において、工学・園芸・国際教養を中心として、未来にイノベーションを創出できる創造型人材の育成を行ってきており、これまでのプログラムの実績のもとに構築する。

本事業では、世界が抱える「厄介な社会の問題(Wicked Problem)」に対し、実際に現地に赴きその問題を理解し、多様で俯瞰的な解決策を提案し実現できる「ソーシャル・デザイン」に資する人材を育成するものである。ウィキッド課題とは、貧困や格差、過疎化、高齢化など、課題としては自明だが、その場所や地域に個別の対応が必要であり、これまでの一般的な方法での解決が不可能な問題である。このようなウィキッド課題を解決するためには、課題を「俯瞰的に第三者の視点から眺め、他の社会と比較する」ことにより、初めて課題の特徴を正しく理解することができる。その上で、その場所や地域で試行錯誤を繰り返すことにより適切な解を導き出すことが重要である。また本事業は、単に一大学が行うプログラムに留まらず、ウィキッドな社会課題に対する新しいデザイン教育システムを普及させるものであり、ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI-A: Social Design Initiative in Asia)と名づけ、日本初の新たなデザイン教育システムとして世界的普及を目指す。また、このようなウィキッド課題を修士・博士研究の一部としていき、学位審査には、連携大学教員が参加することにより、共同学位プログラムの設立に展開させる。

本事業の学生は、2カ所以上でウィキッド課題を実践する。1回の派遣期間は1ターム(2ヶ月)を想定しており、学生は選択したテーマに相応しい渡航先を2カ所選び、1タームの期間に2大学を巡る。それぞれの渡航先では毎週(週2回以上のインテンシブ形式)ディスカッションを実施する。各国の連携大学の教員のもと、連携大学の学生と共に課題を実施する。なお、現地においても、SDI-A連携大学群が提供するオンライン授業SDI科目を受講でき、学生にどこでも学習できる環境を提供する。採択後1年は、モード2の連携大学とエクセレント・モデルを構築し、2年目以降は、両校が既に交流実績のあるタイを中心にアセアンの協定大学へ拡大を図る。3年目以降は、ローカル教員、共通オンライン授業の提供、合同ミーティングへの参加を条件に、本イニシアティブの趣旨に賛同するアセアンの大学を積極的に新メンバーとして取込む。プログラムの特徴は、

1. ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)を副専攻として設置、参加者全員履修
2. 反復型デザイン思考で同じ課題を2箇所以上の地域や場所で学び学習の理解を深める
3. 今いるべき場所から学べるSDI科目のオンラインシステムの構築
4. 国内初 国立+私立共同プログラム、墨田キャンパス+芝浦・豊洲キャンパスの連携
5. 全巡廻型演習科目が企業や行政(地方自治体)と連携した実践型演習
6. アジア共通履修・学位システム構築のきっかけとなるイニシアティブ型プログラム

であり、送出、受入双方の大学で学習を相互認定し、共通の成績管理を実施、その結果、単位を付与することで、質保証の共通フレームワークを形成していく。さらに、この単位の取得により、副専攻の学位を授与し、高等教育制度の相違を解消する。学修成果は、デジタル・ポートフォリオで管理し、これらは、可視的なデザインされたポートフォリオとしてデジタル学位に付託させ流通させる。

【養成する人材像】

本プログラムは、全大学で、全学を対象に実施する。デザイン専攻の学生だけを対象にするのではなく、未来の課題解決に興味のある創造型人材をプログラムで育成する。本事業のように、異なる場所で同様の課題を何度も繰り返し、その社会に相応しい解を導き出す、高度な反復型デザイン思考で、ソーシャル・デザイナーを育成する。ソーシャル・デザイナーは、デザインを学習するのではなく、デザイン思考を通じて、課題を解決できる人材であり、デザイン以外の専門を学んでいる大学院生に副専攻の学位を取得させ、エンジニアでありソーシャル・デザイナーである創造型人材を育成し、未来の日本や世界が抱える「厄介な課題」を解決できる人材を目指す。


【本事業で計画している交流学生数】 各年度の派遣及び受入合計人数(交流期間、単位の取得の有無は問わない)

(単位:人)

2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
12	12	12	24	24	36	36	48	48	48

(大学名: 千葉大学)(タイプ A①: CAプラス)

② 事業の概念図 【1ページ以内】



ソーシャル・デザイン・イニシアティブ

SDI-A: Social Design Initiative in Asia

ウィキッドな社会課題を発見・解決できるソーシャル・イノベーション・デザイナー育成のための教育プログラム

1 副専攻SDI設置 全員履修

2 デザイン思考で巡廻型演習

3 SDIオンライン科目設置

同じ課題を異なる現地に向けて解決
場所や地域による異なる創造を提供

令和3年度(1年目)
モード2連携でエクセレントモデル構築

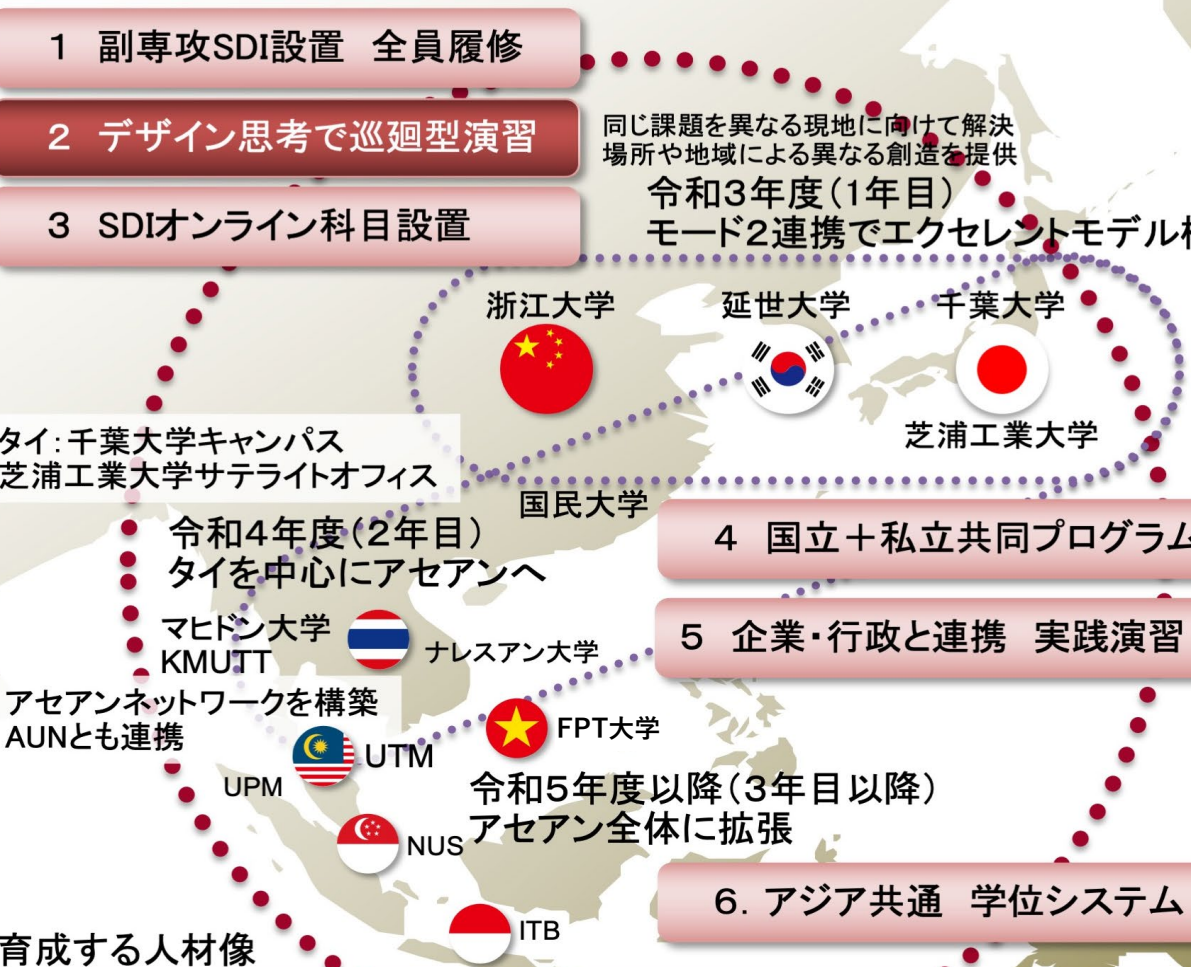
タイ: 千葉大学キャンパス
芝浦工業大学サテライトオフィス

令和4年度(2年目)
タイを中心にアセアンへ

マヒドン大学 KMUTT
アセアンネットワークを構築
AUNとも連携

UPM UTM
NUS
ITB

育成する人材像



浙江大学 延世大学 千葉大学
国民大学 芝浦工業大学

ナレスアン大学 FPT大学

4 国立+私立共同プログラム

5 企業・行政と連携 実践演習

6. アジア共通 学位システム

課題を何度も繰り返すその社会に相応しい解を導き出す
高度な反復型デザイン思考でソーシャル・デザイナーを育成

デザイナー: 何度も創造し発散と収斂を繰り返しながら最適解に近づく
SDI学生: 何度も同じ課題を繰り返す多様な解を提案しながら、最適解を提案する

巡廻型演習課題

(1)大企業課題 産地直送の加工品サービス	(4)地方創生課題 地方商業圏の衰退
(2)中小企業課題 伝統工芸とAI 高付加価値製造	(5)海外大学の企業課題 電気による移動体
(3)都市型行政課題 都市型商店街再生	(6)海外大学の行政課題 公共施設の未来

質の保証を伴った魅力的な大学間交流

- (1)連携校と共同で実施する受講学生の厳選な選考
- (2)副専攻「ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)」の履修
- (3)連携大学間共有によるSDI科目a群(オンライン科目群)の学修の質の向上
- (4)巡廻演習科目のプロセスと扱う課題の多様性
- (5)修士論文の発表会に連携大学の教員が外部審査員として参加 国際ネットワークの構築
- (6)ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)学位プログラムへの発展

(大学名: 千葉大学) (タイプ A①: CAプラス)

④ 交流プログラムの内容【4ページ以内】

【実績・準備状況】

①千葉大学の実績・準備状況

千葉大学は、平成23年度に国際化の方針を改訂し「グローバル・キャンパス・千葉大学」のもと、「世界を先導する教育・研究を促進する大学を目指し、グローバルな活動を推進する」ことを目標に掲げ、国際教育推進と国際研究推進を展開している。また令和2年度より学部・大学院生の全員留学を目指し、「千葉大学グローバル人材育成ENGINE」を始動し、留学プログラムの開発、留学支援体制の強化、留学中でも科目履修が継続できる教育環境整備等を行っている。また、キャンパス・アジアに先駆けて実施された、『日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人育成事業に、「植物環境デザインプログラム」が平成22年度に採択され、実施後プログラムは最終的に「S」評価を受け、優れたプログラムであるとの評価を得ることができた。その後、平成28年度に、『大学の世界展開力強化事業「キャンパス・アジア(タイプA-②)」』に「植物環境イノベーション・プログラム」が採択され5年間の実施後、令和2年度に終了している。本事業は、この「植物環境イノベーション・プログラム」の発展系であり、これまで培ってきた、デザインと工学・園芸・国際教養などの他部局との連携により、様々なサービスに関するイノベーションを創出できる創造型人材の育成をさらに拡張するものである。植物環境デザインプログラムは、デザインと園芸が連携した学内でも研究科を横断した初めての例であり、両方の専攻の学生に相乗効果が認められている。さらに、全学の学生を対象にプログラムを実施することにより、10学部13研究科の学生が参加した。この2つの成果より、デザインと連携したプログラムは、課題解決の提案を行う上ではとても有効であることがわかり、本事業の提案に至っている。

また、本事業の一番重要な、受講学生へのソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)の副専攻学位の付与については、千葉大学が大学院国際実践プログラムで実施している大学院マイナーの規程を適用することにより、学修の質保証も十分確保できる。

②キャンパス・アジア第2モードからの海外連携

今回の取り組みの主となる海外連携機関は、延世大学(韓国)、浙江大學(中国)であり、両大学とも「大学の世界展開力強化事業:植物環境イノベーション・プログラム(平成28年度採択)」の連携機関である。両大学ともデザインコースが中心となり、学術交流協定締結、学生交流協定締結、そして、ダブル・ディグリー・プログラムまで既に設置されており、仕組みとして、実質的な中身についても十分準備が整っている。中でも浙江大學で連携しているIDI(International Design Institute)は、浙江大學でダブル・メジャーも授与しており、これまで、毎年30人近い学生を2010年より輩出している。このような実績のもと、大学院でのマイナーの設置を検討している。

③国内連携大学

芝浦工業大学は、スーパーグローバル大学創成支援事業に私立理工系で唯一採択された工科系大学である。また、JASSOの協定等に基づく日本人学生派遣数日本第3位(令和元年度)であり、グローバル化を推進している大学である。千葉大学との連携は、2019年6月に大学間の包括的連携協定を締結しており、国際プログラムの共有などを通じ、互いの強みを生かしたグローバル人材育成で連携している。すでに第2モードの「植物環境イノベーション・プログラム」において、プログラムを相互共有することにより学生交流を図ってきたというエビデンスもある。また本取り組みの中心となるデザイン工学部は、平成21年に設置された国内でも新しいデザインスクールであり、メカトロニクス、ユーザー・エクスペリエンス・デザインなどの新領域を最初から授業に組み込んでおり、本事業に関連するデザイン・イノベーション・プログラムや、ソーシャル・デザイン・プログラムに積極的に取り組んでいる。そして、設置準備の段階から、本学デザインコースの教員や卒業生が深く関わっており、過去から今日まで、千葉大学のOBが7名、教員となっており、双方のプログラムを熟知している。このような、状況において、令和元年度から、グローバルプログラムの相互乗り入れも実施しており、今後も連携を強化する予定であった。そこで、本事業の可能性について討議し、承諾を得て現在に至っている。また、千葉大学と芝浦工業大学の海外協定校は、同一の大学も数多くあり、相互連携が容易であることも確認できている。

さらに、芝浦工業大学においても、大学院に技術経営副専攻プログラムが設置され、修了者に対して副専攻プログラム認定証書が発行される仕組みが構築されている。

④第3モードで新しく連携を拡大する海外連携大学の準備状況

2年目以降には、日中韓だけではなく、アジア・アセアンの大学と連携する。第一に、千葉大学のキャンパス、芝浦工業大学のサテライトオフィスのあるタイから連携を拡大する。千葉大学のキャンパスのあるマヒドン大学では、留学生・研究者の交流拠点となる海外キャンパスに、教員2名(日本人1名、現地1名)、現地スタッフ1名が常駐しており、毎年約100名以上の学生がプログラムに参加している。芝浦工業大学・千葉大学双方の協定校であるキングモンクット工科大学トンブリ校(KMUTT)には、芝浦工業大学のサテライトオフィス、千葉大学の国立六大学連携オフィスがあり、芝浦工業大学は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受ける前の2018年度には166名の学生を派遣し、151名のKMUTT生を受入れた。ナレスアン大学は、タイの唯一の公立大学(国立以外)であり、ユニークな大学である。この大学は、千葉大学の協定校であり、千葉大学のデザインで博士の学位を取得したOB2名が教員となっている。この3校を中心に展開する。また、タイ以外にも、マレーシア、インドネシア、シンガポールと連携して、多様な課題を現地で実施する。

【計画内容】

本事業、「SDI(ソーシャル・デザイン・イニシアティブ)」では、最先端のデザイン・イノベーションやデザイン思考を学ぶように教育内容を設定する。デザイン思考そのものは、近年創造型思考として数多く取り上げられているが、本プログラムでは、このデザイン思考の一番のプロセスである繰り返しによる創造を「場所や地域を変える」ことで実施することを一番の特徴とする。そこで、本事業では、同じ課題を場所や地域を変えて実施することを受講学生に課す。課題の選定は学生に自由に選択してもらうが、例えば、「地方創生」を課題とした場合、千葉沿岸部の地方創生、中国農村部の地方創生、韓国南西部の地方創生をテーマに地域を巡廻し課題を解決するプログラムを実施する。このような課題には、文理問わず参加が可能であるとともに、本来の専門領域(工学や社会政策など)に軸足を置きながら、異なる専門領域の学生と学びを深め、実施することが重要であり、そのためにも、全学の学生を対象に実施する。また、プログラムは、高度なデザイン思考を獲得するためにも、大学院を中心に実施する。

さらに、二番目の特徴として、本年4月より使用しているdri(デザイン・リサーチ・インスティテュート・墨田サテライトキャンパス)を本拠地として、千葉大学と芝浦工業大学が相互に利用する。このdriには、プロトタイプング・マシンや、VR/ARマシンが整備されており、この「未来をシミュレート」できる環境を用いて、巡廻して提案したアイデアについて、実現可能性を探ることを二番目の特徴とする。先端技術で、創造したものやことについてシミュレーションが簡便になったことで、デザイン思考で自由に創造したものの実現可能性を検討できることも簡単になっており、本来のデザイン業務では、最先端のデザインプロセスとして、シミュレーションは必須となっている。もちろん、連携する海外の大学においてもこのような「未来をシミュレート」できる環境があれば現地で実施する。

このように、従来のデザイン思考に、「場所や地域を変える」「未来をシミュレート」をプラスし、「ソーシャル・デザイン・イニシアティブ」を実践する。

■本事業における6つの特徴

本事業では、上記の「場所や地域を変える」「未来をシミュレート」で、ソーシャル・デザイン・イニシアティブを実現させるために、以下の6つの特徴を持ってプログラムを実現する。

1. ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)を副専攻として設置、参加者全員履修

(iii) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の履修課程

本プログラムでは、修士課程(博士前期課程)を対象に、ソーシャル・デザイン・イニシアティブのプログラムを実施する。受講する学生は、千葉大学から副専攻の学位を付与する。現在実施している大学院副専攻プログラムは、千葉大学は国際実践学位プログラム、芝浦工業大学は技術経営副専攻プログラムが存在している。これらに新たに、「ソーシャル・デザイン・イニシアティブ副専攻」を設置し履修してもらう。

本プログラムは、これまでのモード2とは異なり、体系的にプログラムを履修させる。そのため、受講生の募集は、副専攻学位を取得する学生を対象とする。対象学生は、全学の学生であり、広くさまざまな専攻からの学生を受け入れる。そのために、履修に関する説明会やプログラムの成果発表会を年2回以上実施しプログラムを学内に周知させ実施する。モード2の全学型での成功例をもとに、留学説明会での参加の案内や、参加が多かった専攻や研究科に対してガイダンスを実施し、全学の学生で展開していく。

SDI科目や、日本での巡廻型演習科目は、千葉大学と芝浦工業大学が共同で実施する。学修保証としては、SDI科目4単位、巡廻型演習科目4単位の合計8単位で、副専攻を履修できるようにする。SDI科目は、巡廻型演習科目の最終プレゼンテーションに必要なシミュレーション、モデリング、VR/AR科目である。

履修の詳細は後述するが、このように、SDI科目と巡廻型演習科目をフィフティ・フィフティで構成した履修課程で副専攻「ソーシャル・デザイン・イニシアティブ」を取得させるのが一番の特徴である。

なお、海外の協定校の学生も可能な限り副専攻の履修を前提とする。韓国、中国等で副専攻の設置が難しい場合は、千葉大学の副専攻の学位を取得することも可能である。



図1 本事業の6つの特徴

2. 反復型デザイン思考で同じ課題を2箇所以上の地域や場所で巡廻学習し学びの理解を深める

(i) 実渡航による交流

履修課程の半分を占める巡廻型演習科目は、自国を含めて2箇所以上で実施する。日本人には、1年目は、中国、韓国の2カ国で、2年目以降は、タイ、マレーシア、インドネシア、シンガポール、ベトナムを含めた7カ国を対象として巡廻する。日本の学生は、自国で同じ課題を実施した場合は、+2カ国で、合計3箇所での巡廻型実習を実施する。巡廻型実習のプロセスは以下のように4つのプロセスにより構成する。

(1) 連携大学間の課題の選定 まず、日本国内および海外の連携大学と教員間のミーティングを実施し、ウィキッド課題を設定する。連携大学から各校が2課題程度、初年度は3カ国4校8課題、2年目以降は8カ国14校14~20課題を設定する。これらの課題は、自国の抱える課題を中心に提案し、教員間で討議し共通の課題を見つける。最終的には、共通課題を毎年4~10課題設定する。この課題は、課題主担当大学を設定し、その大学が課題全体をオブザーブする。課題としては、「コミュニティの形成、住環境の課題、交通システム、働き方改革」など多種多様なものを想定している。

本事業では、可能なかぎり、企業や自治体を課題スポンサーとして招聘する。これは、実践的なプログラムを実施するとともに、企業や自治体の担当者をクライアントとし、課題解決のプレゼンテーションを行うためである。さらには、研究に対する資金提供もしてもらい、事業終了後の自走化のための資金とする。

(2) 学生による課題の選定と自国でのフィージビリティ・スタディ 上記で設定したウィキッド課題から、学生自ら取り組むべき課題を選び、国内外で共通課題に対応するチームを構築する。海外の連携校とグローバル・チームを構築する。チーム編成としては、最大12名程度を想定する。チームは、課題スポンサーの企業や自治体をはじめ、さまざまな、企業、公共団体、民間団体、NPO、NGOなどに調査を行い、フィージビリティ・スタディを実施する。並行して、予備知識を形成するために文献調査や他のフィールド調査を実施する。

(3) 自らの課題を俯瞰的に正しく理解するための海外2箇所での課題実施

学生は自らの課題に相応しい渡航先を2箇所を選び、1ターム(2箇月)の期間に2箇所を巡り、各国の連携大学の教員の指導の下、自らの課題を実施する。必ず週に2回以上現地の教員とのディスカッションを行う。現地の学生、連携大学から渡航してきた学生と共に、それぞれが抱えている課題を共有し、進捗状況の確認、今後の進め方についてディスカッションを実施する。なお、課題に対する提案は必ず現地で実施し、完結させる。

(4) driで提案のまとめとシミュレーションの実施

帰国後に、日本(海外の学生は自国)のにおける同一の課題についての提案も実施する。この3つの提案について再検討し、それぞれの提案の精度を高めていく。ただし本事業が取り組む課題は、論理的な思考により導かれる一般的な解ではなく、創造的でありながら実施可能な提案であることを望んでいる。そこで、提案をもとに、シミュレーションを実施し、その実現可能性についての評価をする。その結果を含め、課題スポンサーにプレゼンテーションを行い、課題を終了する。

以上のように巡廻型演習を行う。

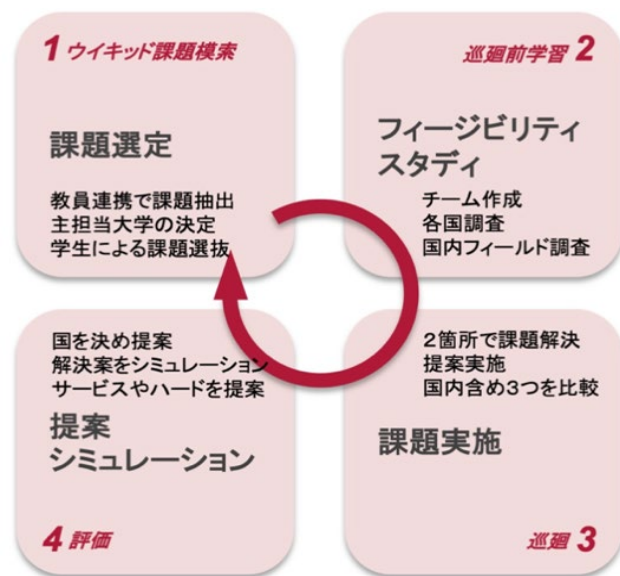


図2 巡廻型演習の実施プロセス

3. 今いるべき場所から学べるSDI科目のオンラインシステムの構築

(ii) オンライン交流

コロナ禍においても初年度の授業を推進するため、履修の半分を占めるSDI科目についてはオンラインで実施する。このオンライン授業は、コロナ後にはどこでも学べるスマート・ラーニングとして継続実施する。その第一の目的は、巡廻型演習として留学している際の受講である。先方の大学での演習スケジュールや、課題スポンサーの現地企業や自治体のスケジュールに合わせて実施することが想定される。そのため、それ以外の課題学生がどこにいても受講できるように、オンライン授業とする。

千葉大学のdriと芝浦工業大学の芝浦および豊洲キャンパスは、1時間以内の移動が可能であるが、他のキャンパス、千葉大学・西千葉、芝浦工業大学・東大宮などに在籍する学生がオンラインで参加することが可能であり、学生の移動を最小限にすることができる。すでに、コロナによりオンラインを巧みに利用できる環境が整っており、十分に対応可能である。

オンライン授業を構成するSDI科目は、基本的にソーシャル・デザインに必要な分析手法やデータ・サイエンス、さらにはシミュレーションに必要な、モデリング手法やVR/AR手法である。したがって、これらのSDI科目は、巡廻型演習科目を実施するために必要な科目である。

初期は、千葉大学から6単位(6科目)、芝浦工業大学の技術系副専攻プログラムから2単位(1科目)の科目の提供を行い、8単位の科目を実施する。オンラインは、同時双方向形式で行い、現地での演習を阻害しないように、午前中、夕刻など、あらかじめ時間帯を設定する方法や、週末に実施する方法をとる。

また、対面式にするため、巡廻型演習で海外に留学している学生の生活、健康の確認も可能であり、危機管理の役割も兼ねる。

4. 国内初 国立+私立共同プログラム、墨田キャンパス+芝浦・豊洲キャンパスの連携

(iii) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の履修課程

本事業は、千葉大学、芝浦工業大学ともに、初めて国私の連携で世界展開力強化事業に申請する。他の大学でも国私

の連携はあったが、両方の大学が全学での連携は初めてである。千葉大学は13研究科、芝浦工業大学は1研究科8専攻(修士課程)を有している。プログラムの運営は、千葉大学のデザイン系教員driと、芝浦工業大学のデザイン工学系の教員が丸となりプログラムを運営する。プログラムの拠点としては、dri墨田サテライトキャンパスとする。日本国内における巡廻型演習は、千葉大学に課題責任がある場合は、dri墨田サテライトキャンパスで実施し、芝浦工業大学に課題責任がある場合は、芝浦・豊洲キャンパスあるいは地域連携拠点として開設しているすみだテクノプラザで実施する。同様に、SDI科目も、それぞれのキャンパスで実施する。

千葉大学のdri墨田サテライトキャンパスは、令和3年4月より使用が始まった。このキャンパスは、「生活の全てをシミュレートする」というスローガンのもと、さまざまなシミュレーション設備が整っている。生活のプライベート空間としての、リビングやキッチンからダイニング、ベッドルームまでシミュレーションが可能であるとともに、大規模な空間があり、ショッピングモール、店舗、建物に関するシミュレーションも可能である。また、VR/ARも完備されており、空間を含めたシミュレーションが可能となっている。

このように、東京の中心地に位置するキャンパスを中心に、千葉・埼玉のキャンパスも利用してプログラムを実施する。

5. 全巡廻型演習科目が企業や行政(地方自治体)と連携した実践型演習

(i) 実渡航による交流

巡廻型演習科目は、課題スポンサーの企業や自治体から、多様な課題を受け入れる。社会性の高いウィキッド課題を中心に実施する。日本で実施する具体的な例としては、

(1) 大企業課題 千葉大学や芝浦工業大学が連携する製造業・建設業からの課題

(2) 中小企業課題 driの位置する墨田区は伝統工芸を含めた中小企業が数多く存在し課題も多い

(3) 都市型行政課題 driの位置する墨田区や芝浦工業大学の豊洲キャンパスが位置する江東区の課題

(4) 地方創生課題 千葉大学のある千葉県沿岸部の課題 芝浦工業大学のある埼玉県山間部の課題

など、両方の大学やキャンパスネットワークだけでもこれだけの対象がある。これを、日本国内ばかりではなく、海外の大学にも課題スポンサーと提携してもらい課題を推進する。

6. アジア共通履修・学位システム構築のきっかけとなるイニシアティブ型プログラム

(i) 実渡航による交流

モード2では、すでに、千葉大学—浙江大学で3つのダブル・ディグリー、千葉大学—延世大学でダブル・ディグリー設置予定となっている。これらを拡張し、さらに、プログラムの国際通用性を高める。千葉大学では、2年目以降に拡張する複数の大学とダブル・ディグリーを設置している。芝浦工業大学では、タイやインドネシアと留学の共同プログラムを実施している。このような、成果をもとに、国際通用性のある副専攻「ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)」を設置し、8つの国や地域で広げていく。この副専攻をグッドプラクティスモデルとして展開し、アジア共通履修及び・学位システムへとつなげる。

⑤ 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成【4ページ以内】

【実績・準備状況】

モード2から連携している、浙江大学・延世大学は、IAUのWHEDの認定を受けている。また、浙江大学とはIDI（インターナショナル・デザイン・インスティテュート）の開設時の2010年より強力な連携を実施しており、相互にプログラムを提供している。学生の交流だけではなく、教育・研究における教員の交流も活発であり、コロナ前は年間10名以上の教員の派遣・受入がある。一方、延世大学とはモード2開始後の2016年より活発に交流をしており、こちらも年間10名以上の教員の派遣・受入がある。

さらに、2年目以降に連携する大学は、旧日中韓キャンパス・アジアの時代に連携の拡張が認められた大学であり、マヒドン大学、KMUTT、ナレスアン大学（以上タイ）、マレーシア工科大学、UPM（マレーシア）、バンドン工科大学、スラバヤ工科大学（インドネシア）、シンガポール国立大学、なども全て認定を受けている。浙江大学、ナレスアン大学、UPM、バンドン工科大学には、千葉大学で博士の学位を取得した教員が多数在籍している。KMUTTの教員は現在博士課程に在籍している。このように、教員の連携も十分である。

芝浦工業大学は、特に2年目以降に交流が予定されているアセアン地域の大学との交流に強みを持っている。交換留学はもちろん、芝浦工業大学の取組の特色でもあるグローバルPBLは、コロナ禍の影響を受けた令和元年度においても81件実施されたが、その多くはアセアン地域の大学と共同で実施したものである。また、東南アジア5カ国8校の工科系大学との人材交流・研究交流を目的とした「South East Asia Technical University Consortium (SEATUC)」を2006年から運営している。研究指導も含めた交換留学、共同研究などがこの枠組みの中で行われ、芝浦工業大学で学んだ学生が母校に教員として戻るなどの人的交流が機能している。その他、アジア理工系大学のアライアンスであるATU-Net (Asia Technology Universities Network、約40大学が加盟)に日本で唯一加盟している大学でもある。当事業をアセアン諸国に展開していく場合のネットワークは十分に保持している。その他、本事業1年目に予定されている中韓両国の大学との交流については、事業の取組の中心となるデザイン工学部が、韓国・国民大学とダブルディグリーの協定を結んでいる。他にも蔚山大学、蔚山科学技術大学校などもグローバルPBLや交換留学の実績も持つなど、韓国における教育交流の足掛かりを有している。

これらの連携大学とは大学間交流協定、学生交流協定を既に締結しており、今後も本事業で連携する大学とは、大学間交流協定、学生交流協定の締結を前提に進める。これにより、全ての授業について単位互換が可能となるとともに、平成27年度に全ての授業について行われた科目ナンバリング、カリキュラムマップに従い、ラーニング・アグリーメントのもと事前に十分に授業やプログラムを検討し、派遣・受入を実施する。

一方、千葉大学は、これまでに獲得した大学の世界展開力強化事業を学内で継続的な仕組みとして質の保証を伴い維持する方法として「大学院国際実践プログラム」副専攻学位プログラムを設置運営している。これには、大陸間デザイン教育、ポスト・アーバン・リビング・イノベーションなどの7プログラムが設置されている。大学院国際実践プログラムでは、指定された科目群から大学院課程の修了要件外の単位を8単位取得することで、授与する。さらには、現在のようなコロナ禍においても十分に対応できている、スマート・ラーニングの推進を平成30年度より行なっている。これは、留学の推進を積極的に展開する過程で生まれたどこでも学習できる環境を提供するもので、メディア学習と双方向通信学習及びチュートリアルの全てを利用した学習プログラムであり、多くの授業がこのような形態で提供できるようになっている。本事業において、適切なタイミングで柔軟に海外に渡航できることが鍵となるが、千葉大学で平成28年度からターム制（6ターム制）を導入しており、1ターム（8週間）完結の科目設定を可能にするなど、教育の質的改善を図るとともに、ギャップタームを創出することにより、より柔軟な留学を実施することが可能となっている。

■ダブル・ディグリー・プログラムの現状

キャンパス・アジア第2モードの提携校である、浙江大学、延世大学とは中央教育審議会のガイドラインに準拠したダブル・ディグリー・プログラムを既に設置しており、単位互換について国内の他大学からの編入学生などと同様、厳正なプロセスに従って審査を行っている。さらに千葉大学を含め、それぞれの大学に同じタイトルの授業群を設け、よりスムーズに単位互換ができるよう整備を行っている。

第3モードの提携校については、タイを中心に拡大を計画しており、千葉大学は平成29年9月19日に、マヒドン大学との連携によりバンコクのマヒドン大学キャンパス内に新たなキャンパスを設置している。また令和2年度より千葉大学グローバル人材育成プラン“ENGINE (Enhanced Network for Global Innovative Education)”が始動され、令和2年度入学者から学部・大学院生の全員留学を目指しており、マヒドン大学は留学先の重要な戦略的拠点として位置付けられている。具体的には、今後年間600人の学生を派遣、現地で400人の外国人学生の受入を行い、現地での学びを推進する予定である。

【計画内容】

本事業では、大学院修士課程(博士前期課程)を対象とし、履修を修了した学生に対して、**副専攻学位「ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)」を付与**する。このように、プログラムとしては学位に次ぐ証明証を発行することを目標としシステムを構築していく。

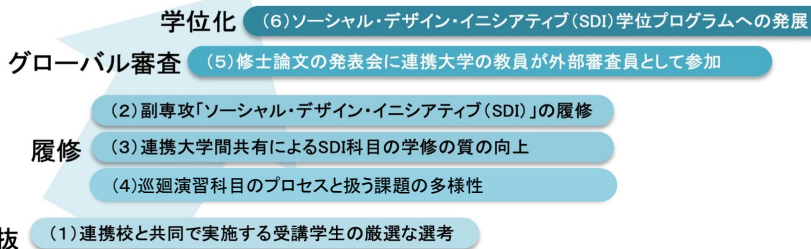


図3 プログラムの質保証とその発展

以下に、履修のプロセスに沿って、本プログラムの質保証の特徴について述べる。

(1) 連携校と共同で実施する受講学生の厳選な選考

全学に向けて、**ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)についての説明会を開催し、徹底した周知**を図り参加学生の募集を行う。応募時に、取組みたい課題、渡航計画、意気込みなどを含んだ応募書類を提出させ、その後、応募書類、面接により参加学生の選考を行う。選考は事業責任者および関係教員が参加し行う。当初はそれぞれの大学で選考を行うが、**将来的には年に2回、オンラインによるイニシアティブ参加大学合同選考会**の開催を計画する。

これらの選考を通じて、より**モチベーションの高い学生をリクルート**する目的もちろんあるが、それ以上に、選考により各学生の中に、**取組む覚悟が醸成される**ことを期待している。またこれらの選考、面接のプロセスをオープンにすることにより、**将来参加する学生のモチベーションを高め、プロジェクトのプロモーションに繋がると**考えている。

(2) 副専攻「ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)」の履修

本事業では、ソーシャル・デザインに関するSDI科目1~4を新たに設置する。さらに、巡廻型演習科目群として、PBL科目群として、**SDIAリサーチ1、2、SDIAプロジェクト1、2、の4つを設置**する。この8つを履修すれば、副専攻「ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)」を獲得できる。

また、以上の8つの科目に加え、これまで**千葉大学で大学院に設置した他の大学院国際実践プログラムの科目からも最大4単位まで履修**することができる。右にCAPEキャンパス・アジアのモード2、PULIポスト・アーバン・リビング・イノベーション(中南米との世界展開力強化事業)、CODE大陸間デザインプログラム(米国等との世界展開力強化事業)、の科目の一部を示す。

さらには、**芝浦工業大学の技術経営副専攻プログラムの大学院の共通科目からも履修が可能**である。これらは半数以上の科目が英語で実施されているものであり、海外の学生も履修が可能である。

このような科目「**ソーシャル・デザイン**」の学びを深めるための履修を行い、副専攻「**ソーシャル・デザイン**」を設置する。

表1 ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)科目

No	科目群	科目	選択必修	単位	概要
1	SDI科目	ソーシャル・デザイン 1	選択	1	ソーシャル・デザインのエクセレント・ケースを、ユーザー中心にバックキャストし、その設計法を理解する。
2		ソーシャル・デザイン 2	選択	1	ユーザーのモデリング法を用いて新たなサービスを提案する。新たなサービスを創造する。
3		ソーシャル・デザイン 3	選択	1	技術革新型のエクセレント・イノベーションのケースを学び、テクノロジーの構造化手法を取得する。
4		ソーシャル・デザイン 4	選択	1	シナリオ・ライティングなどにより、未来を創造し、新たなサービスを提案する。
5	巡廻型演習科目	SDIAリサーチ 1	必修	1	ソーシャル・デザインを実践学習するために、ユーザー評価手法を学び、新たなサービスの評価を行う。
6		SDIAリサーチ 2	必修	1	ソーシャル・デザインの、システムの構造化手法を学び、実システムでシミュレーションを行う。
7		SDIA プロジェクト1	必修	1	サービスの構造やインターフェイスをデザインし、シミュレーションにより評価する。
8		SDIA プロジェクト2	必修	1	サービスとプロダクトの両方を、ラビッド・プロトタイピングで、パーソナル・シミュレーションする。

表2 千葉大学の大学院国際実践プログラムの科目

No	プログラム	科目	単位	概要
1	CAPE CA モード2	デザインシンキング基礎	1	一般的なデザインシンキングの方法である、発散と収斂によるアイデア創造の方法を学ぶ。
2		インクルーシブビジネス基礎	1	参加型のデザインについて学び、インクルーシブ・デザインの重要性について理解する。
3		フードシステムサービスデザイン基礎	2	農業の六次産業化を具体例に、製造からネット利用に至るまでの、サービス・システムについて学ぶ。
4	PULI リビング・イノベーション 中南米	グローバル ビジネス プランニング リーダー1	2	環境とデザインの視点から、社会に貢献できる、環境ビジネスについて企画する。
5		グローバル テクノロジー デvelopメントリーダー1	2	環境とデザインの視点から、社会に貢献できる、環境ビジネスの技術的課題を学ぶ。
6		グローバル オペレーション リーダー1	2	社会参加型のデザインにおいて、どのように地域に還元していくかのプロセスから実践方法を学ぶ。
7		グローバル セールス リーダー1	2	社会課題を主に扱った、環境に貢献する成果を、どのように他の地域に展開していくかについて学ぶ。
8	CODE 大陸間デザイン	グローバル デザイン スタジオワーク 5	2	世界共通の課題について、それらを発見し、デザインによってどのように解決するかについて学ぶ。
9		グローバル デザイン スタジオワーク 6	2	地域性の強い課題について、それらを他の地域と比較しデザインによってどのように解決するかについて学ぶ。
10		グローバル デザイン プロジェクト 5	2	実際にデザインする現地に赴き、社会的な課題について、デザインによる解決法を提案する。
11		グローバル デザイン プロジェクト 6	2	実際にデザインする現地に赴き、ビジネスにおける課題について、デザインによる解決法を提案する。

巡廻型演習科目群について 表3 芝浦工業大学の技術経営副専攻科目

は、学生ごとに、各テーマに最も相応しい教員がメインメンターとなり、常にプロジェクトの進捗管理、教育指導を行う。また全ての巡廻型演習科目群は、中間発表、最終発表を必ず設け、発表会にはSDI-Aに関係する教員全員が参加し、厳正な成績評価を行う。

(3) 連携大学間共有によるSDI科目群(オンライン科目群)の学修の質の向上

SDI科目(オンライン科目)の学修成果を向上させるために、SDI科目はオープンソースとして提供する。連携大学内の学生・教員が誰でも参加できるシステム上で授業を実施、参加する学生・教員が相互に刺激することにより、質を向上させる。科目としては、デザイン思考やデザイン・イノベーションを実現させるためのスキル形成の科目である。

No	科目	単位	概要
1	技術経営副専攻プログラム マーケティング特論	2	マーケティングの基礎知識から最新のデジタルマーケティングまで幅広く学び、実践力を身につける。
2	イノベーション・マネジメント論	2	イノベーションの定義、歴史、代表的な理論・フレームワークを学び、実社会への応用につなげる。
3	研究・開発と知的財産	2	特許権、著作権、意匠権、営業秘密などについての基本知識と、事業において活用するためのマネジメントスキルを習得し、これら知的財産を研究や開発の現場で活用できるようにする。
4	生産マネジメント特論	2	生産マネジメントの方法論、成功・失敗事例、製造業のサービス化、デジタルトランスフォーメーション、サービス産業の生産性向上について学ぶ。
5	Introduction to Management for Engineers	2	マネジメント、組織の理解を深め、効果的に人や組織を管理する知識、スキル、および能力の開発に関連する理論、研究、政策、実践を学ぶ。
6	International Marketing	2	営業・マーケティング、製造、商品開発など、ビジネスプロセスの観点から、主にグローバルな大企業を対象として幅広い内容を学ぶ。
7	Management of Innovation	2	イノベーションの概念を社会、経済、企業経営、技術開発などの観点から理解し、実際の事業戦略策定と実践に応用する知識を学ぶ。
8	Management of Intellectual Property	2	エンジニアや科学者が研究開発の各段階で直面する重要な戦略的意思決定を検討し、無形財産権を理解し、研究成果を効果的に管理する能力を身につける。
9	International Production Management	2	多様な産業や企業において取り組まれているプロダクションマネジメントについて学び、改善、標準化、プロジェクトマネジメントに基づく協働を体得する。
10	Global Engineering Management	2	最新の技術開発や今後の技術経営の取組を学ぶとともに、技術の進展により社会がどのような発展を遂げているのかを学ぶ。
11	Global Internship	2	自分の研究に関連した内容で、海外の企業、大学、公的研究機関での技術研修を自主的に企画し、提案する。
12	Intensive Workshop	2	研究内容、社会貢献についてプレゼンテーションを行い、質疑応答及び討論を実施する。

オンラインに参加する前に、事前にメディアで予習をし、オンラインでは、ディスカッションを中心にグループでの討議を行う。双方向だけではなく、多元方向で授業を実施、オンラインでフリップティーチングを実現させ、学修の質を向上させる。

このオンラインで実施することには2つのメリットがある。

○オンラインのメリット1

学生の渡航時期によっては、通常の開講時期(ターム1・2、4・5)と重なるため、学生がどこにいても受講できるように、SDI科目群を用意する。初期は主連携4大学それぞれから2科目の提供を行ってもらい、最終的には、16単位のSDI科目群をラインナップする。

○オンラインのメリット2

参加大学における時差2時間以内というメリットを生かし、このようなフリップティーチング型のオンラインを実施する。これは、千葉大学がこれまで行ってきたCOILを応用するもので、メディアを利用した事前学修、学生からのプレゼンテーションとディスカッション(フリップティーチング部分)、学生同志のディスカッション(スチューデント・チュートリアル)を1/3でブレンドした形態で進めているCOIL授業をベースに実施する。

なお、これらのオンライン授業は、渡航先の学生の生活状況、健康状態、精神状態を確認することも可能であり、危機管理にも役立つ。

(4) 巡廻型演習科目のプロセスと扱う課題の多様性

巡廻型演習科目の課題内容についてはその多様性を戦略的に維持していく。課題は大きく6つに分類される。

(1)～(4)は国内で提案する課題であり、(5)～(6)は海外大学から提案される課題である。それぞれに現時点で総て可能な課題のテーマをあげる。

(1) 大企業課題 千葉大学や芝浦工業大学が連携する製造業・建設業からの課題

産地直送の加工品サービス 未来の快適な家を作る 水素社会

(2) 中小企業課題 driの位置する墨田区は伝統工芸を含めた中小企業が数多く存在し課題も多い

伝統工芸とAI 加工技術の海外展開の方法 高付加価値製造

(3) 都市型行政課題 driの位置する墨田区や芝浦工業大学の豊洲キャンパスが位置する江東区の課題

密集地帯における都市型商店街再生

(4) 地方創生課題 千葉大学のある千葉県沿岸部の課題 芝浦工業大学のある埼玉県山間部の課題

地方商業圏の衰退

(5) 海外大学の企業課題 海外大学の位置する地元の企業からの課題 企業のサイズは多様

LEDの未来 電気による移動体

(6) 海外大学の行政課題 海外大学の位置する地域の行政課題 都市型・地方型は大学に依存

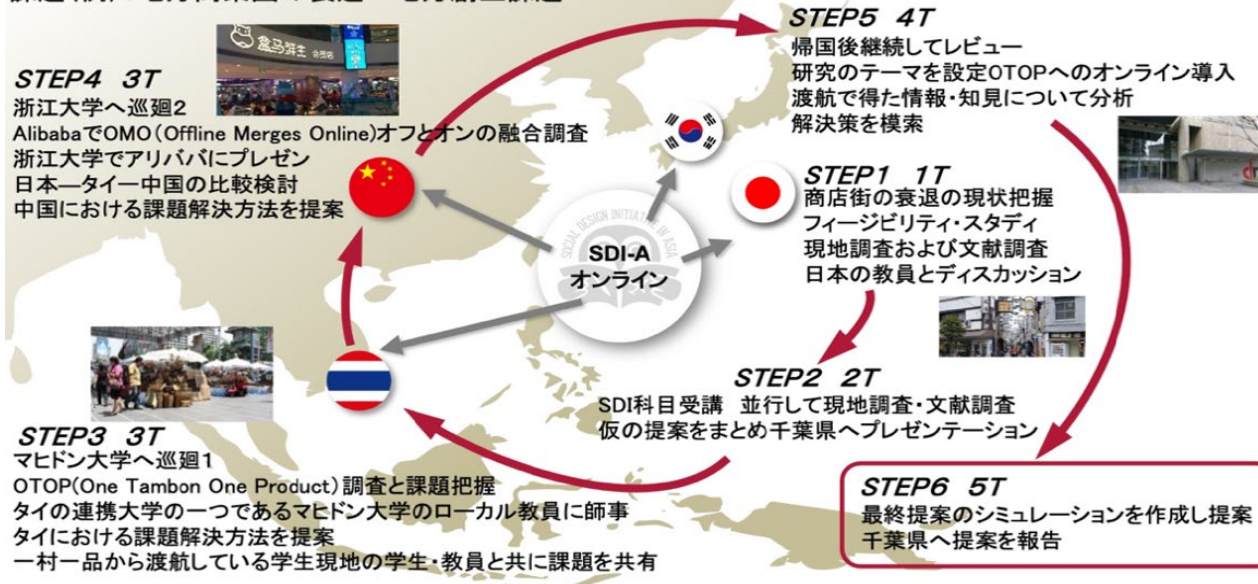
観光産業の新たなランドスケープ 地方の持つ公共施設の未来

などである。もちろん、分類されたものが融合する場合もある。右及び下に、巡廻型演習科目のプロセスを示す。このように、**同じ課題を日本—タイ—中国で実施し日本で最終まとめを実施**、合計4回以上の提案を行うことで、**多様な視点を身につける**ことができ、**ウィット課題への多様な解**提案できる。

課題：地方商業圏の衰退—地方創生課題
STEP1 1T 日本で商店街の衰退の現状についてフィジビリティ・スタディ 現地調査および文献調査 日本の大学の教員とディスカッション
STEP2 2T SDI 科目受講 並行して現地調査および文献調査 「**仮の提案をまとめ千葉県へプレゼンテーション(提案1)**」
STEP3 3T マヒドン大学へ巡廻1 OTOP(One Tambon One Product)調査と課題把握 タイの連携大学の一つであるマヒドン大学のローカル教員を訪れ、一村一品から渡航している学生、現地の学生・教員と共に課題を共有 「**タイにおける課題解決方法を提案(提案2)**」
STEP4 3T 浙江大学へ巡廻2 AlibabaでOMO(Offline Merges Online)オフとオンの融合調査 浙江大学でアリババにプレゼン 日本—タイ—中国の比較検討 「**中国における課題解決方法を提案(提案3)**」
STEP5 4T 帰国後継続してレビュー 研究のテーマを設定 OTOP へのオンライン導入 渡航で得た情報、知見について分析を行い、解決策を模索
STEP6 5T 最終提案のシミュレーションを作成し提案 「**千葉県へ提案を報告(提案4)**」

図4 巡廻型演習科目のプロセス

課題(例)：地方商業圏の衰退—地方創生課題



(5) 修士論文の発表会に連携大学の教員が外部審査員として参加 国際ネットワークの構築

SDI-Aを専攻している学生が、SDI-Aのテーマをそのまま修士の研究に拡張させ、自己の専攻で研究発表素する場合は、連携大学の教員が外部審査員として参加することを推奨する。これにより、学位の質を高めることはもちろんのこと、**審査システムについてもグローバルに通用**するものとなる。

このように**連携大学の教員が外部審査員として参加**することにより、**将来の共同学位設立の足掛かり**とする。また、連携大学の教員が外部審査委員として入ることにより、発表・審査が英語で行われるため、無理のない自然な英語コミュニケーション環境が整うことになる。

本事業の中心となる千葉大学、芝浦工業大学は、ほとんどの連携予定大学とは、既に大学間交流協定、学生交流協定を締結しており、本事業の実施には特に問題は生じないが、本事業は連携大学がネットワーク的に拡大していくため、新しい大学が参加する度に既に連携している大学全てとそれぞれ異なるひな型で協定を締結するのは非現実的であり、そのための新たな包括連携制度を確立する必要がある。またその設立にあたり、参加大学に求められる要件も、既に連携済みの大学と協議のもと決定する必要があり、そのことが最終的にはプログラムの質の保証に繋がり、またこの包括連携制度が新たな教育システムとして、多くの国に導入されるように構築する。

(6) ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI) 学位プログラムへの発展

ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)は、本プログラムでは副専攻となる。**将来的には、メジャーも設定し**、学位プログラムとして設置することを検討する。そのためには、今回設定している8科目だけでは不十分であり、他の大学の単位を認定するシステムが必要となる。

本事業は、これまで、ダブル・ディグリーやジョイント・ディグリーを目指してきている、3つ目のディグリーのシステムとして、**インターナショナル学位プログラム**を提案していく。現在は、学内での兼担だけとなるが、たとえば、国内・海外の連携教員を相互にクロス・アポイントメントし、学位プログラムへのエフォートを管理する。さらに、連携大学の単位を修了要件に認定する上限をジョイント・ディグリーのように柔軟性を持たせることで、**新たなインターナショナル学位プログラムを設置**できると考えている。このような、新しい国際的な枠組みを提案し、第3モードの成果としたい。

以上のようなステップで構築し、プログラムを運営実施していく。

(大学名： 千葉大学)(タイプ A①： CAプラス)

達成目標【①～④合わせて7ページ以内】

① 将来の関係を見据えた連携強化に資する目標について

(i) 事業計画全体の達成目標(事業開始～2025年度まで)

事業計画全体における達成目標は、6つの特徴で設定することができる。この6つの特徴における、定量的目標・定性的目標を以下のように設定する。

1. ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)を副専攻として設置, 参加者全員履修

定量的目標	質保証(1)連携校と共同で実施する受講学生の厳選な選考の実行による履修学生の選抜 最終的に日中韓4校+アセアン等10校の14校でプログラム実施
定性的目標	令和3年度派遣受入各12名で開始し最終令和7年度派遣受入各48名を実現

2. 反復型デザイン思考で同じ課題を2箇所以上の地域や場所で学習し、学び・学習の理解を深める

定量的目標	課題の多様性を確保 企業スポンサーの確定
定性的目標	墨田区・千葉県との継続的な連携確保 他の行政との連携

定性的目標	年間8課題以上の恒常的な設定 課題定員12名を実現し少人数で循環型課題を遂行
-------	----------------------------------------

3. 今いるべき場所から学べるSDI科目のオンラインシステムの構築

定量的目標	メディア予習+リアルタイムオンライン+オンラインチュートリアル+プレゼンテーション+復習 のオンラインフリップティーチングを実施 主催学校を変えながら実施
定性的目標	4科目の継続的实施

4. 国内初 国立+私立共同プログラム, 墨田キャンパス+芝浦・豊洲キャンパスの連携

定量的目標	driで24時間プログラムを稼働 時差を感じさせない授業実施
定性的目標	国立+私立の垣根を超えて学生が自由に集うスタジオとシミュレーション・ラボを設置

定性的目標	年間12名以上の学生を選抜 全学の半分以上の専攻の学生が参加
-------	--------------------------------

5. 全巡廻型演習科目が企業や行政(地方自治体)と連携した実践型演習

定量的目標	中小企業との連携課題 大企業の次世代型課題 地域密着型課題を提案実施
定性的目標	年間4課題は社会性の高い現実的な課題をテーマに実施

6. アジア共通履修・学位システム構築のきっかけとなるイニシアティブ型プログラム

定量的目標	学生のモビリティの確保のためのタームシステムの普及
定性的目標	交流協定の枠組みを超えた多様性のある大学間の連携

定性的目標	ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)学位プログラム設置
定性的目標	4つのダブル・ディグリー・プログラム設置

プログラムの中で最重要であるのは、「巡廻型演習科目」の設置と運営である。従って、上記のように、事業計画全体の全てがこの巡廻型演習科目と関連して目標を達成している。そしてもう一つの目標である、「アジア共通履修・学位システム構築」は、目標の6番目のように、これまでの大学間の交流協定をwebのようにネットワークされた大学での履修や単位認定を自由に行き来できるようにすることが重要である。

(ii) 中間評価までの達成目標(事業開始～2022年度まで)

中間評価までの達成目標についても、6つの特徴で設定する。この6つの特徴における、中間評価までの定量的目標・定性的目標を以下のように設定する。

1. ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)を副専攻として設置, 参加者全員履修

定量的目標	初年度に日中韓4大学で実施 2年目にマヒドン大学・KMUTT・ナレスアン大学で実施
定性的目標	令和3年度派遣受入各12名 令和4年度派遣12名受入24名 合計派遣24名受入36名

2. 反復型デザイン思考で同じ課題を2箇所以上の地域や場所で学習し、学び・学習の理解を深める

定量的目標	eコマース課題 中小企業創成課題 商店街活性化 農業6次産業化 地方創生 実施
定性的目標	初年度3課題実施 2年目4-6課題実施

3. 今いるべき場所から学べるSDI科目のオンラインシステムの構築

定量的目標	全科目開催 千葉大学と芝浦工業大学の共同開催
定性的目標	4科目の分担や実施方法を検証しながら実施

4. 国内初 国立+私立共同プログラム, 墨田キャンパス+芝浦・豊洲キャンパスの連携

定量的目標	driにSDI専用スタジオ設置 シミュレーション・ラボ設置
-------	-------------------------------

定性的目標	年間12名以上の学生を選抜
5. 全巡廻型演習科目が企業や行政(地方自治体)と連携した実践型演習	
定量的目標	企業非常勤講師 墨田区非常勤講師を招聘
定性的目標	年間2課題 社会性の高い現実的な課題をテーマに実施
6. アジア共通履修・学位システム構築のきっかけとなるイニシアティブ型プログラム	
定量的目標	日中韓4大学で交流協定の枠組みを超えた多様性のある大学間の連携の検討
定性的目標	ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)学位プログラム設置予定 千葉・芝浦

このような中間評価までの目標は、千葉大学及び芝浦工業大学、浙江大學、延世大学の4大学で牽引する。モード2での成果を生かして、授業の体系化、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを中間評価までに構築し他の大学が参加しやすいように、透明性の高いプログラムとしていく。

② 養成しようとするグローバル人材像について

(i) 事業計画全体の達成目標(事業開始～2025年度まで)

本プログラムは、未来のウィキッド課題を解決し、社会に貢献することができる、「ソーシャル・デザイナー」を育成するものである。本プログラムでは、デザイン専攻の学生だけを対象にするのではなく、未来の課題解決ができる創造型人材を育成する。本プログラムに参加する学生は、「ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)」を副専攻学位として獲得することができる。そのため、本来の専攻は、工学や園芸、政策など多様な学生であり、これらの学生に、デザイン思考やデザイン・イノベーションを学び、専門領域+デザイン思考=ソーシャル・デザインを目指していく。そして、本事業の履修は他の専門とは異なるユニークでかつデザインのプロセスに一番近い、同じ課題を繰り返す「巡廻型演習」により、デザイナーのように、多様な解を得る力を身につける。このように、異なる場所で同様の課題を何度も繰り返し、その社会に相応しい解を導き出す、高度な反復型デザイン思考で、ソーシャル・デザイナーを育成する。

このように、ソーシャル・デザイナーは、デザインを学習するのではなく、デザイン思考を通じて、課題を解決できる人材であり、デザイン以外の専門を学んでいる大学院生に副専攻の学位を取得させ、エンジニアでありソーシャル・デザイナーであるような創造型人材を育成し、未来の日本や世界が抱える「厄介な課題」を解決できる人材を目指す。そのために、本事業では、参加する学生がSDI科目を履修する。このSDI科目により、デザイン思考に必要なスキルを獲得し、その上で、巡廻型演習科目でデザイン思考やデザイン・イノベーションの方法を繰り返して学習するものである。

最初の1年目は、日中韓で実施し、2年目にはタイ、インドネシア、シンガポール、3年目以降にはマレーシア、ベトナムを加え、課題の多様性を拡張しながら、「ウィキッド課題」に対応できる人材を育成する。

(ii) 中間評価までの達成目標(事業開始～2022年度まで)

採択後直ちに「ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)」を設置し、令和3年度入学の学生より実施する。学生の選抜については、グローバルなアカデミックカレンダーに合わせ、採択後の9月に実施する。選抜された学生は、SDI科目のオンライン履修を行い、デザイン思考やデザイン・イノベーションのベーシック・スキルを獲得する。一方で、巡廻型演習科目をコロナ後に開始できるように、課題を決定する。学生は、「eコマース課題 中小企業創成課題 商店街活性化 農業6次産業化 地方創生」から課題を選択し、日本でフイージビリティ・スタディを行う。令和3年度末の第6ターム(2月・3月)または令和4年度に巡廻型演習を実施する。このように、段階的にプログラムを実施し、令和4年度(2022年度)には、日中韓+タイ+シンガポール+インドネシアに巡廻型演習を拡張し実施する。

また、このような実践型のプログラムに欠くことができないのがインターンシップである。SDIリサーチ1、2では、インターンシップも推奨する。ただし、その後実施予定である、SDIAプロジェクト1、2を実施する企業や自治体でのインターンシップを行うことで、巡廻型学習の全体を同じ課題を遂行する。

また、令和4年度(2022年度)までは、プログラムを拡張していくため、学生からの各課題に対するフィードバックを厳密に求めながら実施する。この際、デジタルポートフォリオを利用して授業をレビューすることで、学生の学修成果も視覚的に得る。

本事業では、このようにプログラム全体をリンクさせたものとして構築し、「ソーシャル・デザイナー」を多国間で育成する。

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①：CAプラス)

③-1 学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする日本人学生数の推移について

(i) 本事業計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標

単位：人（延べ人数）

外国語力基準	達成目標	
	中間評価まで (事業開始～ 2022年度まで)	事後評価まで (事業開始～ 2025年度まで)
【参考】本事業計画において派遣する日本人学生合計数		
1 「SDIソーシャル・デザイン・イニシアティブ」 副専攻履修学生 日中韓巡廻型演習受講 大学院生CEFR B2 (TOEFL iBT 92) 以上	12	60
2 「SDIソーシャル・デザイン・イニシアティブ」 副専攻履修学生 タイ巡廻型演習受講 大学院生CEFR B2 (TOEFL iBT 86) 以上	12	48
3 「SDIソーシャル・デザイン・イニシアティブ」 副専攻履修学生 アセアン巡廻型演習受講 大学院生CEFR B2 (TOEFL iBT 86) 以上	0	24

(ii) 外国語力基準を定めた考え方

千葉大学では、現在入学後にTOEFLによるプレイズメントテストを入学生全員に実施している。この結果は、その後の学力別クラス編成に利用している。現在では5段階で、CEFRの定めるB1(TOEFL iBT 71以下)、B2(72-79)、B2+(80-94)、C1(95-)、C2 の5段階としている。千葉大学ではスーパーグローバル大学創成支援事業において、グローバル人材としての外国語力基準をCEFRのB2+以上、TOEFL iBT 80(TOEIC730)点以上と定めている。その目標数は、令和5年度までには、学部では5,600名46.7%、大学院では2,000名44.4%を目標としている。本事業では、このSGUで目標としている能力を有していることを条件とするため、このCEFRのB2以上、TOEFL iBT 80(TOEIC730)程度をプログラム参加の要件とする。

(iii) 事業計画全体の目標達成に向けたプロセス（事業開始～2025年度まで）

本プログラムでは、英語による調査や分析、ディスカッションからディベートに至るまで、あらゆるプロセスで英語でのコミュニケーションとディスカッションが必要としている。そのため、CEFRの定めるB2+以上のレベルの学生を対象にする。千葉大学では、令和2年度入学の学生より、英語カリキュラムを全面的に改訂して、卒業に必要な単位数を増加させ、専門科目を英語により学習する「アカデミック・プレゼンテーション」を主に実施している。さらに、令和元年度以前に入学した学生には、外国語の授業(必修)以外に、イングリッシュ・コミュニケーション(ブリティッシュ・カウンシルとの連携による会話やディスカッション主体の授業)、イングリッシュ・ハウス(常勤教員によるプレゼンテーションやディスカッションのスキルアップ・トレーニング)の3つの英語学習を備えている。プログラムに参加する学生には、その英語のレベルに合わせて、イングリッシュ・コミュニケーションの履修や、イングリッシュ・ハウスでのトレーニングを推奨し、プログラムでのディスカッションや学生同士のチュートリアルに対応できるようにする。本プログラムでは、かなり高度な英語力を必要とする。様々な課題に関する現地でのインタビューなどのヒアリング調査、専門家からの意見聴取など、これまでのWSなどより高度である。従って、そのための英語力を確保することを要件とする。この能力は、選抜時点にチェックできるようにする。また、学部時代に十分にこれらのトレーニングをするように連携したプログラムを部分的に供給する。SDI科目はオンライン科目であるため、オンライン上で聴講することは可能とする。このように、部分的に授業を学部に開放し、英語力を向上させる事前トレーニングを行う。なお、令和2年度より開始された英語カリキュラムの改訂により、令和4年度以降に専門科目の英語による授業が実施される。これは学部の授業であるが、本プログラムで提供される授業の一部を解放して学部学生に受講させることも可能である。以上のように、英語の授業の倍増、単位外授業としてのイングリッシュ・ハウスでの学びを通じて語学力の目標を達成させる。

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①：CAプラス)

(iv) 中間評価までの目標達成に向けたプロセス（事業開始～2022年度まで）

本事業では、英語のレベルをクリアしていることを選抜の要件とするが、選抜時に英語の要求レベルに到達していない、あるいはスキルをあげたいと希望する学生は、イングリッシュ・コミュニケーションおよびイングリッシュ・ハウスで実施している、全学共通のディスカッションとプレゼンテーション用の授業を、英語のレベルによって受講する。

授業は以下の6つの種類を構築する。

- (1) 英語によるジェネラル・コミュニケーションの取得（インタビュー方法など）
- (2) 英語によるディスカッションのポイントと討議内容のまとめ方の構築
- (3) 英語によるプレゼンテーションのプロセスの理論と実践
- (4) 英語によるプレゼンテーション・マテリアルの作成法
- (5) スチューデント・チュートリアル・システム(STS)に対応する英語による指導方法の基礎
- (6) ビジュアル・サマリー・レポートなどのエビデンス・マテリアルの作成方法

これらの内容を含めた事前学習コンテンツを利用し、日本人学生24人のうち、10-12人程度を対象に受講させる。これらの授業はすべてオンデマンド方式で行う。さらに、必要に応じて、プレゼンテーションやディスカッションは、イングリッシュ・ハウスのネイティブの教員が個別指導する。

③-2 学生に修得させる具体的能力のうち、「③-1」以外について

(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2025年度まで）

本事業で一番に学生に習得してもらいたい能力は、デザイン思考やデザイン・イノベーションのスキルを身につけ、常に変貌や変異を続けるような社会的課題、ウィキッド課題を探しそれを解決できる人材を育成するものである。習得させる具体的能力には、2つのタイプがある。一つはSDI科目群のスキル形成科目で、これらは具体的能力が比較的容易に定義することができる。もう一方の巡廻型演習科目群は、課題に対して提案をするものであり、その内容を一律に定義することはできない。しかしながら、課題のアウトプットとして何を提示するかについては、ある程度の一覧として定義することができる。

表4 SDI科目群で修得すべき能力

No	科目群	科目	選択 必修	単位	概要
1	SDI 科目	ソーシャル・デザイン 1	選択	1	ユーザー・モデリング フォト・ダイアリーやフォト・エッセイの手法を身につけ、カスタマー・ジャーニーマップやタイムラインで、ユーザーの行動をモデリングし、生活における課題をユーザの視点から発見する
2		ソーシャル・デザイン 2	選択	1	デザイン・シンキング インスピレーション・ゲームやアイデア・ジェネレーションで、何度も繰り返しアイデアを発想する方法を身につけ、その成果をビジュアル・ビジネス・モデル・キャンパス用いてプレゼンテーションする
3		ソーシャル・デザイン 3	選択	1	ストラクチャード・プランニング(データ・サイエンス) 構造化モデルや、多変量解析(数量化)・コンジョイント分析などを用いて、対象課題のデータの収集と分析を行い、さらにデーター・ビジュアライゼーション手法を用いてプレゼンテーション資料を作成する
4		ソーシャル・デザイン 4	選択	1	プロトタイピング&シミュレーション VR/AR, AI の技術を用いてどのようなシミュレーションか可能か、そのシミュレーションのためには、どのようなデータやシステムが必要か、プロトタイプ構築方法について学ぶ

以上が、SDI科目で修得する具体的能力である。これらのスキルは、巡廻型演習科目群で実課題に適用する。以下は、一貫して都市の創生に関する課題を対象にして、1つの課題として4つの科目を実施した場合のSDI科目で修得したスキルを利用した修得する具体的能力である。

表5 巡廻型演習科目群で修得すべき能力

No	科目群	科目	選択 必修	単位	概要	
5	巡廻型演習 科目	SDIA リサーチ 1	必修	1	東京墨田の下町課題 下町商店街の活性化 伝統工芸の観光資源 (日英)	ソーシャル・デザイン1、2で学習したユーザー・モデ リングやデザイン・シンキングの手法を用いて、ユー ザー視点でどのような課題があるかを探索し、それに 対する解決策の提案をする
6		SDIA リサーチ 2	必修	1	千葉県の都市農業の 活性化 ネットビジネスを利用 した農業革命(日英)	ソーシャル・デザイン 3 で学んだストラクチャード・プ ランニングの手法を用いて、課題を分析し構造化す る。一度の構造化ではなく、何度も構造化を繰り返 し、データより新しい知見を見出す
7		SDIA プロジェクト 1	必修	1	スポンサー企業課題 海外大学と連携伝統 産業(スコッチ製造) を生かした観光産業 (GSA)(英)	SDIA リサーチ1、2で得たユーザー・モデリングやデ ザイン・シンキング及び、ストラクチャード・プラン ニングの全てを合わせて、プロジェクトに反映し、サー ビスやシステムとハードウェアやソフトウェアの提案を 実施する
8		SDIA プロジェクト 2	必修	1	スポンサー企業課題 海外大学と連携伝統 産業(スコッチ製造) を生かした観光産業 (GSA)(英)	ソーシャル・デザイン4で学んだ、VR/AR、AIの技術 を用いてシミュレーションを実施する。シミュレーシ ョンに必要なユーザーのモデルや、サービスの構造な どは、SDIA リサーチとSDIA プロジェクト1における提 案を元にする さらにその提案を評価する手法についても学習する

以上のように、学生に修得させるべき能力は、各科目で学ぶスキルやそのスキルを応用した具体的な利用方法である。

(ii) 中間評価までの達成目標(事業開始～2022年度まで)

令和4年度までに以下のようにSDI科目群と巡廻型演習科目群を推進、学生に修得させるべき能力を以下のように目標を定め実施する。

表6 SDI科目群で中間評価までに修得すべき能力

No	科目群	科目	選択 必修	単位	具体的な手法等	修得すべき能力
1	SDI 科目	ソーシャル・ デザイン 1	選択	1	1フォト・ダイアリー 2フォト・エッセイ 3カスタマー・ジャーニーマップ 4タイムライン	ユーザーのモデルを作る
2		ソーシャル・ デザイン 2	選択	1	1インスピレーション・ゲーム 2アイデア・ジェネレーション 3KJ 法	アイデアの発散・収斂の方法を獲得
3		ソーシャル・ デザイン 3	選択	1	1構造化モデル ISM 2多変量解析(数量化理論) 3MDS	構造やマッピングにより全体像を把握する
4		ソーシャル・ デザイン 4	選択	1	1Unity 2AI GAN 3Adobe XD 4多変量解析(数量化理論)	シミュレーションに必要なソフトウェアを学ぶ

以上が、SDI科目で修得する具体的能力である。巡廻型演習科目群では、以下の手法を用いて、実課題を通じて具体的能力を育成する。

表7 巡廻型演習科目群で中間評価までに修得すべき能力。

No	科目群	科目	選択 必修	単位	概要	
5	巡廻型演習 科目	SDIA リサーチ 1	必修	1	1フォト・ダイアリー 2フォト・エッセイ 3カスタマー・ジャーニーマップ 4タイムライン 5インスピレーション・ゲーム 6アイデア・ジェネレーション 7KJ 法	アイデアの発散・収斂の方法を獲得し、ユーザーのモデルを作る ユーザーのモデルからまた新たな アイデアの発散・収斂を行い学習 を深める

6	SDIA リサーチ 2	必修	1	1構造化モデル ISM 2多変量解析(数量化理論) 3MDS	データを分析し、その結果をわかりやすく視覚化する データ・サイエンスに役立つデータをデザインする能力を育成する
7	SDIA プロジェクト 1	必修	1	1フォト・ダイアリー 2フォト・エッセイ 3カスタマー・ジャーニーマップ 4タイムライン 5インスピレーション・ゲーム 6アイデア・ジェネレーション 7KJ法	シミュレーションに必要なシナリオ、サービスやソフトウェアのプロセスを記述する方法を学ぶ シミュレーション可能な実装型のアイデアを記述する能力を修得する
8	SDIA プロジェクト 2	必修	1	1Unity 2AI GAN 3Adobe XD 4多変量解析(数量化理論)	シミュレーションに必要なソフトウェアとハードウェアを学び、実際にシミュレーションを構築、さらにその評価を実施する

以上のように、学生に修得させるべき能力は、各科目で学ぶスキルやそのスキルを応用した具体的な利用方法である。

④ 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組について

(i) 事業計画全体の達成目標(事業開始～2025年度まで)

本事業は、日本国内で国立と私立のデザイン系が初めて連携しプログラムを遂行するものであり、これまでの世界展開力よりもさらに連携力を強化して実施するものである。そして、このような連携のもとに、以下の6STEPで、推進する。

表8 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成のプロセス

令和 3年度	STEP1	千葉大学と芝浦工業大学との連携によるプログラム・コミッティの設置 プログラムの質保証評価システムの構築
	STEP2	CA モード2の浙江大學・延世大學とのネットワークを利用したプログラム実施 4大学におけるプログラムの実施とグローバル・プログラム・コミッティの設置
4年度	STEP3	千葉大学バンコク・キャンパス 芝浦工業大学サテライト・オフィス 利用拡大 両方がバンコクにあることを利用してバンコクでのプログラム拡張 4つの巡廻型演習科目を実施予定
	STEP4	シンガポール、インドネシアの連携校との協力による AUNとの連携強化
5年度	STEP5	ベトナム、マレーシアへの連携校との強力によるアセアン地域での拡張 AUNと質保証制度についてのルールを策定
6年度	STEP6	アジア・アセアンにおけるアカデミック・トランスファー・システムの構築 国立私立他大学にも呼びかけ解放

以上のように、本事業終了後1年前までにシステムを構築し、このような6段階で、質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大を実施する。

本事業における質保証は、プログラムに参加する全ての学生が、ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)の副専攻の学位を、千葉大学から授与されるものである。もちろん、他の中国、韓国、タイ、インドネシア、シンガポール、マレーシア、ベトナムの各国の大学においても、その国あるいは大学で副専攻学位のプログラムの設置が可能であれば、日本の学生であっても、学生は自由に他の大学の副専攻の学位を取得する事でも良い。他の大学については、採択後にプログラムを構築することになる。

また本プログラムでは、ダブル・ディグリー・プログラム、ジョイント・ディグリー・プログラム、およびこの副専攻の学位に関するプログラム、の3つのレベルの連携プログラムの学位を得ることができる。これまでの物においては、ダブル・ディグリー・プログラムを構築することができているが、学生としては10名程度の修了者しか存在しない。またジョイント・ディグリー・プログラムについては、中国や韓国のシステムの変更が難しく、現在でもプログラムの構築はできていない。そこで本プログラムにおいては、新たな質の保証として、千葉大学では3年前から、芝浦工業大学でも3年前から実施している、副専攻のプログラムを付与することを本事業のメインとした。この副専攻のプログラムを共同で実施することがきっかけとなり、将来的にはダブル・ディグリー・プログラムやジョイント・ディグリー・プログラムへ発展することを予想している。

なお最初にも述べたが、受講する学生は全員この副専攻の取得を目指す。言うならば、副専攻の学位課程に入学することになる。それゆえ、選抜については厳しくするとともに、少人数で優秀な学生を育成していくことを目標とする。

留学生については、**最初の段階では、千葉大学から副専攻の学位が付与**されることになるが、浙江大学及び延世大学については問題ないことを確認している。アセアンの他の大学には現在確認しており、将来的には全ての大学で、副専攻の学位を付与する。

本事業では、**採択後直ちにプログラム・コミッティを構築する。そこに、千葉大学と芝浦工業大学の間において策定した、科目に関するラーニング・アグリーメントを評価**してもらう。具体的には、設置する科目のシラバスを双方で構築し、学習目標を明らかにするか、共同の設置を行う。科目の設置後は、英語によるシラバスを作成し公表する。このように、プログラム・コミッティは、**教育内容の質の保証に関する精査を行い、SDI科目及び巡廻型演習科目が適切なことであることを認証**していく。海外の大学とは、大学間で個別にラーニングアグリーメント締結するのではなく、このSDIとしてのプログラム・コミッティを構築し、そこに参加することで、千葉大学と芝浦工業大学が先に作成したラーニングアグリーメントへの了承を取る。

学生は、**ラーニング・アグリーメントをもとに履修を計画**するが、基本的にはすべての8つの科目を履修することが望ましい。用意した8つの科目を履修することを基本とし、学修の質を保証するとともに、これらの教育プログラムの国際通用性も向上させる。

さらには、**デジタル・ポートフォリオは、学生がどのような学修を行なったかを証明する重要なエビデンス**となる。基本的には、各大学の学生ポータルシステムのシステム上に構築してもらいたい。が、**不可能な場合は千葉大学または芝浦工業大学の持つ学生ポータルにおいて、海外の大学の履修する学生について対応**する。デジタル・ポートフォリオは将来的には、**デジタル・サーティフィケート及びデジタル・バッジにつながるもの**になり、新たな質保証としてのシステムの構築のためには重要なものである。さらに、成果を視覚化したポートフォリオは、**学生のパフォーマンスを説明するのにも役立ち、国際的に活躍する学生としては、これらを利用し、様々な世界での就職活動や研究成果の発表に利用**してもらいたい。

以上のように、本プログラムでは、全てを正規の授業科目として履修し、かつ**ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)副専攻学位を取得**することで、**高度な質の保証を伴った大学間交流の枠組みを構築**する。

(ii) 中間評価までの達成目標 (事業開始～2022年度まで)

中間評価までは、**千葉大学、芝浦工業大学、浙江大学、延世大学、マヒドン大学(千葉大学連携)、KMUTT(芝浦工業大学連携)の6大学での質保証を中心に実施**する。そのなかで、シンガポール、インドネシアの連携校との協力やAUNとの連携強化を目指す。具体的には以下のような項目を実施し、学修の質保証のシステムを構築していく。

表9 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの中間評価までの達成目標

令和3年度	STEP1	(1) 千葉大学と芝浦工業大学との連携によるプログラム・コミッティの設置 (2) SDI 科目の質保証 シラバス 学習の目標(カリキュラムマップ) カリキュラムツリー (3) 巡廻型演習科目の質保証 シラバス 学習の目標(カリキュラムマップ) (4) 2大学間ラーニングアグリーメント構築 (5) 共同の外部評価委員会の設置
	STEP2	(6) 浙江大学、延世大学とのグローバル・プログラム・コミッティの設置 (7) 海外大学との SDI 科目・巡廻型演習科目の質保証 シラバス 学習の目標(カリキュラムマップ) (8) CA モード2の浙江大学・延世大学とのネットワークを利用したプログラムレビュー
4年度	STEP3	(9) 千葉大学バンコク・キャンパス利用 (10) 芝浦工業大学サテライト・オフィス利用拡大 (11) 4つの巡廻型演習科目を実施予定 (12) グローバル・プログラム・コミッティの拡張 マヒドン大学・KMUTT
	STEP4	(13) グローバル・プログラム・コミッティの拡張 ナレスアン大学 NUS ITB (14) AUN との連携強化

以上のように、プログラム全体の学習を管理することで、極めて質の高いプログラムを、双方の大学の保障のもとに実施する。プログラムに関する必要事項は、令和3年度中にすべて構築できるように準備を進めている。

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①： CAプラス)

⑤ 本事業計画において海外に留学する日本人学生数の推移【1 ページ以内】

現状（2020年5月1日現在）※1 (単位：人) 20

(i) 日本人学生数の達成目標

単位：延べ人数

事業計画全体の達成目標（事業開始～2025年度まで）	132
中間評価までの達成目標（事業開始～2022年度まで）	24

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）

単位：人

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
実際に渡航する学生						0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生			6	12	18	36
実渡航とオンライン受講を行う学生	12	12	18	24	30	96
合計人数	12	12	24	36	48	132

(a) 実渡航による交流

日本人学生は、単に渡航するだけではなく、SDI科目を、対面及びオンラインにより学習する。巡廻型演習は、必ず現地において実施する。この2つをセットで学ぶため、実渡航だけに参加する学生はいない。

(b) オンライン交流

コロナ禍においても初年度の授業を推進するため、履修の半分を占めるSDI科目については、対面とオンラインの両方で実施する。SDI科目（オンライン科目）の学修成果を向上させるために、SDI科目はオープンソースとして提供する。連携大学内の学生・教員が誰でも参加できるシステム上で授業を実施、参加する学生・教員が相互に刺激することにより、質を向上させる。日本人だけではなく、連携先の大学の学生も受講可能であり、授業内での課題等での共同学習が期待できる。

また、コロナ後には、海外にいてもどこでも学べるスマート・ラーニングとして継続実施する。科目としては、デザイン思考やデザイン・イノベーションを実現させるためのスキル形成の科目であり、オンラインに参加する前に、事前にメディアで予習をし、オンラインではディスカッションを中心にグループでの討議を行う。双方向だけではなく多元方向で授業を実施、オンラインでフリップティーチングを実現させ学修の質を向上させる。このように、オンラインでの交流には、2つのメリットがある。

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

○オンライン学習のメリット

オンラインのメリットは、日本あるいは海外にいながらにして複数の大学の授業を受講できることである。学生の渡航時期によっては、通常の開講時期と重なるため、学生がどこにいても受講できるよう、SDI科目群を用意する。初期は主連携4大学それぞれから2科目の提供を行ってもらい、最終的には、16単位分のSDI科目群をラインナップする。また、参加大学における時差2時間以内というメリットを生かし、フリップティーチング型のオンラインを実施する。これは、千葉大学がこれまで行ってきたCOILを応用するもので、メディアを利用した事前学修、学生からのプレゼンテーションとディスカッション（フリップティーチング部分）、学生同士のディスカッション（スチューデント・チュートリアル）を1/3でブレンドした形態で進めているCOIL授業をベースに実施する。

○実渡航学習のメリット

実渡航を伴う巡廻型学習のメリットは、なんといっても現地でその状況を直接確認して課題を理解し、それに対して解決策を提案することにある。現地学生と留学生の相違について検討することができ、多様な解決策を提案できることが最大のメリットである。

このように、オンラインと現地の両方の学習で、理解を深め、社会に貢献できる提案を現地の学生と共同で実施できる。

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における2020年5月1日現在の人数。

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①：CAプラス)

⑥ 本事業計画において受け入れる外国人学生数の推移【1 ページ以内】

現状（2020年5月1日現在）※1

（単位：人）

1535

(i) 外国人学生数の達成目標

単位：延べ人数

事業計画全体の達成目標（事業開始～2025年度まで）	168
中間評価までの達成目標（事業開始～2022年度まで）	36

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）

単位：人

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
実際に渡航する学生						0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生		12	18	24	24	78
実渡航とオンライン受講を行う学生	12	12	18	24	24	90
合計人数	12	24	36	48	48	168

(a) 実渡航による交流

外国人学生においても、SDI科目を対面及びオンラインにより学習、巡廻型演習は、必ず現地において実施する。この2つをセットで学ぶため、実渡航だけに参加する学生はいない。

(b) オンラインによる交流

海外の学生も自由にSDI科目（オンライン科目）を履修することができる。日本人学生との共学が進み、連携大学内の学生・教員が誰でも参加できるシステム上で授業を実施することで、参加する学生・教員が相互に刺激することにより、学習を活性化し質を保証していく。日本人と外国人の両方で授業内での課題等での共同学習が期待できるオンラインでの共学を実施する。

また、コロナ後には、海外にいてもどこでも学べるスマート・ラーニングとして継続実施する。科目としては、デザイン思考やデザイン・イノベーションを実現させるためのスキル形成の科目であり、オンラインに参加する前に、事前にメディアで予習をし、オンラインではディスカッションを中心にグループでの討議を行う。双方向だけではなく多元方向で授業を実施、オンラインでフリップティーチングを実現させ学修の質を向上させる。

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

本項目は日本人と同じであり、オンライン・実渡航の双方のメリットを合わせ相乗効果を持って学修させる。

○オンライン学習のメリット

オンラインのメリットは、日本あるいは海外にいながらにして複数の大学の授業を受講できることである。学生の渡航時期によっては、通常の開講時期と重なるため、学生がどこにいても受講できるよう、SDI科目群を用意する。初期は主連携4大学それぞれから2科目を提供し、最終的には、16単位分のSDI科目群をラインナップする。また、参加大学における時差2時間以内というメリットを生かし、フリップティーチング型のオンラインを実施する。これは、千葉大学がこれまで行ってきたCOILを応用するもので、メディアを利用した事前学修、学生からのプレゼンテーションとディスカッション（フリップティーチング部分）、学生同士のディスカッション（スチューデント・チュートリアル）を1/3でブレンドした形態で進めているCOIL授業をベースに実施する。

○実渡航学習のメリット

実渡航を伴う巡廻型学習のメリットは、なんといっても現地でその状況を直接確認して課題を理解し、それに対して解決策を提案することにある。現地学生と留学生の相違について検討することができ、多様な解決策を提案できることが最大のメリットである。

このように、オンラインと現地の両方の学習で理解を深め、社会に貢献する提案を日本人と共同で実施できる。

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における2020年5月1日現在の人数。

（大学名： 千葉大学

）

（タイプ A①：CAプラス

）

⑦ 交流学生数について（2021年度は事業開始以後の人数）

（単位：人）

（i）本事業で計画している交流学生数

中国側大学	韓国側大学	ASEAN側大学
54	54	60

（i）-1：プログラム全体の派遣・受入交流学生数

各年度の派遣及び受入合計人数 （交流期間、単位取得の有無等の 内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	12	12	12	24	24	36	36	48	48	48	132	168
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラム をオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）				12	6	18	12	24	18	24	36	78
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	12	12	12	12	18	18	24	24	30	24	96	90

（i）-2：日中韓の三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象 となる交流学生数		12	12	12	24	18	30	30	42	42	42	114	150
交流相手国 中国	実渡航											0	0
	オン ライ ン											0	0
	ハイ ブリ ッド											0	0
交流相手国 韓国	実渡航											0	0
	オン ライ ン											0	0
	ハイ ブリ ッド											0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航											0	0
	オン ライ ン											0	0
	ハイ ブリ ッド											0	0
交流相手国 中国 及び 韓国	実渡航											0	0
	オン ライ ン				12		12		12		12	0	48
	ハイ ブリ ッド	12	12	12	12	6	6	6	6	6	6	42	42
交流相手国 中国 及び ASEAN	実渡航											0	0
	オン ライ ン					2	2	4	4	6	4	12	10
	ハイ ブリ ッド					2	2	4	4	6	4	12	10
交流相手国 韓国 及び ASEAN	実渡航											0	0
	オン ライ ン					2	2	4	4	6	4	12	10
	ハイ ブリ ッド					2	2	4	4	6	4	12	10
交流相手国 中国、 韓国及び ASEAN	実渡航											0	0
	オン ライ ン					2	2	4	4	6	4	12	10
	ハイ ブリ ッド					2	2	4	4	6	4	12	10
自己負担または大学負担等 による交流学生数		0	0	0	0	6	6	6	6	6	6	18	18
	実渡航											0	0
	オン ライ ン											0	0
	ハイ ブリ ッド					6	6	6	6	6	6	18	18

（大学名： 千葉大学 ） （タイプ A①：CAプラス）

(ii) 国内大学及び交流プログラムごとの交流学生数

交流形態	①	単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	実渡航
	②	単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	B	オンライン
	③	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	C	ハイブリッド
	④	上記以外の交流期間30日未満の交流		
	⑤	上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		
	⑥	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		

1. 【代表申請大学】

大学名 千葉大学

交流プログラム名 (相手大学名)	交流方向	交流形態	2021年度			2022年度			2023年度			2024年度			2025年度			合計
			A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	
SDI-A (浙江大学・延世大学)	派遣	③			8			8			8			8			8	40
SDI-A (浙江大学・延世大学)	受入	③			8		8	8		8	8		8	8		8	8	72
SDI-A (マヒドン大学 他)	派遣	③							4	4		6	6		12	12	44	
SDI-A (マヒドン大学 他)	受入	③							4	4		6	6		6	6	32	
	派遣																0	
	受入																0	

2. 【国内連携大学等】

大学名 芝浦工業大学

交流プログラム名 (相手大学名)	交流方向	交流形態	2021年度			2022年度			2023年度			2024年度			2025年度			合計
			A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	
SDI-A (浙江大学・延世大学)	派遣	③			4			4			4			4			4	20
SDI-A (浙江大学・延世大学)	受入	③			4		4	4		4	4		4	4		4	4	36
SDI-A (マヒドン大学 他)	派遣	③							2	2		6	6		6	6	28	
SDI-A (マヒドン大学 他)	受入	③							2	2		6	6		6	6	28	

(大学名: 千葉大学) (タイプ A①: CAプラス)

(iii) 本事業で計画している交流学生数（派遣・受入別 各内訳の集計）

【日本人学生の派遣】		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
年度別合計人数		12	12	24	36	48	132
【交流形態別 内訳】							
①	単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
②	単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
③	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	12	12	24	36	48	132
	実渡航						0
	オンライン			6	12	18	36
	ハイブリッド	12	12	18	24	30	96
④	上記以外の交流期間30日未満の交流	0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
⑤	上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
⑥	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①：CAプラス)

【外国人学生の受入】	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
年度別合計人数	12	24	36	48	48	168
【交流形態別 内訳】						
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	12	24	36	48	48	168
実渡航						0
オンライン		12	18	24	24	78
ハイブリッド	12	12	18	24	24	90
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①：CAプラス)

(iv) 派遣・受入別 交流プログラム学生数の詳細

①日本人学生の派遣（日本⇒中国、韓国、ASEAN）【計画】

年度	交流期間		派遣元大学	派遣先大学	派遣相手国	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	交流学 生数	(内訳)		
									実渡航	オンラ イン	ハイブ リッド
3	10	~	9	千葉大学 芝浦工業大学	浙江大学 延世大学	中国 韓国	SDI-A 日中韓	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	12		12
4	10	~	9	千葉大学 芝浦工業大学	浙江大学 延世大学	中国 韓国	SDI-A 日中韓	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	12		12
5	10	~	9	千葉大学 芝浦工業大学	浙江大学 延世大学 マドリン大学 他	中国 韓国 タイ 他	SDI-A 日中韓+アセアン	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	24	6	18
6	10	~	9	千葉大学 芝浦工業大学	浙江大学 延世大学 マドリン大学 他	中国 韓国 タイ 他	SDI-A 日中韓+アセアン	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	36	12	24
7	10	~	9	千葉大学 芝浦工業大学	浙江大学 延世大学 マドリン大学 他	中国 韓国 タイ 他	SDI-A 日中韓+アセアン	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	48	18	30
		~									

②外国人学生の受入（中国、韓国、ASEAN⇒日本）【計画】

年度	交流期間		派遣元大学	派遣相手国	派遣先大学	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	交流学 生数	(内訳)		
									実渡航	オンラ イン	ハイブ リッド
3	10	~	9	浙江大学 延世大学	中国 韓国	千葉大学 芝浦工業大学	SDI-A 日中韓	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	12		12
4	10	~	9	浙江大学 延世大学	中国 韓国	千葉大学 芝浦工業大学	SDI-A 日中韓	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	24	12	12
5	10	~	9	浙江大学 延世大学 マドリン大学 他	中国 韓国 タイ 他	千葉大学 芝浦工業大学	SDI-A 日中韓+アセアン	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	36	18	18
6	10	~	9	浙江大学 延世大学 マドリン大学 他	中国 韓国 タイ 他	千葉大学 芝浦工業大学	SDI-A 日中韓+アセアン	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	48	24	24
7	10	~	9	浙江大学 延世大学 マドリン大学 他	中国 韓国 タイ 他	千葉大学 芝浦工業大学	SDI-A 日中韓+アセアン	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	48	24	24
		~									

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①：CAプラス)

(v) 宿舎の提供について

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供予定の学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	12	12	12	24	24	36	36	48	48	48	132	168

(vi) 同窓会ネットワークへの参加者数について ※タイプA①・A②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
		24	36	60	96	96

【参加者を増加させるための取組】

参加する学生は、プログラム修了後には、千葉大学及び芝浦工業大学の副専攻の学位を付与することになる。単にプログラムの修了証だけではなく、各大学の副専攻の学位を付与することにより、修了生と言う意識を高め、同窓会ネットワークに参加させる。また日本人も、2つ目の専攻の修了生と意識を持たせ、積極的にネットワークに参加させる。

(vii) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

※第2モードまでの実績と比較して発展的な内容にするために必要な任意指標を適宜設定してください

【現状分析及び目標設定】

(設定指標)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
(指標1)						0
(指標2)						0
(指標3)						0
(指標4)						0
(指標5)						0

【計画内容】

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①：CAプラス)

⑧ 海外相手大学との単位互換について

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

単位互換を実施する 海外相手大学数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	2	2	2	6	6	8	8	12	12	30	30

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：千葉大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
		認定者数	8	8	8	8	8
浙江大学	認定単位数	1	2	2	2	2	9
	認定者数	8	8	8	8	8	40
延世大学	認定単位数	1	2	2	2	2	9
	認定者数			4	6	12	22
マヒドン大学 他	認定単位数			2	2	4	8
	認定者数						
年度別認定者数合計		16	16	20	22	28	102
年度別認定単位数合計		2	4	6	6	8	26

2. 国内連携大学 【大学名：芝浦工業大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
		認定者数	4	4	4	4	4
浙江大学	認定単位数	1	2	2	2	2	9
	認定者数	4	4	4	4	4	20
延世大学	認定単位数	1	2	2	2	2	9
	認定者数			2	6	6	14
マヒドン大学 他	認定単位数			2	2	4	8
	認定者数						
年度別認定者数合計		8	8	10	14	14	54
年度別認定単位数合計		2	4	6	6	8	26

(大学名：千葉大学)

(タイプ A①：CAプラス)

外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 【①～③合わせて2ページ以内】

① 日本人学生の派遣のための環境整備

【実績・準備状況】

千葉大学は、令和2年度以降に入学する学生を対象に ENGINE プランを開始しており、「全員留学」を実施するための体制を整備してきた。そのため、留学生課に「留学推進チーム」を設け、様々な大学との連携によるプログラムの構築から、大学独自の留学プログラムの企画・立案・実施及び管理をしており、いわば派遣のプロ集団として学内の学生に対応している。全員留学の緊急代替措置として、令和3年度にはオンライン留学を 60 プログラム構築し実施、全員留学を継続させている。本事業においても、留学推進チームの支援のもとに事業を実施する。また、千葉大学の卒業生である浙江大学・黄敬華教授、ナレスアン大学・タティヤ教授を、千葉大学の非常勤教員として雇用、日本人学生の受入支援を委嘱している。その他危機管理についても学内のルールを適用する。

芝浦工業大学は、スーパーグローバル大学創成支援において、全学生が在学中に一度は留学を経験することとしている。学生の留学情報を統括するデータベースを構築し、情報を一元的に管理できる体制を整えた。教務担当・国際交流担当の事務職員と指導教員とが情報共有し協働で学生を支援する体制が整備された。アセアン諸国への留学においてはマレーシアのサテライトオフィスの教員が受け入れから現地での学修に至るまで支援する体制が整備されている。経済面での支援においては、留学プログラムに参加する場合、必ず何らかの奨学金が給付されるように制度が定められている。また留学プログラム数の増加にともない、学生の選択肢が増えていたため、学生が参加プログラムを選ぶ際、学生の英語レベルやコストなどを考慮した分かりやすい情報提供を行っている。その他法人としての危機管理については、平成 28 年9月、危機管理規程および危機管理マニュアルを整備し、有事の際には対策本部を設置し、機動的に対応できる体制を構築した。

【計画内容】

本プロジェクトでは、千葉大学と芝浦工業大学が共同でプログラム・コミティを設置し、留学前・留学中・留学後のトータルな派遣体制を構築して支援する。教員が実施するプログラム以外の支援は以下のように実施する。

(1)《留学前》 本プロジェクトは、全学を対象にしているため、プログラムのマネージメントは、千葉大学と芝浦工業大学が共同で設置する「SDIコンソーシアム」に設置するプログラム・コミティが行う。また、学生の派遣に関する様々な支援は、双方の留学生課の留学推進チームが実施し、学生募集は、全学で行う。プログラムの広報は、主体となる専攻における説明会や、副専攻学位に関する説明会を年に2回、4月と10月に実施する。選抜された学生は、事前学習プログラムを利用し、SDI-A による学習はもとより、日本文化学習も行い留学準備をする。

(2)《留学中》 SDI-A での留学は、短期間でも十分に学修成果のあるものにする。そのため、オンラインによるSDI 科目の履修を十分に行い、その学習成果を得た学生を現地に派遣する。留学する学生は、留学推進チーム＋SULA＋研究科教員が共同で支援する体制を取る。留学中の取組の報告は、教員と留学推進チームの両方に報告する。帰国後は、30 日以内に報告会を開催する。現地の危機管理は、連携大学および現地キャンパスの千葉大学・芝浦工業大学教員、現地教職員の多面的なサポートにより、安全な生活が送れるようにすることで、より一層の安心感を与える。また、連携大学との連絡を取り、安心したインターンシップ派遣を実施する。

(3)《留学後》 事前学習と同様に、留学した学生を集めて、報告会の準備および開催と併せて必要な指導、フォローアップを実施する。留学報告会は、留学した学生のまとめの場であると同時に、次回派遣される学生の目的意識の明確化、留学希望学生への多様で多彩な情報の提供の場であり、留学数拡大のスパイラルアップには重要な役割を担っている。さらに、本プログラムで育成するデザイン・イノベーターは、未来を創造する日本企業や海外の企業に積極的に就職させる。プログラムでのインターンシップ協力先企業への就職等を積極支援する。

② 外国人学生の受入のための環境整備

【実績・準備状況】

千葉大学では、年間約 3,000 名の外国人学生を受入れている。この外国人学生は、大きく、(1) 学位取得目的の学生、(2) 協定校からの短期・中期留学等の学生、の2つに分類できる。このうち、本プログラムにおける受入は、事業計画に示した副専攻学位の取得を目標とした学生となり、(2) 区分の学生として受入れる。(2) 区分の学生は、現在 56 ヶ国 500 以上の大学や機関から、毎年 2,000 名程度の学生を受入れている実績がある。本事業もこれまでの実績を生かして受入を行う。短期・中期の学生は、大学の寮を利用する学生も多いが、民間のアパートやホテルも多く利用している。そのため多様な生活環境下でのキャンパスライフとなるが、これには留学生課にワンストップサービス機能を備えたインターナショナル・サポート・デスク(ISD)を設置し対応している。ISD には専門スタッフを8名配置し、本事業でも、この ISD を利用して留学生に対応する。

芝浦工業大学は、2019 年度に約 1,700 名の留学生を受入れた。大学・大学院の正規課程の留学生については、それぞれ学生課・大学院課を中心とする事務部門での対応に加え、所属する研究室の教員や学生が身の回りのサポートを行っている。一方、短期・中期の留学生(交換留学生)の受入は、国際部が主管している。SGU 構想調査時は、各種のサポート機能の多くを国際部に集約することを想定していたが、留学生の受入については安全保障貿易管理対応や、トラブル時の危機管理対応など、専門的な知識を必要とするものも多く存在する。留学生支援を全学的に行っていくという考えから、それぞれの担当部署が、責任をもって支援について取り組むこととし、支援体制をより充実したものにしていく。大宮キャンパスと豊洲キャンパスには、グローバル・ラーニング・コモンズ(GLC)を設置し、教職員と日本人学生、留学生が交流できる場を提供している。GLC では、担当職員だけでなく、学生によるピア・サポート体制も拡充されてきており、国際部が募集する学生スタッフ(Global Student Staff / GSS)には日本人学生のほか、留学生も登録している。空港ピックアップはじめ留学生の生活サポート、GLC での各種イベント企画などにも従事している。留学生の住居については、学内の学生寮を紹介するほ

か、民間のアパートや学生向け宿泊施設の斡旋をする業者を国際部から案内をしている。

【計画内容】

本事業は、2つの大学の連携のもと、大学院を対象とし、かつ全学で推進するプログラムであるため、共通の組織としてプログラム・コミティを設置する。このように、2大学が全学で実施することより、従来の受入とは以下の3つの点で異なり、これらに注意して学生を受入れる。

(1)《留学前》 留学前には、日本の大学と同じように、SDI コンソーシアムにより、派遣する学生の選抜を行う。それぞれの大学において、責任を持って選抜し、事前の準備を行う。選抜された学生には、日本人と同じように、オンラインにより事前学習の **SDI 科目を履修、同時に巡廻型演習科目の実施方法とそのゴールについて理解**させる。また、半年から1年をかけ履修を遂行することによって、副専攻の学位を得ることができることについても説明し、履修計画を十分に立ててSDIのマイナーを取得させる。

(2)《留学中》 日本に留学する学生は、**必ずSDIのマイナーを取得するように指導**する。そのために日本人と同様に短期間の留学でも十分に成果のあるものとするため、日本でも引き続きオンラインによるSDI科目の履修をする。また、それ以外の科目については、SDIを担当する教員のもとに履修計画を立て、十分に学習成果が上がるようにする。なお、千葉大学が開講する巡廻型科目、芝浦工業大学が開講する巡廻型科目の両方に参加できるというメリットがあり、日本では短期間で2つのウィキッド課題を学ぶことができる。このように千葉大学・芝浦工業大学教員、自国の教職員の多面的なサポートにより、安全な生活が送れるようにすることで、より一層の安心感を持って学修できる。また、連携大学との連絡を取り、日本において、安心したインターンシップを実施する。

(3)《留学後》 留学した学生は、**2つの種類の報告書を作成**する。1つは**巡廻型科目で学習した共通の課題に対する提案**をするものである。もう一方は全体を通じて、**SDIの科目及び巡廻型科目の両方をまとめたレポート**をしてもらう。このレポートは所属する大学で成果報告をしてもらい、次に本プログラムに参加を予定している学生への誘いやどのように対応して良いかについてのノウハウを伝授することにつなげる。またオンラインの利用が日本人学生にどのようなメリットがあったかも伝えてもらう。これまでのプログラムでは 成果報告会に海外の学生を招聘していなかったが、オンラインより可能であることがわかったため、今年度以降は積極的に海外の学生を招聘しながら留学報告会を日本人学生と一緒に実施する。

さらに、本プログラムで育成する**デザインイノベーターは、未来を創造する日本企業や海外の企業に積極的に就職を斡旋**する。特に、プログラムでのインターンシップの協力先企業への就職を積極的に推進する。

③ 関係大学間の連絡体制の整備

【実績・準備状況】

プログラムの実施体制については、これまで千葉大学が**キャンパス・アジアのモード2で実施してきた、延世大学(韓国)、浙江大学(中国)、と継続的に連携**し、準備を行っている。プログラムの継続と先鋭化にあたって、これまでの「植物や環境に関する未来課題」を中心としたプログラムから、より幅広く社会的な課題を扱うことで合意しており、今回のようなSDIプログラムを全ての大学で実施・運営することで理解を得ている。さらに、芝浦工業大学とは、2019年の3月に締結した包括連携協定のもと、実質的な連携を拡張するなかで、昨年10月ごろから本プログラムへの申請について様々な協議を行っている。プログラムについては、**東東京に位置する2つのキャンパス、墨田と豊洲を連携させながら実施**することで協議している。かつ2つの大学で双方とも大学院を主としたプログラムを実施することで、これまで準備を行ってきた。さらには、現在双方に存在する副専攻のプログラムが、本プログラムに合致することより、双方の大学で副専攻の学位を付与できるように準備している。

【計画内容】

本プログラムは、最初にキャンパス・アジアの**第2モードで連携していた海外の2大学と千葉大学、芝浦工業大学の4大学でプログラムを実施**する。その後2年目以降にアセアンの連携大学を拡張し、最終的には海外の14大学と連携しプログラムを実行する。そのために、まずは最初4つの大学でSDI コンソーシアムを構築、大学間におけるプログラムの連携に関する様々な取り組みについて決定、これを他の大学に展開する。以下のように3つの方法で展開する。

(1) 4大学による先行プログラム構築とSDI コンソーシアムの設置

先行プログラムは、採択後直ちに実施する。そのために現在実施されているプログラムに、巡廻型演習を組み込んだプログラムとして実施する。巡廻型演習の実施は、コロナ後を見据えて令和4年の1月からの実施を目指す。一方でプログラム全体の構築のためにSDI コンソーシアムを設置する。SDI コンソーシアムは4つの大学で設置し、本年度はオンラインでプログラムの構築を行うとともに、年2回の会議を実施する。

(2) 巡廻型演習科目の課題決定

巡廻型演習科目は、社会的な課題を中心に実施し、プログラムのセレクションについては4つの大学で相談しながら決定する。また年間2～4の科目を実施することで現在合意している。ただし学生は1つの課題を1年かけて共通して学ぶため、それぞれの課題は他の大学でも実施可能であるか確認しながら決定する。令和3年度に実施する巡廻型演習科目については半年間で2科目を実施していく。

(3) プログラムの継続に関するアジア・アセアンのフレームの構築

先行する4大学に続き**2年目以降からは順次他の10の大学**を入れていく。その過程においてアジア+アセアンの単位互換さらには世界を見つめた単位の国際通用性を検討する。これにより、プログラムの継続性ととともにアジア+アセアんで履修基盤を構築できるよう貢献する。本プログラムで参加する日本の大学は**総合大学としての千葉大学と、理工系大学としての芝浦工業大学**という特色を生かし、様々な大学が参加できるよう構築する。

① 事業の実施に伴う大学の国際化

【実績・準備状況】

千葉大学では、第三期中期計画におけるビジョンにおいて、国際化の項で「ネットワークの構築によるグローバル化」を掲げている。本事業で実施するプログラムは、この国際化の項の具体的なプログラムである。そして、本事業で実施するプログラムは、デザインイノベーターを育成するものであるとともに、大学院を中心とした、**新たな「文理混合のプログラム」**として、全学の学生が参加可能なものである。これは、現在千葉大学が推進しているスーパーグローバル大学創成支援事業「グローバル千葉大学の新生－Rising Chiba University－」と強力に連携しながら進めることができる。

このような中で千葉大学では、大学の国際化の1つの指標として、海外拠点を以下の4つのカテゴリー、①キャンパス、②オフィス(事務所)、③ICRC、④IEC オフィス(International Exchange Center Office)、で整理して運営している。この全ての海外拠点は図4に示すように全てで**17 存在**する。これらの拠点は、IEC オフィスを設置後に、キャンパスや共同研究センターへとその機能をもとに発展させてきたものである。

千葉大学は、**浙江大学に IEC オフィスを平成 15 年に設置している**。また**延世大学とは IEC オフィスを設置する予定**であったがコロナのため延期となっており、今年度あるいは来年度に設置することを検討している。さらに芝浦工業大学及び千葉大学の双方で、**アジアにおいては5つ以上のオフィスが存在**している。これらのオフィスを利用しながら本プログラムを展開することが可能である。



【計画内容】

千葉大学の国際化におけるアジア地域は、有効なエリアである。その一番のメリットは距離が近いことであり、さらに時差が2時間以内の間にほとんどの国が収まると言うことである。したがって今回推進しようとしているキャンパス・アジア及びアセアンへのプログラムは、大学の国際化において最重要な教育プログラムであり、これまで以上に積極的に大学を挙げて推進していく。

芝浦工業大学においても、アジアには2つのオフィスがあり、派遣・受入両方に重要なエリアとなっている。特に首都圏の大学ということで、そのアジアにある有力な工科大学との連携を行い、多様なプログラムを実践するとともに、研究を展開している。このような工科大学のネットワークという特徴の中で、本プログラムを実施するということは他の工科大学への影響力も大きく、大学の国際化に極めて有効なプログラムになると言える。

このように千葉大学及び芝浦工業大学の2つが連携することにより、それぞれの大学が持っているネットワークを最大限に利用しながら双方での相乗効果を狙うことができる。つまり、1つの大学で国際化を推進するよりも2倍のネットワークの拡張が期待でき、その点においても双方の大学に極めて大きなメリットがあるプログラムであると言える。

両大学ともに、現地でのオペレーションは大学のOBを活用することを検討している。このようにそれぞれの大学の学習カリキュラムをよく熟知した人間がプログラムを実施することによりプログラムの精度を上げるとともに、プログラムの実施のしやすさも実現できる。以上のように本プログラムは両方の大学にとって有益なプログラムであり、かつ両方の大学の国際化をさらに推進することが可能であるとともに、タッグを組んだ両方の大学の推進が見込める。

② 国内外への情報提供の方法・体制、成果の普及

【実績・準備状況】

千葉大学では、これまで様々な世界展開力強化事業を実施してきた。そのなかで、**最も影響力のある情報提供の方法は、事業対象国の在日公館での広報や事業対象国にある日本大使館からの発信**である。本事業でも、各国の大使館に依頼し、事業の広報を実施するとともに、日中韓・アセアンにおける発信を通して、連携大学を増加させていく。

また事業については、日本語と英語のホームページを、同一のコンテンツで公開している。このトップページにあるグローバルメニューより、スーパーグローバル大学創成支援事業および世界展開

力強化事業のページにアクセスできるようになっている。



図6 メキシコ大使館からのプレスリリース

一方で、教育に関する公開事項である3ポリシー、シラバス、コース・ナンバリング・システム、カリキュラムツリーなどの公開も実施している。過去の**世界展開力強化事業のプログラムは、全て英語での情報発信**を行っており、ソーシャルネットワークを利用した情報発信、スマートフォン対応による学生へのリアルタイムな情報発信、プログラムにおける学生のディスカッション内容や、動画によるプログラムの紹介などで、プロジェクトの最先端の情報発信を行っている (<http://design-cu.jp/code/>, <http://design-cu.xsrv.jp/puli/>)。

また、千葉大学は、グローバル関連プログラムを広く学外に開放している。これまで国立六大学連携コンソーシアム(新潟、金沢、岡山、長崎、熊本と千葉)において、グローバル関連のプログラムを**アセアンの大学連合であるAUNと共同で開発**してきた。これ以外にも、千葉大学が実施する海外派遣プログラムであるグローバル・スタディ・プログラムやグローバル・インターンシップなども他大学に開放し、フィンランド、ギリシャ、マレーシア、ドイツなど世界中でプログラムを実施している。本事業もこれまでのグローバル関連プログラムの延長線上に位置づけ、同様のポリシーでプログラムを開放する。

芝浦工業大学は、当大学が幹事校となって運営されている、産学官連携による**理工学教育の質向上を目的とした「GTI コンソーシアム(Global Technology Initiative Consortium)」**の枠組みの中で、国内・国外の大学を巻き込んだグローバルPBLなどを実施している。また国内理工系大学相互の連携による教育の活性化を目指した「工大サミット」でも中心メンバーと関わり、芝浦工業大学のプログラムにコンソーシアム加盟大学の学生・教職員が参加した実績があるなど、国内外へ情報提供するチャンネルを有している。海外大学との関係については、芝浦工業大学は200を越える海外協定校があり、これらの大学とPBLを実施してきているほか、**アジア理工系大学のアライアンスであるATU-Net(Asia Technology Universities Network、約40大学が加盟)**や、アジア・欧州20強の大学から構成されるWTUN(World Technology Universities Network)に日本で唯一加盟している大学である。よって、当該事業を国内だけでなく、海外に広めていく基盤を持っていると言える。

【計画内容】

本事業も、これまでに実施してきた世界展開力事業と同様、上記の3つの方法、「**大使館による情報提供**」+「**専用ホームページでの公開**」+「**国内外協定大学への公開**」、を実施する。インターネットを利用し、英語を第一言語としてホームページを構築していく。そしてさらに重要であると考えているのが、学生への広報である。本プログラムは、コロナ禍における世界展開力強化事業として、これまでとは異なる環境整備が必要である。そのため、日本人学生には、これまでのように派遣を中心として教育研究を行うのではなく、**我が国において十分に事前学習を行い、短期間であっても学修効果の高い派遣を実施していくプログラムであることを積極的に広報**する。

本事業で実施するプログラムは、学生向けのポータルサイトでその詳細な情報を公開し、積極的に利用する。このポータルサイトは、メディア授業のMoodleとリンクしており、これらを利用して広報を実施する。これらの内容は、千葉大学の学生は閲覧が可能だが、他大学の学生は閲覧ができない。そこで、**本事業では、事業採択後SDIのホームページを構築し、その中にSDI科目の内容を提供したページを作成**する。これらは、全て一般に公開されるため、他大学の学生も閲覧できる。なお、連携大学の学生でプログラムの副専攻学位を目指す学生は、千葉大学の学生同様に学生ポータルを利用でき、詳細情報を取得できる。また、千葉大学では、現在Microsoft TeamsとGoogle Workspaceを利用可能としており、SDIでもこれらを利用する。インターンシップ先の企業等とは、これらのシステムを利用してオンライン・インターンシップを実施することを予定している。

また、学生の利用頻度の高い、**ソーシャルネットワークを利用した授業の進行や情報の提供も行っていく**。一般的な情報はSNSでも発信し、授業の内容やセキュリティ管理が必要なものについては、学生ポータルやMoodleを用いて実施する。このように、インターネットを最大限に利用して、可能な限りの内容を広報し、魅力あるプログラムであることを訴えることで、成果の普及まで展開していく。

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	浙江大学 (中国)
---------------	-----------

① 交流実績 (交流の背景)

浙江大学とは、平成 23 年に大学間交流協定を締結し、10 年以上の交流実績を有している。この間平成 23 年に工学研究科とソフトウェア技術学院、工学研究科と国際デザイン研究院と2つのダブル・ディグリー・プログラムを締結、平成 29 年度にはソフトウェア学院とダブル・ディグリー・プログラムを締結している。また、工学研究科と国際デザイン研究院とは、博士課程の学生の共同育成プログラムも実施している。過去 10 年間に、修士 10 名 (このうち6名がダブルディグリーの学生)、博士 12 名を受入れており、現在も博士3名、修士2名が在籍している。また、一ヶ月未満のショートプログラムの学生 (学部および修士課程の学生) についても、10 年間で 100 名余りを受け入れている。連携授業は、工学研究科と国際デザイン研究院とで平成 24 年度より実施しており、これまでに浙江大学の学生約 200 名、千葉大学の学生 100 名が参加している。また、浙江大学は平成 24 年より、シンガポール工科大学 (SUTD) と共同プログラムを実施しているが、千葉大学もこの共同プログラムの一翼を担っており、SUTD の学生が千葉大学と浙江大学が共同で実施するワークショップにも参加し、多様な連携を実現している。

浙江大学には、千葉大学の博士の学位を取得した教員が在籍している。また、浙江大学周辺杭州市の大学には現在6名以上の千葉大学で博士の学位を取得した教員が在籍しており、中国中沿岸部で浙江大学を中心とした卒業生のネットワークが形成されている。浙江省杭州市および寧波市・上海市におけるインターンシップなどはこれらのネットワークを利用し、浙江大学とともに構築し、本プログラムで利用していく。

② 交流に向けた準備状況

令和2年 10 月に本プログラムにおける打ち合わせを実施、それ以降半年以上にわたってプログラムの検討をしている。これまで、メールによる内容確認と副専攻学位についても協議し、プログラムの実施によって、多様な学位を前向きに設置することで合意している。これまでのダブル・ディグリー・プログラムとは異なる新たなスキームで副専攻学位を設置するとともに、日中韓だけではなくアセアンまで拡張したプログラムを設置することで合意している。以上のように、今後の新規プログラム開発に向けた展開に加速をかけることができている。

一方で、国際デザイン研究院は、平成 28 年より、新たに学部学生の募集を準備しており、これが可能になると、今後は、学部-修士-博士の連携プログラムが可能となる。

表 10 浙江大学の ISD コンソーシアムメンバー、プログラム・コミッティ・メンバー (予定)

浙江大学		千葉大学	
孫凌雲 (Lingyun Sun)	国際デザイン研究院長	渡邊 誠	理事・副学長 国際・教育担当
黄敬華 (Huang Jinghua)	コンピュータサイエンス技術学院 教授 准教授	植田 憲	国際学術研究院 教授 dri(デザイン・リサーチ・インスティ チュート) 教授 dri 長 dri 教授
		小野 健太	

また、令和3、4年度の受入予定の学生については、「博士2名」が入学予定であり、本プログラムへの参加も希望している。また、本年9月にはオンライン・プログラムを実施予定で、PBL ワークショップを開催することも決定している。このように、すべてのプログラムを着々と実行している状況である。

表 11 令和3年度の実施までの今後の予定

	4-7月	7-8月	9-10月	11月以降
プログラム全体	▶実施準備	▶副専攻学位 設置準備 ▶SDI 科目設置検討	▶オンライン会議実施	▶プログラム開始 ▶共同授業設置検討
浙江大学からの受入		▶修士・博士入試	▶修士・博士入試結果	▶修士・博士 授業開始
SDI 科目 巡廻型演習科目	▶プログラム準備	▶プログラム計画	▶報告書作成	
その他	▶連携授業実施 ▶共同研究開始	▶連携授業実施	▶オンライン・プログラ ム実施	

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	延世大学 (韓国)
---------------	-----------

① 交流実績 (交流の背景)

延世大学とは、平成 23 年に大学間交流協定を締結し、すでに 10 年の交流実績を有している。特に、人文芸術大学デザイン芸術学部と工学研究科において教育研究での連携が行われてきた。工学研究科と美術大学の連携が本プログラムに直接関与する副専攻学位のプログラムの母体となる。また、モード2の成果や、本事業への継続などにより、韓国における他の他大学との連携も可能である。

一方で、キャンパス・アジア・モード2で実施した、ネイバーや KT など IT 及び情報産業系の企業との連携は、韓国国内での反響も高く、それゆえ、本プログラムへの参加を希望している大学は複数存在している。このように、韓国については、延世大学を主に、本プログラムを展開することは十分に可能な実績を有している。

また、キャンパス・アジア・モード1及び2の実施期間中において、延世大学の学部卒業生4名が千葉大学の修士課程に進学し、6名が交換留学生として千葉大学に在籍した。また、過去にも MADE (Master Asia Design Education Program) におけるデザインワークショップにおいても、これまでに 18 名の学生を千葉大学で受け入れている。さらにモード2においては、60 名以上の学生を受け入れてショート・プログラムやワーク・ショップを実施している。なお、本プログラムは延世大学において、モード2の大きな成果より、学内で重要な事業であると位置付けられており、積極的な支援を受けている。これらのことよりも、本プログラムの推進には積極的であり、かつ今後の連携強化が期待できるものである。

② 交流に向けた準備状況

本プログラムの実施については、10 月から6月にかけて複数回にわたり協議を行っている。また、モード2の自走化後のワークショップを7月にも実施しており、この内容は、巡廻型演習に即した未来のサービス・ビジネス・モデルの提案であり、本事業の実施の準備も万全である。延世大学のデザインは、韓国のデザイン系の大学の中では 30 年の歴史のある中堅的な学部であるが、本プログラムをはじめとしたグローバルなプログラムでは、韓国におけるデザイン系のリーディング学部である。

教員間の連携も活発に行われており、これまでの教育成果をグローバルな学会で発表するなど様々な成果を得ることができている。このように韓国の大学と積極的にプログラムの展開ができるのは、千葉大学に韓国出身の教員がいることが上げられる。以上のような人材のネットワークを通して、プログラムを確実に実施する。

表 12 延世大学の ISD コンソーシアムメンバー、プログラム・コミティ・メンバー (予定)

延世大学		千葉大学	
Byungkeun Oh	人文芸術大学 教授	植田 憲	dri 教授 dri 長
Suhong Hwang	人文芸術大学 教授	小野 健太	dri 教授
		張 益準	dri 准教授

また、令和3年の受入予定の学生については、延世大学の修士課程の学生1名を、交換留学として受け入れる予定である。また、来年1月に日本で実施予定のエクセレント・ウィンター・プログラム (対面・オンラインは未定) に、延世大学生6名を受入れワークショップを開催する予定である。

表 13 令和3年度の事業実施開始までの今後の予定

	4-7月	7-8月	9-10月	11月以降
プログラム全体	▶実施準備	▶副専攻学位 設置準備 ▶SDI 科目設置検討	▶オンライン会議実施	▶プログラム開始 ▶共同授業設置検討
延世大学からの受入		▶修士・博士入試	▶修士・博士入試結果	▶修士・博士 授業開始
SDI 科目 巡廻型演習科目	▶プログラム準備	▶プログラム計画	▶報告書作成	
その他	▶連携授業実施 ▶共同研究開始	▶連携授業実施	▶オンライン・プログラ ム実施	

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	マヒドン大学 (タイ)
---------------	-------------

① 交流実績 (交流の背景)

千葉大学は、マヒドン大学に2010年にIECオフィスを設置している。その後2016年にバンコク・キャンパスを設置し、アセアンの拠点としている。バンコク・キャンパスでは、MUIC (Mahidol University International College) の副学部長である Dr. Alexander Nanni 教授を、千葉大学のバンコク・キャンパス長として雇用し、積極的に運営している。さらに、千葉大学の教員が1名常駐している(現在はコロナで帰国中)。さらには、現地の教員だけではなく職員2名も採用し、年間300名の学生を受け入れてきた。

また、MUICでは、2つの種類のプログラムを実施している。第一は、全学に向けた教養的な留学プログラムである。英語を中心とした語学学習とともに、タイの文化を学び体験するプログラムを実施している。第二は、専門的な研究領域ごとのプログラムである。マヒドン大学とは、千葉大学の園芸学部とマヒドン大学の生物学部が連携し、植物改良に関する研究を行って来たのが出発点である。一方で、アジア・コアの事業において双方の薬学部が連携し研究を実施してきている。両方とも修士、博士の学生が活発に往来し、プログラムを精力的に実施している。このような2つの成果の中で、MUICにあるデザインとSDIプログラムを実施する。MUICとの大学院レベルでの新たなコラボレーションであり、SDIプログラムは、マヒドン大学においても革新的なプログラムとなりえる評価を得ている。

② 交流に向けた準備状況

本プログラムの実施については、本年2月以降に複数回にわたり協議を行っている。これまでの、キャンパス・アジア・モード2の成果や、それをもとにしたSDI-Aのプログラムの概要と大学院において実施する意義、さらには、アセアンにおけるSDI-Aの積極的な展開について説明を行った。またマヒドン大学にある千葉大学のバンコク・キャンパスが中心となり、アセアンの他の大学への展開を検討していることも説明し了解を得ている。

一方で、タイはさまざまなウィキッド課題が存在していると予測できる。環境問題や、社会インフラだけではなく、日本と同じような「地方創生」の問題も存在している。さらには、観光立国(観光先進国)としての様々な課題を扱うことができ、日中韓でも同様の課題を考えるきっかけになる。マヒドン大学とは、このような多様な課題を現地で実践するプログラムとして設置することが可能であり、巡廻型演習のプログラムを実施する拠点としては極めて望ましい。またマヒドン大学内にある千葉大学バンコク・キャンパス・オフィスを利用することで、安心して安全な環境のもとでプログラムを遂行できる。

表 14 マヒドン大学の ISD コンソーシアムメンバー、プログラム・コミッティ・メンバー(予定)

マヒドン大学		千葉大学	
Chulathida Chomchai Alexander Nanni	MUIC 教授 学部長 MUIC 教授 副学部長 千葉大学バンコク・キャンパス長	渡邊 誠 植田 憲 小野 健太	理事・副学長 国際・教育担当 国際学術研究院 教授 dri(デザイン・リサーチ・インスティ チュート) 教授 dri 長 dri 教授

プログラムは、中間評価のR5年より実施する。R3からR4はその状況を全て公開する。また、学生の希望があればSDI科目をオンラインで受講することを推奨する。さらには、R4より巡廻型演習科目についてSDIコンソーシアムのメンバーとして検討に参加してもらう。

表 15 令和5年の事業本格連携までの今後の予定

	R3 採択前	R3 採択後	R4	R5
プログラム全体	▶実施準備	▶副専攻学位 設置準備	▶詳細プログラム実施	▶受入実施
マヒドン大学からの受入			▶学生の部分的履修	▶交換留学受入
SDI 科目 巡廻型演習科目	▶プログラム準備	▶プログラム計画	▶報告書作成	
その他		▶連携授業実施 ▶共同研究開始	▶オンライン・プログラ ム実施	▶連携授業実施

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名
(国名)

キングモンクット工科大学トンブリ校 (タイ)

① 交流実績 (交流の背景)

キングモンクット工科大学トンブリ校(以下、KMUTT と記載)は、芝浦工業大学が東南アジアの有力工科系大学をパートナーに実施したハイブリッドツイニングプログラム(HBT)の対象校である。HBT は、対象校の優秀な大学院生を芝浦工業大学の博士後期課程にフルスカラシップで招聘するプログラムである。これまでに KMUTT から19名の学生がHBTに参加し、12名が博士学位を取得、うち2名がKMUTTの教員となっている。この2名の教員をハブとして、共同研究や学生交流プログラムを推進している。COVID-19の影響を受ける以前2018年度には、166名の芝浦工業大学生がKMUTTで行われた国際交流プログラムに参加し、151名のKMUTT生が芝浦工業大学で行われたプログラムに参加した。現在は、オンラインによる交流プログラムを継続実施中である。

また、2006年には、芝浦工業大学が提唱し、HBT参加大学による South East Asia Technical University Consortium (SEATUC)を設立した。現在は、それぞれの国を代表する5カ国8校による構成となっている。SEATUCでは、年に1回ホスト校が持ち回りでホスト役を務めるシンポジウムを開催している。各大学から学長級が集まり、現状の共有と将来の連携について話し合う学長会議や、分野ごとの研究者による研究発表(査読付き)が行われており、ジャーナルも発行している。これらの活動を通じ、交換留学における研究指導、共同研究、GTIコンソーシアムにおける連携、工学英語研修、グローバルPBLなどといった取り組みに拍車がかかっている。

特にグローバルPBLについては主要な共同実施相手であり、今回申請に関わるデザイン工学分野でも、KMUTTだけでなく台湾やインドネシアの大学など、他のアジアの大学も交えたPBL(アジア・オセアニア・デザイングローバルワークショップ)を実施した実績がある。

その他、芝浦工業大学はKMUTT内にバンコクオフィスを開設し、タイにおける活動拠点として機能している。

② 交流に向けた準備状況

本プログラムについて協議については実質これからといえるが、千葉大学がこれまで取り組んできたキャンパス・アジア・モード2の成果や、それをもとにしたSDI-Aのプログラムの概要と大学院において実施する意義、さらには、アセアンにおけるSDI-Aの積極的な展開としてKMUTTが一つの拠点となっていくことについて賛同を得ている。

日本に限らず、タイはさまざまなウィキッド課題が存在していると予測でき、巡廻型演習のプログラムを実施する拠点としてふさわしいとしたことはマヒドン大学の項でも述べたとおりである。上述のデザイン工学部が実施したワークショップは、フィールドワーク調査と分析を行い、それらを踏まえた上で新たなデザイン提案を実施したものであるが、デザイン提案は製品に限らず、サービスやシステムなど幅広い提案で行っており、本プログラムで実現するための素地はできているといえる。

表 16 KMUTT の ISD コンソーシアムメンバー、プログラム・コミッティ・メンバー(予定)

KMUTT		芝浦工業大学	
Chamnarn Tirapas	Chairperson Graduate Program of Design and Planning	高崎 明人 副学長	SGU 推進本部長 工学部教授 理工学研究科長 システム理工学部教授
		中村 仁	

プログラムは、中間評価のR5年より実施する。R3からR4はその状況を全て公開する。また、学生の希望があればSDI科目をオンラインで受講することを推奨する。さらには、R4より巡廻型演習科目についてSDIコンソーシアムのメンバーとして検討に参加してもらう。

表 17 R5年の事業本格連携までの今後の予定

	R3 採択前	R3 採択後	R4	R5
プログラム全体	▶実施準備	▶副専攻学位 設置準備	▶詳細プログラム実施	▶受入実施
KMUTTからの受入			▶学生の部分的履修	▶交換留学受入
SDI科目 巡廻型演習科目	▶プログラム準備	▶プログラム計画	▶報告書作成	
その他		▶連携授業実施 ▶共同研究開始	▶オンライン・プログラ ム実施	▶連携授業実施

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	マレーシア工科大学 (マレーシア)
---------------	-------------------

① 交流実績 (交流の背景)

マレーシア工科大学は、芝浦工業大学が東南アジアの有力工科系大学をパートナーに実施したハイブリッドツィニングプログラム(HBT)の対象校である。HBTは、対象校の優秀な大学院生を芝浦工業大学の博士後期課程にフルスカラシップで招聘するプログラムである。これまでにマレーシア工科大学から17名の学生がHBTに参加し、11名が博士学位を取得、うち10名がマレーシア工科大学の教員・研究者となっている。この10名の教員をハブとして、共同研究や学生交流プログラムを推進している。2019年度には、115名の芝浦工業大学生がマレーシア工科大学で行われた国際交流プログラムに参加し、53のマレーシア工科大学生が芝浦工業大学で行われたプログラムに参加した。現在は、オンラインによる交流プログラムを継続実施中である。

また、2006年には、芝浦工業大学が提唱し、HBT参加大学によるSouth East Asia Technical University Consortium (SEATUC)を設立した。現在は、それぞれの国を代表する5カ国8校による構成となっている。SEATUCでは、年に1回ホスト校が持ち回りでホスト役を務めるシンポジウムを開催している。各大学から学長級が集まり、現状の共有と将来の連携について話し合う学長会議や、分野ごとの研究者による研究発表(査読付き)が行われており、ジャーナルも発行している。これらの活動を通じ、交換留学における研究指導、共同研究、GTIコンソーシアムにおける連携、工学英語研修、グローバルPBLなどといった取り組みに拍車がかかっている。

芝浦工業大学はクアラルンプールにマレーシアサテライトオフィスを開設しており、スタッフを常駐させている。マレーシア工科大学はじめ、アセアン諸国の大学とのネットワークづくりに大きな役割を担っており、近年ではATU-Netを通じてつながりを深めている。ATU-Netは、約40校のアジア工科系大学から構成される戦略的国際アライアンスで、マレーシア工科大学が議長を務めており、芝浦工業大学は日本から唯一加盟している大学である。大学学長フォーラムの開催や、オンライン共同講義の実施などにおいて、企画段階から深くかかわるなど、未来を見据えたさまざまな取り組みを、幅広くアジアの大学を巻き込みながら共同して行っている。

② 交流に向けた準備状況

本プログラムについて協議については実質これからといえるが、千葉大学がこれまで取り組んできたキャンパス・アジア・モード2の成果や、それをもとにしたSDI-Aのプログラムの概要と大学院において実施する意義、さらには、アセアンにおけるSDI-Aの積極的な展開としてマレーシア工科大学が一つの拠点となっていくことについて賛同を得ている。

芝浦工業大学が注力して海外大学と行ってきたグローバルPBLは、分野こそさまざまであるものの、等しく社会問題の解決を目的として行ってきたものであり、その意味では、本プロジェクトが目指す巡廻型学習をマレーシア工科大学との間で実現することは難しいといえる。

表 18 マレーシア工科大学の ISD コンソーシアムメンバー、プログラム・コミッティ・メンバー(予定)

マレーシア工科大学		芝浦工業大学	
Mohd Ismid Md Said	Pro-Vice Chancellor (International)	高崎 明人	副学長 SGU 推進本部長 工学部教授 理工学研究科長 システム理工学部教授
		中村 仁	

プログラムは、中間評価のR5年より実施する。R3からR4はその状況を全て公開する。また、学生の希望があればSDI科目をオンラインで受講することを推奨する。さらには、R4より巡廻型演習科目についてSDIコンソーシアムのメンバーとして検討に参加してもらう。

表 19 R5年の事業本格連携までの今後の予定

	R3 採択前	R3 採択後	R4	R5
プログラム全体	▶実施準備	▶副専攻学位 設置準備	▶詳細プログラム実施	▶受入実施
マレーシア工科大学からの受入			▶学生の部分的履修	▶交換留学受入
SDI科目 巡廻型演習科目	▶プログラム準備	▶プログラム計画	▶報告書作成	
その他		▶連携授業実施 ▶共同研究開始	▶オンライン・プログラ ム実施	▶連携授業実施

事業計画の実現性、事業の発展性 【①は1ページ以内、②、③、④は合わせて3ページ以内】

① 年度別実施計画

【2021年度(申請時の準備状況も記載)】

採択前より、事業全体を運営する**コンソーシアムの設置を4大学で協議し、採択後直ちに開始**できるように準備を進めている。初年度は、オンラインのSDI科目設置を中心に、プログラムを構築する。

- (1)10月 ソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)副専攻の設置 SDI科目の設置
- (2)6月 SDIコンソーシアム設置(申請前了承) 採択後プログラム・コミティ設置 実施準備
- (3)10月 SDI科目8科目の設置 主要4大学各大学2科目設置 参加学生の選定
- (4)9月 墨田-豊洲キャンパス間ネットワークの構築 キャンパスでのプレWS実施
- (5)6月 巡廻型演習科目の提案 墨田区との連携承諾済 採択後企業連携スポンサーと課題構築
- (6)10月 4大学間の単位互換システムの再構築 アジア共通履修システムの構築に向けた検討開始

【2022年度】

コロナ後の通常派遣・受入のプログラム実施。**アセアンへの展開の本格実施**、マヒドン大学を中心にバンコクで展開。マレーシアも展開を検討。SDIコンソーシアムの拡張の模索。5-6拠点巡廻型演習の実現。

- (1)4月 SDI科目のアセアンへの提供 2時間時差の解消 プログラム・マネージメント実施
- (2)4月 SDI科目の拡張 アセアンにおけるSDI科目の検討 マヒドン大学 KMUTTからの授業提供検討
- (3)4月 SDI科目8科目のオンライン参加システム構築
- (4)4月 千葉大学-芝浦工業大学連携 巡廻型演習科目の実施
- (5)6月 2巡廻型演習科目の実施 1地域創生型(自治体課題) 2eコマース産業創生型(企業課題)
- (6)4月 4大学間の単位互換システムの再構築 アジア共通履修システムの構築に向けた検討開始

【2023年度】

アセアン他大学へ展開 連携大学として展開 **インドネシアITB マレーシアUPM など、SDIコンソーシアムで協議しながら大学を選定し実施。**

- (1)4月 SDI科目のインドネシア、マレーシアへの拡張 各大学からのSDI科目提供の可能性について検討
- (2)4月 SDI科目の拡張 アセアンにおけるSDI科目の検討 マヒドン大学 KMUTTからの授業提供検討
- (3)4月 SDI科目のCOIL型システムの構築 COIL+フリップティーチングで効率的な学修支援
- (4)4月 タイでの巡廻型演習科目の実施 タイ東北部の地方創生 アセアンのeコマース産業等
- (5)6月 アセアンにおける巡廻型演習科目のさらなる開発 企業スポンサーの開拓
- (6)4月 8大学間の単位互換システムへ拡張 アジア共通履修システムの構築に向けた検討継続

【2024年度】

アセアンの拡張 ベトナム シンガポール他 アセアン10大学に拡張 マレーシアUPM ベトナムFPT スラバヤ工科大学他 合計14大学で実施

- (1)4月 SDI科目のベトナム、シンガポールへの拡張 各大学からのSDI科目提供
- (2)4月 SDI科目のレビュー実施 巡廻型演習科目との連携について再確認し授業内容を再構築
- (3)4月 COIL型システムのさらなる開発 COIL+フリップティーチングで効率的な学修支援
- (4)4月 インドネシア及びマレーシアでの巡廻型演習科目の実施
- (5)6月 巡廻型演習科目の継続開発 企業スポンサーの継続的な開拓 日本の現地法人などの検討
- (6)4月 10大学間の単位互換システムへ拡張 SDIコンソーシアムのさらなる拡張での検討拡大

【2025年度】

アセアンの拡張 合計14大学で実施 **自立化後を見据えたSDIコンソーシアムでのプログラムの再検討と先鋭化を実施 日本国内でのシステムの再検討と効果的運用実施**

- (1)4月 SDI科目見直し、14大学で実施 各大学からのSDI科目再提案で自立化後のプログラム確保
- (2)4月 巡廻型演習科目のレビュー 14大学連携で演習課題を検討 プログラムの改革を実施
- (3)4月 COIL+フリップティーチング型授業の定着
- (4)4月 ベトナムおよびシンガポールでの巡廻型演習科目の実施
- (5)6月 巡廻型演習科目の継続開発 企業スポンサーの継続的な開拓 日本の現地法人などの検討
- (6)4月 14大学間の単位互換システムへ拡張 SDIコンソーシアムのさらなる拡張及びアセアン共通化推進

② 交流プログラムの質の向上のための評価体制

交流プログラムの評価は、3つの方法で行い、その両方の評価結果を学長に報告する。また、評価の結果は、プログラム・コミッティへと報告され、改善策を報告する。3つの評価は、以下の通りである。

(評価1) プログラム・コミッティの評価チームによる教育プログラムの質保証

プログラム・コミッティは、千葉大学と芝浦工業大学及び海外の大学と連携し設置する。最初はキャンパス・アジアで連携していた大学を含め、日本2大学、中国1大学、韓国1大学の4大学で構築する。この中に評価チームを設置し、プログラム全体を評価してもらう。委員会は、**外部の教育に関する有識者5名(女性、外国人も含む。)**と、各大学の代表4名により構成され、4ヶ月に1回程度の割合で開催し、本プログラムの教育に関する質の保証を実施している。外部の有識者の中には、**海外の大学に勤務し、海外大学との教育連携に精通した者や、外国人**を採用し、今回のような新しいプログラムの良し悪しについて、適切な判断を下していただく。

(評価2) 千葉大学の経営協議会 芝浦工業大学の学内・学外評価委員会

<千葉大学>

千葉大学では、**事業が適正に実施されているかについては、経営協議会**において実施する。経営協議会は外部委員14名と学内委員13名である。産業界や外国人外部委員など多様な委員から、千葉大学の経営に関わる全ての事業について最終決定を得ている。中でも、グローバル教育についてはその経験者が多く、多様な示唆に富んだ指摘をいただいている。この経営協議会においても、2ヶ月に一度の報告を実施する。プログラムの内容はもとより、適正な費用で適正に実施されているかについて評価を受け、修正・変更などを適宜実施していく。

<芝浦工業大学>

芝浦工業大学では、大学点検・評価分科会(毎年6月)、大学外部評価委員会(毎年2月)、学校法人評価委員会(毎年3月)があり、これら評価委員会において、大学における本事業の位置づけ、各取組における活動状況および目標達成状況の評価を受けている。平成29年4月、学校法人として内部質保証に関する規程を制定した。大学の目的および社会的使命を達成し、自らの判断と責任において評価結果を改革、改善につなげる。その実行には学部長・研究科長会議が責任を担うこととしている。内部での評価については、**Centennial SIT Action (芝浦工業大学がグローバル大学を目指すために取り組む5つの課題の宣言)の進捗状況を共有・確認するための大学会議**や、法人全体で各部局・事務部門の取り組み状況の共有・確認を行う期首会議・期中会議で行っている。大学のグローバル化対応や進捗状況を報告し、会議で出された提言に対しては学長の強いリーダーシップのもと、大学のグローバル化推進のための意思決定機関としてのSGU推進本部が対応策を提案し、学部長・研究科長会議を通して全学で実施するPDCAサイクルの展開を確立した。外部評価の体制としては、年度ごとに学校法人芝浦工業大学評価委員会の下にある大学外部評価委員会(外部有識者4名による構成)にて、第三者による評価を実施している。評価方法として、自己点検評価報告書のほかに外部評価委員による学生インタビューも行っている。令和2年度からは、グローバル化対応の観点から、外部評価委員に外資系企業の人事関係役職者を加え、外資系企業の視点での意見をとり入れている。

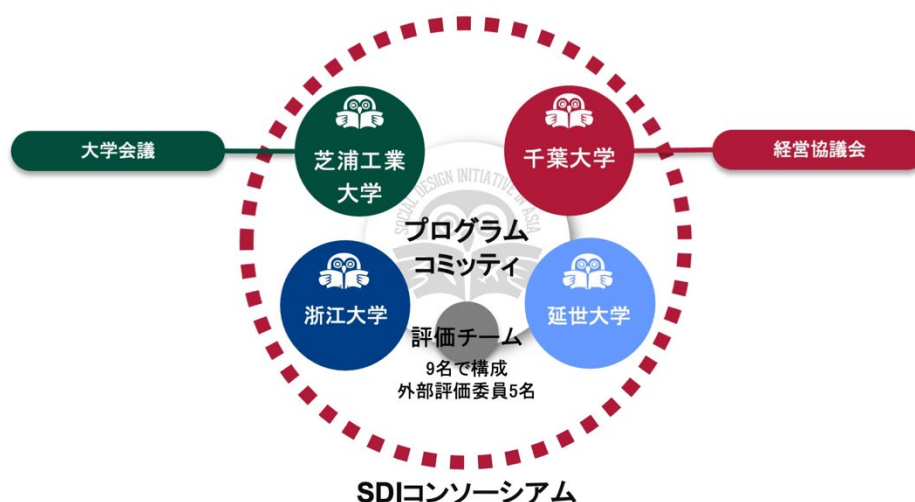


図7 評価体制

(評価3)ウィキッド課題提供の自治体・企業等から評価

3番目は外部評価である。本授業で扱う課題は、最初に示した通り社会性が高くかつ厄介な課題である場合が多い。それぞれの地域における課題に解決の提案方法については、必ず各企業や自治体に対して報告する。その評価の結果に対してプログラムが適切であるかあるいはプログラムの内容として評価できるものかを評価してもらおう。このようにそれぞれのプログラムごとにおける教育効果については、自治体や企業等からの評価として受け取る。

以上のようにグローバルな評価、2つのプログラムを主催する大学における評価、および企業や自治体など外部の評価の3つにより構成し、適正な評価を行いながらプログラムを実施していく。

③ 補助期間終了後の事業展開

千葉大学は、令和2年度よりENGINEプランで全員留学を実施している。大学院学生も全員留学を実施しているため、本プログラムに参加することで留学となる。

一方、芝浦工業大学は、SGU採択以後教育改革を実施し、当該事業補助期間終了後も自走化によりSGU事業で定めた目標水準を維持することとしている。同様に本事業においても期間終了後のプログラムのさらなる推進に努める。

このような環境において本プログラムは国立大学と私立大学が相互に取り組みかつ副専攻の学位を付与するところまで学修の保障のレベルを上げたものである。したがって補助期間終了後も、そこでの構築された副専攻学位のプログラムを中心に継続的に実施する。

<千葉大学 芝浦工業大学 共同事業展開>

●副専攻の共同学位から主専攻の共同学位の設置に向けた検討

SDIの副専攻プログラムを設置するにあたり、将来的には2つの大学で共同学位の授与を検討していく。これは国内においては初の試みになる可能性があり、大学の学位プログラムのあり方についても様々な検討ができると考えられる。

●スマート・ハイブリッド・イノベーション・プログラム(SHIPの推進)

プログラムの多くをメディアによる授業として実施できるように構築していく。これはコロナ禍におけるメディアの有効性を最大限に利用したものであり、また異なる大学間で効率的な教育を行うための様々な工夫がなされている。すべてをメディアにするのではなくメディアによる授業は予習的な意味として位置づけられ、学生が事前に最大限に学習することを目標にプログラムを構築していく。このように、スマートラーニングと、逆に現地に行かなければわからないウィキッド課題の解決という全く異なる2つのプログラムの組み合わせによって、まさにハイブリッドなプログラムを構築することができると考えている。

●スチューデント・チュートリアル・システム(STS)からの学生相互の強力なネットワーク化

STSは、単に学習だけではなく、学生同士のコミュニケーションを向上させる。ここで培われたコミュニケーション・ネットワークを利用して、継続的な学生のネットワークを構築できる。さらには、これらの学生が将来教員となったり、アジアでの公共事業に従事するようになるとこれらのネットワークは極めて有効な組織となりうる。さらにこのようなOB組織のネットワークを利用して大学との連携を強化、未来の連携企業や連携大学となることを目指す。

<千葉大学 事業展開>

●大学院国際実践プログラム

本事業で実施するソーシャルデザインイノベーションの副専攻学位は、大学院の国際実践プログラムとして実施していく。そのため補助期間終了後も、大学院国際実践プログラムの副専攻学位として、大学が責任を持って実施する。

●ENGINEプラン

海外留学に関わるプログラムは、令和2年度より開始した全員留学を伴うENGINEプランの一部に必ず位置づけられる。本プログラムでの留学は大学院における留学の認定となり、修了の要件である留学を本プログラムに参加することによって実施することができる。このENGINEプランにおいては渡航に関する支援があるため、プログラムを自主的に実施するとともに学生の支援も実施することができる。

このように大学を支援することにより補助期間終了後もプログラムを円滑に推進できる。

<芝浦工業大学 事業展開>

●Centennial SIT Actionでの継続実施

SGU採択以降、学生は卒業まであるいは修了までに全員留学をするというのが目標になっている。本プログラムはこの目標を実現する一つとして位置づけることができ、大学が支援することによって補助期間後もプログラムを円滑に推進できる

●理工学教育の質向上を目的とした「GTI コンソーシアム」での実施

本事業で連携する大学のうち、アセアンの大学は、GTI コンソーシアムのアドバイザーメンバーになっている大学である。そのため3年目以降のアセアンにおける展開は、補助期間終了後も十分に円滑に実施できると考えている。アジア+アセアンを通じてこのGTIコンソーシアムで、グローバルな理工系人材の育成を推進していく。

④ 補助期間終了後の事業展開に向けた資金計画

本事業は、大学院教育における新たな試みであり、全員留学を推進する千葉大学に必須のプログラムである。また、ニューノーマルにおける学習のプロトタイプを構築し、短期の留学で学修成果を上げることも目指す。そのため、補助期間中から積極的に大学の教育のための学長裁量の教育経費を投入して運営していく。

また、本事業は、デザインイノベーターを育成するため、多くの企業と連携する。本プログラムを修了した学生は、これらの企業にも就職するため、企業からは人材育成への奨学寄附金を募る。一方で、共同研究も締結し、研究費の一部をプログラムの継続のために利用する。

したがって資金計画は、(1)学長裁量の教育経費、(2)教育奨学寄附金、(3)共同研究や寄附講座、(4)企業・自治体のスポンサーシップ、(5)教育寄附金(SEEDS 基金等)、(6)その他、を想定している。

下記は、あくまでも概算であるが、年間 10,000 千円前後を目標に資金を獲得し継続させる。

(1)学長裁量の教育経費 3,000~6,000 千円

学長裁量経費を利用し、大学院国際実践プログラムによる副専攻学位プログラムを推進させる経費を継続的に投入する。これは、補助期間中も自己資本として投入しているものを継続的に利用する。

また、教員や職員が継続的に必要な場合は、この教育経費とは別に特別な人件費を計上していく。

(2)教育奨学寄附金 0 円~3,000 千円

奨学寄附金は、基本的には学生の支援に利用する。主に修士および博士の研究への支援とする。本事業の連携企業先より寄附を募る。

(算出根拠)1企業あたり、1,000 千円×0~5企業=0~5,000 千円

(3)共同研究や寄附講座 0 円~15,000 千円

プロジェクトの進行過程では新たな社会課題の解決に必要な技術が不可欠となる。これらの技術開発については、企業から共同研究でスポンサーしてもらおう。また、可能であれば、寄附講座として大学に寄贈してもらい、それを継続する。寄附講座は、専門研究員を1名から複数名雇用できる規模とし、あまり大きくせず実施する。共同研究の実施など、年度更新が不可能な部分を補填する意味で、継続的な雇用を寄附講座で実現する。

(算出根拠)1研究テーマあたり、3,000,000 円×年間 0 件~5件程度=0~15,000 千円

(4)企業・自治体のスポンサーシップ 0 円~2,500 千円

学生の派遣・受入には、奨学金や交通費等の資金援助が必要である。そこで、補助期間終了後は、企業でインターンシップを行うのに合わせて来日したり渡航したりすることで、企業が交通費及び滞在費を負担し、学生のモビリティを維持する。

(算出根拠)年間 40(人月)×(100,000(円)(滞在費)+150,000(円)(交通費))×1/4=2,500,000 円

(5)教育寄附金(SEEDS 基金等) 0~10,000 千円

千葉大学寄附金である SEED 基金から、学生の留学に関する支援を行ってもらおう。補助期間中も必要に応じて、教育寄附金(SEEDS 基金)を用いて学生を渡航させる。

(6)その他 0~12,000 千円

本プログラムの一部を、ショート・プログラムとして海外の大学に提供し、授業料収入を得る。(算出根拠)1プログラム 4,000 円×0~3 プログラム=0~12,000 円

以上をまとめると、最低 3,000,000 円~最高 48,500,000 円の収入が可能であると計画でき、十分な事業展開が可能であると考えられる。なお本予算は、中間評価までに精査し、事業化の可能性により上下させて計画していく。

補助期間における各経費の明細【年度ごとに1ページ】

補助金申請ができる経費は、当該事業の遂行に必要な経費であり、本プログラムの目的である大学の世界展開力強化のための使途に限定されます。
(令和3年度大学の世界展開力強化事業公募要領参照。)

(単位：千円)

<2021年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	1,200	2,200	3,400	
	①設備備品費		2,200	2,200	
	・SDI専用オンラインシステム		2,200	2,200	
	・				
	②消耗品費	1,200		1,200	
	・巡回型演習モデル制作材料	700		700	
	・プレゼンテーションポスター消耗品	500		500	
	・				
	[人件費・謝金]	5,000		5,000	
	①人件費	4,200		4,200	
	・SDIコンソーシアム事務 2名	4,200		4,200	
	・				
	②謝金	800		800	
	・プログラム特別講師	800		800	
	・				
	[旅費]	2,400		2,400	
	・浙江大学 打合せ	1,200		1,200	
	・延世大学 打合せ	1,200		1,200	
	・				
	・				
	・				
	[その他]	7,200		7,200	
	①外注費	2,000		2,000	
	・WEBページ作成依頼	2,000		2,000	
	・				
	②印刷製本費				
	・				
	③会議費				
	・				
	④通信運搬費				
	・				
	⑤光熱水料				
	・				
	⑥その他(諸経費)	5,200		5,200	
	・巡回型学修 学生支援	5,200		5,200	
	・				
	2021年度	合計	15,800	2,200	18,000

(大学名：千葉大学) (タイプ A①:CA プラス)

(前ページの続き)

(単位：千円)

＜2022年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	820		820	
	①設備備品費				
	・				
	・				
	②消耗品費	820		820	
	・巡回型演習モデル制作材料	400		400	
	・プレゼンテーションポスター消耗品	420		420	
	・				
	[人件費・謝金]	7,900	2,100	10,000	
	①人件費	6,300	2,100	8,400	
	・SDIコンソーシアム事務 2名	6,300	2,100	8,400	
	・				
	・				
	②謝金	1,600		1,600	
	・プログラム特別講師	1,600		1,600	
	・				
	・				
	[旅費]	800	1,680	2,480	
	・浙江大学 打合せ	800		800	
	・延世大学 打合せ		800	800	
	・マヒドン大学 打合せ		880	880	
	・				
	・				
	・				
	[その他]	4,700		4,700	
	①外注費				
	・				
	・				
	②印刷製本費				
	・				
	・				
	③会議費				
	・				
	・				
	④通信運搬費				
	・				
	・				
	⑤光熱水料				
	・				
	・				
	⑥その他(諸経費)	4,700		4,700	
	・巡回型学修 学生支援	4,700		4,700	
	・				
	・				
2022年度	合計	14,220	3,780	18,000	

(大学名：千葉大学

) (タイプ A①:CAプラス)

(前ページの続き)

(単位：千円)

＜2023年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	698	702	1,400	
	①設備備品費				
	・				
	・				
	・				
	②消耗品費	698	702	1,400	
	・巡回型演習モデル制作材料	300	400	700	
	・プレゼンテーションポスター消耗品	398	302	700	
	・				
	[人件費・謝金]	7,900	2,100	10,000	
	①人件費	6,300	2,100	8,400	
	・SDIコンソーシアム事務 2名	6,300	2,100	8,400	
	・				
	・				
	②謝金	1,600		1,600	
	・プログラム特別講師	1,600		1,600	
	・				
	・				
	[旅費]		2,400	2,400	
	・浙江大学 打合せ		800	800	
	・延世大学 打合せ		800	800	
	・マヒドン大学 打合せ		800	800	
	・				
	・				
	・				
	[その他]	4,200		4,200	
	①外注費				
	・				
	・				
	・				
	②印刷製本費				
	・				
	・				
	③会議費				
	・				
	・				
	④通信運搬費				
	・				
	・				
	⑤光熱水料				
	・				
	・				
	⑥その他(諸経費)	4,200		4,200	
	・巡回型学修 学生支援	4,200		4,200	
	・				
	・				
2023年度	合計	12,798	5,202	18,000	

(大学名：千葉大学

)

(タイプ A①:CAプラス)

(前ページの続き)

(単位：千円)

<2024年度> 経費区分		補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
[物品費]		588	482	1,070	
①設備備品費					
.					
.					
②消耗品費		588	482	1,070	
・巡回型演習モデル制作材料		200	200	400	
・プレゼンテーションポスター消耗品		388	282	670	
.					
[人件費・謝金]		7,100	2,900	10,000	
①人件費		6,300	2,100	8,400	
・SDIコンソーシアム事務 2名		6,300	2,100	8,400	
.					
.					
②謝金		800	800	1,600	
・プログラム特別講師		800	800	1,600	
.					
.					
[旅費]			2,400	2,400	
・浙江大学 打合せ			800	800	
・延世大学 打合せ			800	800	
・マヒドン大学 打合せ			800	800	
.					
.					
.					
.					
[その他]		3,830	700	4,530	
①外注費					
.					
.					
②印刷製本費					
.					
.					
③会議費					
.					
.					
④通信運搬費					
.					
.					
⑤光熱水料					
.					
.					
⑥その他(諸経費)		3,830	700	4,530	
・巡回型学修 学生支援		3,830	700	4,530	
.					
.					
2024年度	合計	11,518	6,482	18,000	

(大学名：千葉大学

)

(タイプ A①:CAプラス)

(前ページの続き)

(単位：千円)

＜2025年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]		950	950	
	①設備備品費				
	・				
	・				
	・				
	②消耗品費		950	950	
	・巡回型演習モデル制作材料		500	500	
	・プレゼンテーションポスター消耗品		450	450	
	・				
	[人件費・謝金]	6,916	3,084	10,000	
	①人件費	6,300	2,100	8,400	
	・SDIコンソーシアム事務 2名	6,300	2,100	8,400	
	・				
	・				
	②謝金	616	984	1,600	
	・プログラム特別講師	616	984	1,600	
	・				
	・				
	[旅費]		2,400	2,400	
	・浙江大学 打合せ		800	800	
	・延世大学 打合せ		800	800	
	・マヒドン大学 打合せ		800	800	
	・				
	・				
	・				
	[その他]	3,450	1,200	4,650	
	①外注費				
	・				
	・				
	・				
	②印刷製本費				
	・				
	・				
	③会議費				
	・				
	・				
	④通信運搬費				
	・				
	・				
	⑤光熱水料				
	・				
	・				
	⑥その他(諸経費)	3,450	1,200	4,650	
	・巡回型学修 学生支援	3,450	1,200	4,650	
	・				
	・				
2025年度	合計	10,366	7,634	18,000	

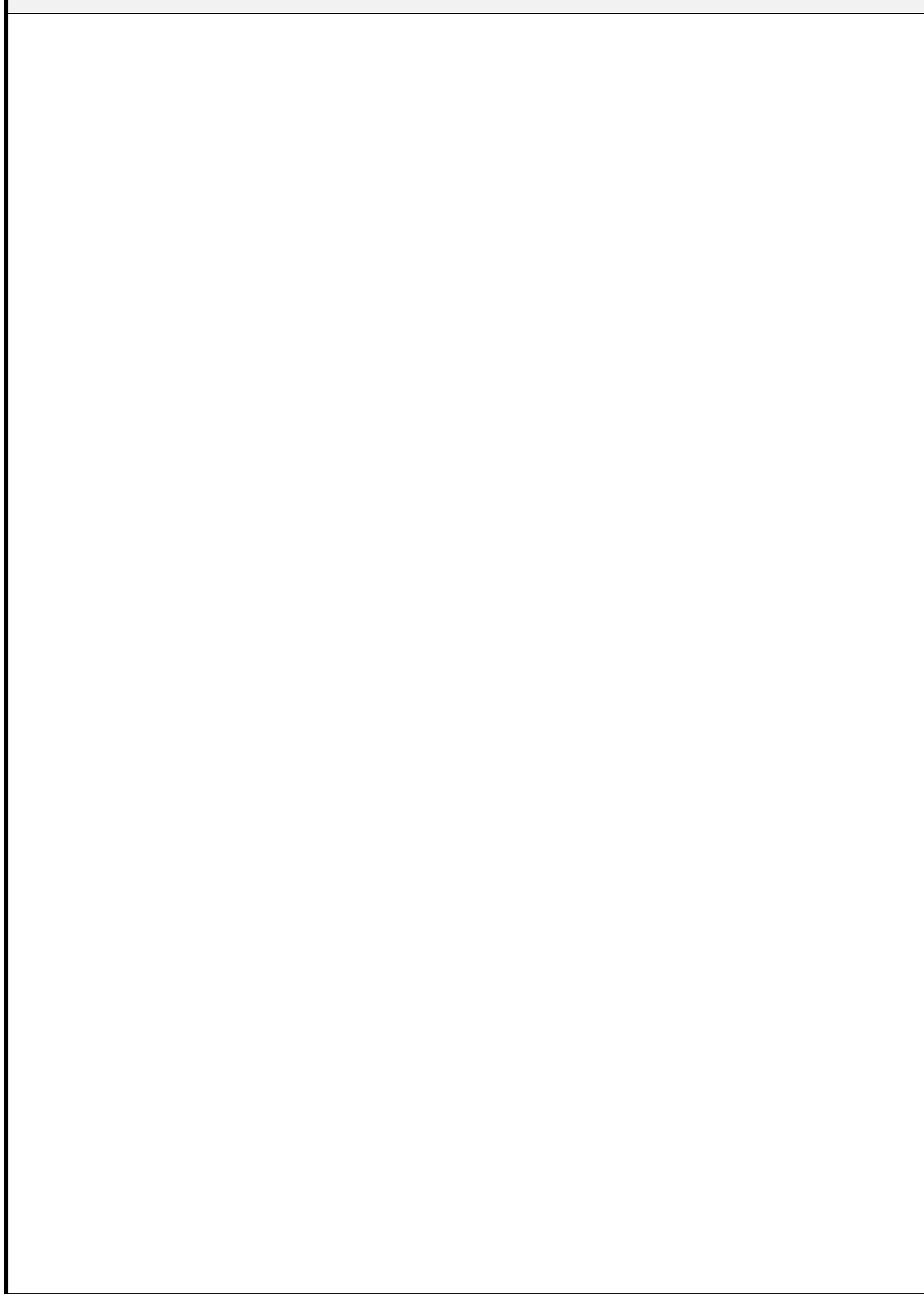
(大学名：千葉大学

) (タイプ A①:CAプラス)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】						
①交流プログラムを実施する相手大学の概要						
大 学 名 称	(日) 浙江大学			国 名	中国	
	(英) Zhejiang University					
設 置 形 態	国立	設 置 年	1897年			
設 置 者 (学 長 等)	WU Zhaohui					
学 部 等 の 構 成	Faculty of Arts and Humanities, Faculty of Social Sciences, Faculty of Science, Faculty of Engineering, Faculty of Information Technology, Faculty of Agriculture, Life and Environment, Faculty of Medicine					
学 生 数	総数	57,157人	学 部 生 数	23,897人	大学院生数	33,260人
受け入れている留学生数	7,131	日本からの留学生数	不明			
海外への派遣学生数	5,690	日本への派遣学生数	不明			
Webサイト (URL)	http://www.zju.edu.cn/english/main.htm					
②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。						
当該大学は中華人民共和国教育部ウェブサイト上の大学一覧に掲載されている。 https://web.archive.org/web/20100928001512/http://www.moe.edu.cn/english/list.htm						

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。



(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】						
①交流プログラムを実施する相手大学の概要						
大 学 名 称	(日) 延世大学校			国 名	韓国	
	(英) Yonsei University					
設 置 形 態	私立	設 置 年	1885年			
設 置 者 (学 長 等)	Seoung Hwan Suh					
学 部 等 の 構 成	College of Liberal Arts, College of Commerce and Economics, School of Business, College of Science, College of Engineering, College of Life Science and Biotechnology, College of Theology, College of Social Sciences, College of Law, College of Music, College of Human Ecology, College of Educational Sciences, University College, Underwood International College (UIC), Global Leadership Division, College of Medicine, College of Dentistry, College of Nursing, College of Pharmacy					
学 生 数	総数	38,565人	学 部 生 数	26,259人	大学院生数	12,306人
受け入れている留学生数	3,739	日 本 からの 留 学 生 数	不明			
海外への派遣学生数	不明	日 本 への 派 遣 学 生 数	不明			
W e b サ イ ト (U R L)	https://www.yonsei.ac.kr/en_sc/index.jsp					
②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。						
当該大学は韓国国立国際教育院ウェブサイトに掲載されている。 http://www.studyinkorea.go.kr/ja/sub/college_info/college_info.do?ei_code=530801						

(大学名： 千葉大学

) (タイプ A①:CA プラス

)

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】				
①交流プログラムを実施する相手大学の概要				
大 学 名 称	(日)マヒドン大学		国 名	タイ
	(英) Mahidol University			
設 置 形 態	国立	設 置 年	1943	
設 置 者 (学 長 等)	Prof. Banchong Mahaisavariya, M.D.			
学 部 等 の 構 成	Faculty of Dentistry, Faculty of Engineering, Faculty of Environment and Resource Studies, Faculty of Graduate Studies, Faculty of Information and Communication Technology, Faculty of Liberal Arts, Faculty of Medical Technology, Faculty of Medicine Ramathibodi Hospital, Faculty of Medicine Siriraj Hospital, Faculty of Nursing, Faculty of Pharmacy, Faculty of Physical Therapy, Faculty of Public Health, Faculty of Science, Faculty of Social Sciences and Humanities, Faculty of Tropical Medicine, Faculty of Veterinary Science			
学 生 数	総数	28,774人	学部生数	20,948人
			大学院生数	7,826人
受け入れている留学生数	2,983	日本からの留学生数	31人	
海外への派遣学生数	181	日本への派遣学生数	75人	
Webサイト(URL)	https://mahidol.ac.th/			
②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。				
当該大学はタイ高等教育科学研究イノベーション省のウェブページ上の大学一覧に掲載されている。 http://www.inter.mua.go.th/ https://drive.google.com/file/d/1ICWlqWUxyrySYb3y4L1_YkYY1vniTQ0b/view				

(大学名: 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

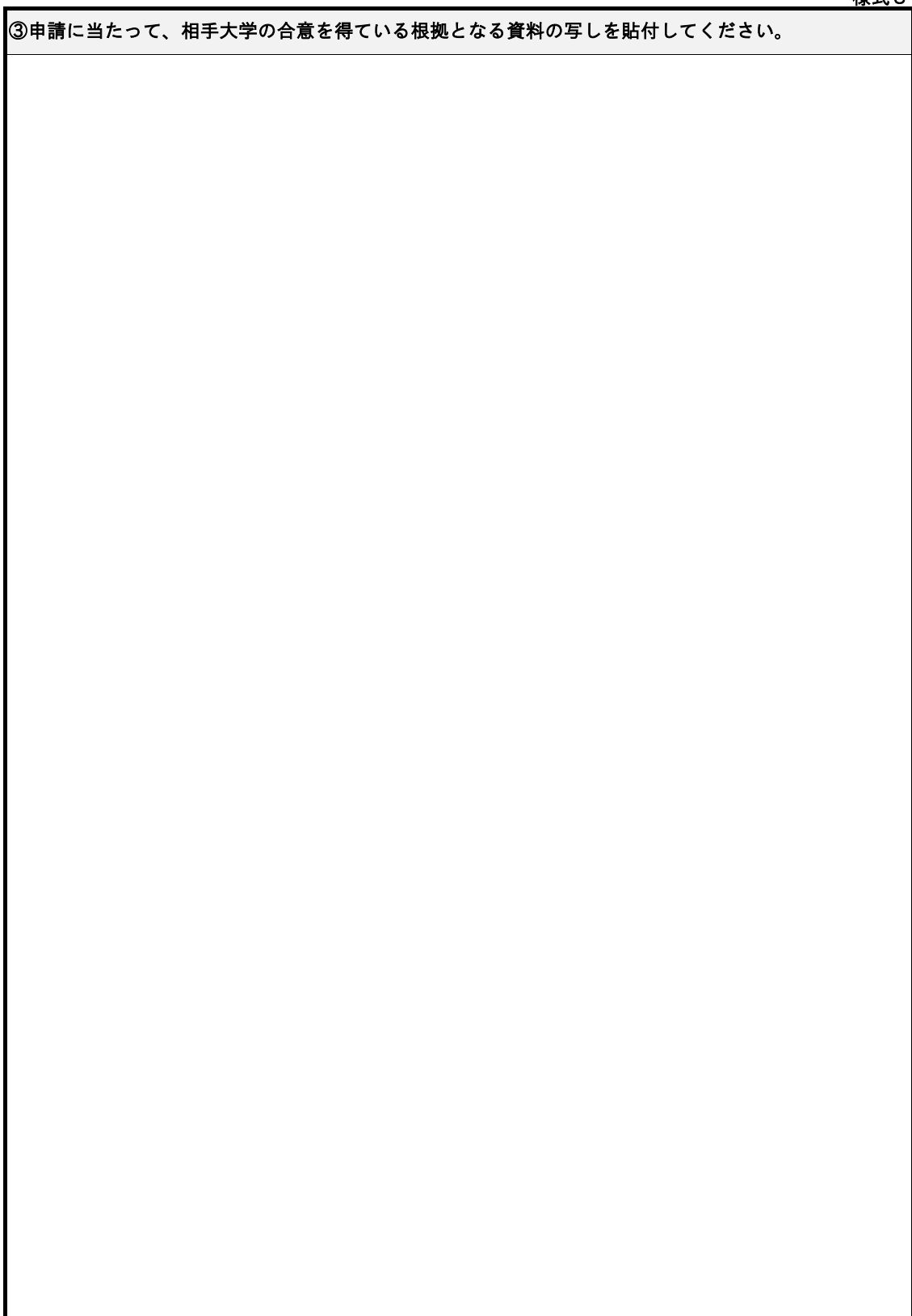
③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】						
①交流プログラムを実施する相手大学の概要						
大 学 名 称	(日) キングモンクット工科大学トンプリ校 (英) King Mongkut's University of Technology Thonburi		国名	タイ		
設 置 形 態	国立	設 置 年	1960年			
設 置 者 (学 長 等)	Associate Professor Dr. Suvit Saetia					
学 部 等 の 構 成	Faculty of Industrial Education and Technology, School of Information Technology, Faculty of Science, Faculty of Engineering, School of Architecture and Design, College of Multidisciplinary Sciences Faculty of Industrial Education and Tech, School of Bioresources and Technology, School of Information Technology, School of Energy, Environment and Materials, Faculty of Science, Faculty of Engineering, Graduate School of Management and Innovation, Institute of Field Robotics, School of Multidisciplinary Sciences, School of Architecture and Design, School of Liberal Arts, The Joint Graduates School of Energy and Environment					
学 生 数	総数	15,213人	学部生数	11,940人	大学院生数	3,273人
受け入れている留学生数	383人	日本からの留学生数	38人			
海外への派遣学生数	28人 オンライン含む	日本への派遣学生数	9人 オンライン含む			
Webサイト (URL)	https://global.kmutt.ac.th/					
②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。						
当該大学は、Office of the Higher Education Commission (OHEC), Ministry of Education, Thailand のWebサイト上の認可大学リストに掲載されている。 https://drive.google.com/file/d/1ICWlqWUxyrySYb3y4L1_YkYY1vniTQ0b/view						
List of Accredited Thai Higher Education Institutions						
As of 13 May 2021						
Type of university	No.	Name of university	Website			
Autonomous universities (26)	1	Burapha University	www.buu.ac.th			
	2	Chiang Mai University	www.cmu.ac.th			
	3	Chulalongkorn University	www.chula.ac.th			
	4	Kasetsart University	www.ku.ac.th			
	5	Khon Kaen University	www.kku.ac.th			
	6	King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang	www.kmitl.ac.th			
	7	King Mongkut's University of Technology North Bangkok	www.kmutnb.ac.th			
	8	King Mongkut's University of Technology Thonburi	www.kmutt.ac.th			
	9	Maejo University	www.mju.ac.th			
	10	Mae Fah Luang University	www.mfu.ac.th			
	11	Mahachulalongkornrajavidyalaya University	www.mcu.ac.th			
	12	Mahamakut Buddhist University	www.mbu.ac.th			
	13	Mahidol University	www.mahidol.ac.th			
	14	National Institute of Development Administration	www.nida.ac.th			
	15	Prince of Songkla University	www.psu.ac.th			
	16	Princess Galyani Vadhana Institute of Music	www.pgvim.ac.th			
	17	Silpakorn University	www.su.ac.th			
	18	Srinakharinwirot University	www.swu.ac.th			
	19	Suan Dusit University	www.dusit.ac.th			
	20	Suranaree University of Technology	www.sut.ac.th			
	21	Thaksin University	www.tsu.ac.th			
	22	Thammasat University	www.tu.ac.th			
	23	University of Phayao	www.up.ac.th			
	24	Walailak University	www.wu.ac.th			
	25	Chitralada Technology Institute ¹	www.cdtc.ac.th/cdtc			
	26	Srisavarindhira Thai Red Cross Institute of Nursing ¹	www.stin.ac.th			
Remark:						
¹ Chitralada Technology Institute and Srisavarindhira Thai Red Cross Institute of Nursing: Minister of Education shall have charge and control of the execution of the Chitralada Technology Institute Act and Srisavarindhira Thai Red Cross Institute of Nursing Act.						

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CA プラス)

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。



(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CA プラス)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】				
①交流プログラムを実施する相手大学の概要				
大 学 名 称	(日) マレーシア工科大学		国 名	マレーシア
	(英) Universiti Teknologi Malaysia			
設 置 形 態	公立	設 置 年	1904年	
設 置 者 (学 長 等)	Professor Datuk Ts. Dr. Ahmad Fauzi Ismail			
学 部 等 の 構 成	Faculty of Engineering Faculty of Social Sciences and Humanities Faculty of Science Faculty of Built Environment and Surveying Razak Faculty of Technology and Informatics Azman Hashim International Business School Malaysia-Japan International Institute of Technology			
学 生 数	総数	4,992人	学 部 生 数	2,110人
	大学院生数	2,882人		
受け入れている留学生数	3,973人	日本からの留学生数	57人	
海外への派遣学生数	4,608人	日本への派遣学生数	58人	
Webサイト(URL)	https://www.utm.my/			
②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。				
Ministry of Higher Education, Malaysiaにより認可されていることがWebサイト上に公表されている。 https://www.4icu.org/reviews/3228.htm				

(大学名: 千葉大学

) (タイプ A①:CA プラス

)

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CA プラス)

参考データ【国内の大学等1校につき、①～③は枠内に記入、④～⑥はそれぞれ指定ページ以内】
※人数等の算定に当たっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づき記入。

大学等名 千葉大学

①大学等全体における出身国別の留学生の受入総数（2019年5月1日現在）及び各出身国（地域）別の2019年度の留学生受入人数

※「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表1に定める「留学」の在留資格を有する者に限る。
※「2019年度受入人数」は、2019年4月1日～2020年3月31日の出身国（地域）別受入人数を記入。
※「全学生数」には、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学等全体の2019年5月1日現在の在籍者数を記入。

順位	出身国（地域）	受入総数	2019年度 受入人数
1	中国	632	882
2	韓国	101	125
3	台湾	48	79
4	インドネシア	42	50
5	タイ	30	38
6	メキシコ	18	27
7	モンゴル	10	11
8	カンボジア	10	11
9	ドイツ	10	24
10	マレーシア	8	11
その他 (上記10カ国以外)	(主な国名) イタリア、 ミャンマー等	107	165
留学生の受入人数の合計		1016	1423
全学生数		14513	
留学生比率		7.0%	

②2019年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数

※教育又は研究等を目的として、2019年度中（2019年4月1日から2020年3月31日まで）に海外の大学等（海外に所在する日本の大学等の分校は除く。）に留学した日本人学生について記入。
なお、2019年3月31日以前から継続して留学している者は含まない。

順位	派遣先大学の所在国 (地域)	派遣先大学名	2019年度 派遣人数
1	アメリカ	アラバマ大学（タスカルーサ校）	52
2	タイ	マヒドン大学	48
3	フィンランド	ラップランド大学	32
4	オーストラリア	モナシュ大学	30
5	イギリス	ヨーク大学	24
6	イギリス	ボーンマス美術大学	24
7	韓国	ソウル国立大学	20
8	タイ	チェンマイ大学	18
9	タイ	チュラロンコーン大学	11
10	アメリカ、インドネシア、メキシコ	アラバマ大学（バーミングハム校）、インドネシア大学、モンテレイ大学	30
その他 (上記10カ国以外)	(主な国名) ドイツ、台湾、中国 計 47 カ国	(主な大学名) シャリテ・ベルリン医科大学 計 229 校	542
派遣先大学合計校数		241	
派遣人数の合計			831

※各校10名

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

参考データ【国内の大学等1校につき、①～③は枠内に記入、④～⑥はそれぞれ指定ページ以内】
※人数等の算定に当たっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づき記入。

大学等名 芝浦工業大学

①大学等全体における出身国別の留学生の受入総数（2019年5月1日現在）及び各出身国（地域）別の2019年度の留学生受入人数

※「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表1に定める「留学」の在留資格を有する者に限る。
※「2019年度受入人数」は、2019年4月1日～2020年3月31日の出身国（地域）別受入人数を記入。
※「全学生数」には、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学等全体の2019年5月1日現在の在籍者数を記入。

順位	出身国（地域）	受入総数	2019年度 受入人数
1	中国	270	318
2	ブラジル	43	77
3	マレーシア	40	54
4	タイ	34	41
5	台湾	27	39
6	インドネシア	22	32
7	大韓民国	22	28
8	ベトナム	14	37
9	サウジアラビア	6	7
10	オランダ	6	14
その他 (上記10カ国以外)	(主な国名) フランス、ポ-ランド 他	53	103
留学生の受入人数の合計		537	750
全学生数		8624	
留学生比率		6.2%	

②2019年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数

※教育又は研究等を目的として、2019年度中（2019年4月1日から2020年3月31日まで）に海外の大学等（海外に所在する日本の大学等の分校は除く。）に留学した日本人学生について記入。
なお、2019年3月31日以前から継続して留学している者は含まない。

順位	派遣先大学の所在国 (地域)	派遣先大学名	2019年度 派遣人数
1	マレーシア	マレーシア工科大学	118
2	タイ	キングモンクット工科大学トンブリ校	108
3	アメリカ合衆国	カリフォルニア大学アーバイン校	106
4	アメリカ合衆国	グアム大学	88
5	ベトナム	FPT大学	83
6	マレーシア	アジアパシフィック大学	69
7	タイ	カセサート大学	54
8	イギリス	カーディフ・メトロポリタン大学	53
9	アメリカ合衆国	ネバダ大学ラスベガス校	46
10	イギリス	リバプール大学	42
その他 (上記10カ国以外)	(主な国名) ベトナム、オーストラリア他 計 28 カ国	(主な大学名) ハノイ理科大学、 クイーンズランド大学 計 67 校	597
派遣先大学合計校数		77	
派遣人数の合計			1364

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	千葉大学						
③大学等全体における外国人教員数（兼務者を含む）（2020年5月1日現在）							
<p>※「全教員数」には大学等に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入。</p> <p>※「うち専任教員（本務者）数」には教授、准教授、講師、助教、助手の専任の外国人教員の数それぞれ記入。（いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めること。）</p>							
全教員数	外国人教員数						外国人教員の比率
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	
2358	13	11	58	57	0	139	6%
うち専任教員（本務者）数	10	11	11	35	0	67	

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	芝浦工業大学						
③大学等全体における外国人教員数（兼務者を含む）（2020年5月1日現在）							
<p>※「全教員数」には大学等に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入。</p> <p>※「うち専任教員（本務者）数」には教授、准教授、講師、助教、助手の専任の外国人教員の数をそれぞれ記入。（いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めること。）</p>							
全教員数	外国人教員数						外国人教員の比率
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	
813	13	7	18	9	0	120	15%
うち専任教員（本務者）数	13	7	0	9	0	94	

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	千葉大学
------	------

④取組の実績 【4ページ以内】

○国際的な教育環境の構築に関して、本学では、インドネシア、韓国、タイ、台湾、中国及びドイツの6ヶ国25大学との間で36のダブルディグリー・プログラムを実施している。

【ダブル・ディグリープログラム一覧】

国名	No.	相手先大学名・部局名	千葉大学部局名	学位		協定締結年度	国名	No.	相手先大学名・部局名	千葉大学部局名	学位		協定締結年度		
				修士	博士						修士	博士			
インドネシア	1	ボゴール農科大学 農学部	園芸学研究所	○		2010	台湾	16	国立陽明交通大学理学院	融合理工学部		○	2019		
	2	インドネシア大学 工学部、理学部	工学研究所 融合科学研究所 環境/バイオテクノロジー研究センター	○	○	2012		17	清華大学 建設学院	園芸学研究所		○		2008	
	3	ウタヤナ大学 大学院プログラム	融合理工学部 環境/バイオテクノロジー研究センター	○	○	2012		中国	18	上海交通大学研究生院 船舶海洋建筑工程学院、生物医学工程学院、電子情報電気工程学院	工学研究所		○		2009
	4	ガジマダ大学 地理学部	融合理工学部 環境/バイオテクノロジー研究センター	○	○	2012			19	上海交通大学農業生物学院	園芸学研究所		○	○	2011
	5	ハサヌティン大学 環境研究センター 理学部	融合科学研究所 環境研究センター	○	○	2012			20	電子科技大学 電子工学部	工学研究所			○	2014
	6	パボン工科大学 地球工学部	融合理工学部 環境/バイオテクノロジー研究センター	○	○	2012			21	南京農業大学	園芸学研究所		○		2015
	7	パジャラン大学 理学部、農学部、農業工学部、環境学部	園芸学研究所 環境健康/フォルト科学センター 融合理工学部 環境/バイオテクノロジー研究センター	○	○	2012			22	南京芸術学院 工業デザイン学院	工学研究所		○		2016
8	延世大学校 人文芸術大学大学院	融合理工学部		○	2018	23	北京林業大学 園林学院	園芸学研究所		○		2016			
タイ	9	マボン大学 理学部、大学院	園芸学研究所	○	○	D 2008 M 2016	24	浙江大學 コンピュータサイエンス学院	融合理工学部		○		2017		
	10	シルパコーン大学 薬学部	薬学研究院		○	2012	25	浙江工商大学 東方語言文化学院	人文公共学部		○		2017		
	11	キングモンクット工科大学 トンブリ校生物資源工学研究科	園芸学研究所		○	2014	26	広州美術学院	融合理工学部		○		2019		
	12	マボン大学 薬学部、大学院	薬学研究院		○	2014	ドイツ	27	ケルン応用科学大学 文化科学研究科	融合理工学部		○		2017	
	13	タマサート大学 シリケート国際工学部	工学研究所		○	2016									
	14	メーフェールアン大学 農工学部	園芸学研究所	○	○	M 2016 D 2019									
	15	チェンマイ大学 薬学部	薬学研究院		○	2017									

また、5つの研究科などで合計10の英語による教育プログラムを実施している。

研究科等	課程	プログラム名	開始年度	研究科等	課程	プログラム名	開始年度
人文公共学部	博士前期課程	Economics in English コース	29年度	融合理工学部	博士前期課程 博士後期課程	FARM Program (Future Agriculture with Far east Russia Pre-Master to PhD Program)	29年度
融合理工学部	博士前期課程 博士後期課程	MADE プログラム (Master of Asia Design Education Program)	25年度	園芸学研究所	博士前期課程 博士後期課程	環境園芸学国際プログラム	20年度
融合理工学部	博士前期課程 博士後期課程	PULI Program (Post Urban Living Innovation Program)	26年度	医学薬学部	4年博士課程	先進医学薬学国際プログラム	23年度
融合理工学部	博士前期課程 博士後期課程	CAPE Program (Campus Asia Plant & Environment Innovation Program)	28年度	看護学研究科	博士前期課程	国際プログラム	24年度
融合理工学部	博士前期課程 博士後期課程	CODE プログラム (Continents Design Education Program)	23年度	看護学研究科	博士後期課程	国際プログラム	26年度

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	千葉大学
------	------

④取組の実績 【4ページ以内】

○全学教育の面では、グローバル人材育成の一環として、平成25年度より「国際日本学」と呼ばれる科目群を設定し、留学生と協働して学ぶ科目を多数設定したほか、海外の協定校の学生と特定の課題について協働で学ぶPBL型の短期プログラム「グローバル・スタディ・プログラム」(GSP)を開始し、アメリカ、マレーシア、フィンランド、ベトナム、ギリシャ及びドイツの協定大学の学生との協働学習を推進するなど、国際的な教育環境の構築に努めている。
 なお、2020年度については新型コロナの影響により実施していない。

【グローバル・スタディ・プログラム実績】

大学名	2011年度		2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度	
	本学から	先方から	本学から	先方から	本学から	先方から	本学から	先方から	本学から	先方から	本学から	先方から	本学から	先方から	本学から	先方から	本学から	先方から
フィンランド・セイナヨキ応用科学大学(派遣)	10	9			13	8			14	7			15	13				
ベトナム・ノンラム大学(派遣)					11	11												
マレーシア・マラヤ大学(派遣)					14	0												
ギリシャ・アリストテレス大学(派遣)							13	14			17	14						
マレーシア・マルチメディア大学(派遣)							13	14			8	5			6	5		
ドイツ・ドレスデン応用科学大学(派遣)											20	12			19	10	13	12
アメリカ・シンシナティ大学(派遣)															16	16		
フィンランド・セイナヨキ応用科学大学(受入)			15	14			12	15			12	16			5	12		
ギリシャ・アリストテレス大学(受入)									13	15			11	13				
マレーシア・マルチメディア大学(受入)									15	15			4	10				
ドイツ・ドレスデン応用科学大学(受入)													11	14				
計	10	9	15	14	38	19	38	43	42	37	57	47	41	50	46	43	13	12

○本学は外国人教員の雇用を積極的に進めており、令和2年5月1日現在で139名の教員(全教員(特任教員及び非常勤講師含む)の6.0%)が在籍している。国際的な教育研究の経験を有する日本人教員については、令和2年5月1日現在で57名の常勤教員が、海外の大学で学位を取得している(常勤教員(1,308名)の4.4%)。

教員の国際公募については、全学的に統一した制度を導入してはいるが、一部の学部・研究科において実施されており、公募情報を英文により学外ホームページに掲載している。また、年俸制については、令和2年5月1日現在366名に適用している。今後、令和3年度までに521名(総教員数の38.6%程度)を目標に対象者を広げていく予定である。

テニュアトラック制については、平成20年度に生命系科学分野に限定して導入し、平成22年度には大学自主取組の制度として全学規程に定め導入した。令和元年度までに42名がテニュアトラック教員として雇用された。

FD活動に関しては、全学レベル、部局レベルの双方で様々な分野のFD活動を活発に実施しており、その中で国際化に関するものは、平成25年度は6件、平成26年度は2件、平成27年度は3件、平成28年度は2件、平成29年度は5件、平成30年度は2件、平成31年度は3件実施された。

【国際化に対応するFD実施状況一覧】

年度	FD種別	テーマ	参加人数	年度	FD種別	テーマ	参加人数
H25	融合科学研究科FD	情報科学専攻での国際学生ワークショップの活動報告	30名	H29	国際教養学部FD	学生の留学指図に関わる専任教員の研修(1)	27名
H25	教育学部FD	[平成26年度教育学部・教育学研究科FD研修会](ツインクルプログラム)	103名	H29	国際教養学部FD	学生の留学指図に関わる専任教員の研修(2)	31名
H25	文学部FD	留学生チューターへの研修	12名	H29	看護学部・看護学研究科FD	英語による講義やプレゼンテーションセミナー	12名
H25	普通教育FD 全学FD	「グローバルインターナショナル・ボランティアの現状と課題」	25名	H29	全学FD	英語検業を行うための教員向け英語講義実践研修(第1回)	21名
H25	工学部・工学研究科 融合科学研究科FD	米国留学体験記	20名	H29	全学FD	英語検業を行うための教員向け英語講義実践研修(第2回)	24名
H25	全学FD	スキップワイスプログラム国際FD	14名	H30	全学FD	英語検業を行うための教員向け英語講義実践研修(第1回)	13名
H26	文学部・法政経学部FD	留学生チューターへの研修	12名	H30	全学FD	英語検業を行うための教員向け英語講義実践研修(第2回)	10名
H26	全学FD	スキップワイスプログラム国際FD	18名	H31 (R1)	全学FD	スキップワイスプログラム教員向け英語研修(夏季・集合型)	1名
H27	工学部・工学研究科 融合科学研究科FD	米国の教育事情に関する研修	13名	H31 (R1)	全学FD	スキップワイスプログラム教員向け英語研修(夏季・e-learning型)	5名
H27	理学部・理学研究科FD	留学生の英語論文指図に関する研修	14名	H31 (R1)	全学FD	スキップワイスプログラム教員向け英語研修(春季・e-learning型)	17名
H27	全学FD	スキップワイスプログラム国際FD	16名	R2	全学FD	スキップワイスプログラム教員向け英語研修(夏季・e-learning型)	19名
H28	全学FD	TOEIC S&W Practiceワークショップ	5名	R2	全学FD	スキップワイスプログラム教員向け英語研修(春季・e-learning型)	14名
H28	全学FD	スキップワイスプログラム教員向け英語研修	27名	R2	全学FD	スキップワイスプログラム教員向け英語研修(集合型)	3名

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名

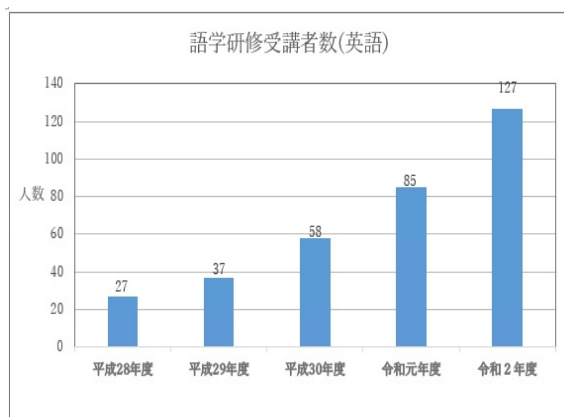
千葉大学

④取組の実績 【4ページ以内】

○事務体制の国際化については、従前より海外大学等との協定締結等を担当する部署として国際企画課を、本学学生の留学支援・推進及び海外大学からの留学生受入れ等を担当する部署として留学生課をそれぞれ設置していたが、国際競争力強化のため事務組織の見直しを図り、令和元年7月から両課を統括する国際統括役を配置し、事務体制を強化した。また、平成22年度から留学生窓口のワンストップ化を実現するため、インターナショナル・サポートデスク（ISD）を西千葉、亥鼻及び松戸キャンパスに設置し、各1名を配置している。更に、英語のできる国際担当職員として、任期付きの特任専門職員として雇用していた者を承継職員として登用し、国際化業務の体制強化を図っている。

令和2年度から実施する千葉大学グローバル人材育成「ENGINE」を推進するため、令和元年度からグローバル人材枠での採用試験を実施している。令和2年度は留学経験があり語学が堪能な2名を採用し、教育研究支援体制の更なる充実・強化を図っている。

海外の大学との交流、外国人研究者、留学生への対応を担う事務スタッフの質的向上、量的拡大を図ることを目的として、令和2年度は、語学学校を活用した語学研修（英語）、語学検定試験（TOEIC-IP 試験等）を実施し、職員の語学力の向上に努めた。また、令和元年度には海外派遣研修を実施し、長期研修ではモンタナ州立大学・ポートランド州立大学（アメリカ）に1名派遣し、短期研修ではインドネシア大学（インドネシア）に1名、ニューサウスウェールズ大学（オーストラリア）に3名を派遣するなど、海外の大学との交流を通じて、グローバル化に対応する職員の育成に取り組んだ。新型コロナウイルスの影響により、令和2年度は海外派遣研修は実施を見合わせたが、今後も語学研修、海外派遣研修を実施し、事務体制の国際化を促進する。



●海外派遣研修（短期）受講者

年度	派遣先	人数
平成28年度	オーストラリア	2名
	タイ	4名
平成29年度	タイ	2名
	オーストラリア	3名
平成30年度	韓国	1名
	オーストラリア	3名
	イギリス	1名
令和元年度	インドネシア	1名
	オーストラリア	3名

*派遣期間は概ね10日間程度

○成績管理については、GPA制度を導入することにより、学生に対するきめ細やかな履修指導、学生自身による学習熟度の把握等に活用している。また、一部の学部・学科では、合わせて履修可能な上限単位の設定を行い、早期卒業制度を導入している。このほか、各学部ごとに成績評価基準を定め、基準に則った成績評価を実施している。

シラバスに各回の授業内容、目的・目標、評価方法・基準等を記載し、WEBで公開する等の方法で学生に周知徹底を図ることで、体系的な学習指導に役立っている。また、教育の質を保証するとともに、学生の立場に立った教育課程の体系化を進める仕組みとして、平成27年度には「コース・ナンバリング・システム」、及び「カリキュラムツリー」を、令和元年度には「カリキュラムマップ」を全学的に導入し、各学部ごとに整備した。

これらに加え、アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを全学単位及び各学部・研究科単位で作成し、教育課程の内容、卒業・終了時の到達目標を設定することで、教育内容の質の確保を行っており、策定後の見直しとして、平成28年3月に中教審から示されたガイドラインをもとに全学的に点検・見直しを行ったほか、令和元年度に行った本学の教育改革（ENGINEプログラム）に実施に合わせ、ディプロマ・ポリシー及び、カリキュラム・ポリシーについて、全学的な見直しを行い、令和2年度にアドミッション・ポリシーの見直しを行った。今後も、学内における教育課程等の改革等に合わせ、各ポリシーの関連性や一貫性が確保されるよう、適宜、見直しを行う。

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	芝浦工業大学
④取組の実績 【4ページ以内】	
<p>(1) 英語による授業の実施</p> <p>本学の大学院では、東南アジアとの共存共栄を目的に、2005年より東南アジアの協定校から優秀な学生を受け入れ、本学の博士学位を取得させる独自のプログラムを実施してきた。これを立ち上げるに当たり、大学院における英語による専門科目を整備した。このプログラムにおいて本学の博士学位を取得した者は70名以上となっており、うち7割程度が出身大学に戻り教員・研究者となって本学との共同研究や学生交流といった連携を推進している。その後、JICAのABEイニシアティブやイノベティブアジア、ブラジル政府の「国境なき科学」に協力するに当たり、さらに英語による科目の拡充に当たった。これらの科目を協定校からの交換留学生にも開放し、現在は200名/学期ほどの学生が本学への留学を希望している。なお、英語による授業科目数が増大し、英語による研究指導も可能なため基本的には修士課程および博士後期課程の全専攻において英語のみで修了できるようになっている。</p> <p>学部授業の英語化は、2013年よりブラジル政府のプロジェクトである「国境なき科学」でのブラジル人学生の受け入れを契機に推進した。その後、授業履修型の交換留学プログラムとして、協定校からの留学生を対象に各分野における専門科目の英語化を組織的に推進してきた。</p> <p>システム理工学部において、2017年4月、電子情報システム学科、機械制御システム学科、生命科学科・生命医工学科コースに「国際プログラム」が開設され、2019年4月には同学部で残りの環境システム学科、数理科学科、生命科学科・生命科学コースにも同プログラムを導入した。このプログラムでは、1セメスター以上の留学を必須としており、学生は卒業に必要な総単位数の1/4以上を英語開講科目（国際プログラム英語認定科目）で取得する必要がある。卒業研究も英語で執筆、発表することとなっている。その他、国際インターンシップ、国際PBLもカリキュラムに含まれている。今後は、他学部への展開も予定しており、大学全体に波及させる計画である。</p> <p>また、工学部において、英語による授業・研究指導のみで学位が取得できるコースとして、2020年10月に先進国際課程を開設した。このコースは、「国際化が進む社会においてリーダーシップを発揮し、複雑化する工学の問題を解決できる人材」を育成することを教育目標とし、これまでの工学部の教育課程とは異なる特徴をもっている。入学する学生は、1年次から、指導教員および複数のアドバイザー教員（異なる専門分野を持つ課程所属教員）のもとで必修科目「先端工学研究科目」を履修して、研究を主体とした実践的な教育を受ける。</p> <p>(2) 特徴的な国際短期研修プログラム「グローバルPBL」</p> <p>海外協定大学の学生と混成国際チームを編成し、2～4週間程度の期間、英語を共通言語として協働しながら工学的な課題解決に取り組むグローバルPBLを全学的に展開している。参加学生は、自身の分野の実践的な問題解決に挑戦するとともに、海外の文化や風習、考え方の違いという多様性を学び、グローバル・エンジニアの素養を身につけることができる。また、英語を含めたコミュニケーション力の重要性についても気づきを得ることができるプログラムとなっている。</p> <p>2018年度には93プログラム（海外：62件、国内：31件）を実施し、年度後半には新型コロナウイルス感染拡大の影響で複数のプログラムを中止した2019年度においても81プログラム（海外：45件、国内：36件）を実施した。2020年度は、渡航を伴う交流ができない中、予定していたグローバルPBLをオンラインに切り替え、31プログラムを実施することができた。本学の学生のべ386名、海外協定校学生598名が参加し、双方向的で実践的な課題に取り組み、問題解決能力と国際感覚を養うことができた。</p> <p>(3) 海外の大学と連携して学位取得を目指す交流プログラム</p> <p>ポーランドのAGH University of Science and Technology、フランスのノルマンディ大学と博士(後期)課程のダブルディグリープログラムを実施している。また、修士課程については、韓国の国民大学、イタリアのラクイラ大学、ポーランドのAGHとダブルディグリープログラムを実施している。AGHについては、2023年4月にジョイントディグリープログラムを開始すべく準備を進めている。</p> <p>(4) 外国人教員や国際的な教育研究の実績を有する日本人教員の採用</p> <p>「専任待遇外国人教員就業に関する基準」を2016年度に一部見直しを行った。年俸制であり最大5年間任用可能としているが、この間にテニユア制に結びつくよう毎年評価を行うこととした。この改定に伴い1名の外国人教員を2016年に採用した。</p> <p>2017年度より学長の戦略的人事として専任待遇外国人教員等を毎年5名程度採用する方針とした。専任待遇外国人教員は、基本的にはテニユア制を原則としている。</p> <p>このように、外国人教員の戦略的な採用を実施した結果、2014年度には6名であった外国籍教員が、2021年5月時点で46名まで増加した。なお、外国籍教員の国籍は十数か国に上り、ダイバーシティに富んでいる。日本人教員の採用については英語で講義ができることを条件とし、最終の学長面接は英語により実施している。この結果、海外経験あるいは海外で学位を取得した教員を採用することができている。また、学長主導で本学教員が1年間海外留学できる制度への積極的かつ計画的な派遣を各学部で推進している。</p>	

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	芝浦工業大学
④取組の実績 【4ページ以内】	
<p>(5) 英語のできる国際担当職員の配置等 国際通用性を職員の重要な資質と位置づけ、「採用」「研修」「評価」の3局面において、その資質の確認と成長を可視化し評価できる仕組みを構築している。採用は、募集条件に英語能力やその他の言語能力について明記させ、選考においても英語による面接を実施している。多様性のある社会での適応能力を確認し、その中で高い英語力を持つ者、海外経験豊富な者、外国籍の者など、多様化した人材を採用している。 事務職員の高度化についても組織的に取り組んでいる。理事会において職員の海外研修を決定し、海外の協定校で実施する語学研修やグローバルPBLといった学生の留学プログラムに職員を引率と研修を兼ねて派遣している。また、海外協定校において海外インターシップも実施してきた。その内容については派遣される職員の自主的な提案を取り入れている。2020年度以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響で渡航を伴う海外研修が中止となっているが、渡航が可能になれば再開する予定である。 事務職員に対しTOEIC800点以上取得を目標として設定し、その奨励策として受験料および学習教材費について大学が援助する制度をしている。このほか自発的な語学研修に対しても、受講費用および教材費について一部または全部を補助している。結果としてTOEIC800点以上相当の職員は2021年5月時点で46名(25.6%)となっており、これらの職員が各部署にバランスよく配属されている。日本語の出来ない留学生や、学力不振者や日本での生活に適応できず心の悩みなどを抱える留学生への対応も可能となり、生活面を含む多種多様な課題解決をしている。</p> <p>(6) 日本語教育 日本語科目としては、現在非常勤講師3名にて「Japanese Language I」(51名履修)、「Japanese Language II」(42名履修)、「Japanese Language III」(27名履修)の3科目を開講している。(履修者数は2020年度実績) これ以外にも、2018年度からは大学院生が正規に履修できる科目へとカリキュラム変更を行い、さらに2019年度から「Japanese Language学修サポート室」を設置した。この学修サポート室はJapanese Language I-IIIの質問対応等を行うとともに、日本語能力試験(N1-N5)対策、日本での大学院進学を希望する留学生の願書作成指導、面接時のアドバイス、就職を希望する大学院留学生の履歴書およびエントリーシート作成アドバイス等をカバーしており、2020年度の利用者数は延べ45名と、留学生からは高い評価を得ている。当初は「Japanese Language IV」の新設を検討していたが、非常勤講師との定期懇談会でこちらの支援形式の方が選かに留学生からの要望が強いことが判明したために開設に至った。 さらに2020年度には非常勤講師からの提案により、同サポート室内に会話学習および聴解学習を目的とした「日本語おしゃべりサロン」が開設され、日本語を話したい留学生への対応がスタートしており、利用者が増えている。</p> <p>(7) ナンバリング 学生にとって分かり易かつ国際通用性のあるナンバリングコード体系を構築し、全学部・研究科の全ての科目で整備して公開している。 2014年度から検討を開始し、国際通用性を担保するため、米国、アジア、ヨーロッパの大学で用いられているナンバリング体系の調査を行い、カリキュラムマップを元にナンバリングコード体系を仮制定して、2015年度から工学部で先行して試行を開始した。 2015年にはこの取り組みを全学に拡大すべくワーキンググループで検討を行い、2016年度から全学でナンバリングコード体系の運用を開始した。これにより全学部・研究科でのナンバリング付番が実現し、全学的に体系化したナンバリングコードを公開している。</p> <p>(8) 成績管理 2017年度からGPAに関しては国際的な算出方法へ全学部にて改定を行った。国際的な成績指標を卒業のための客観的な基準とすることは教育の質保証の観点から重要な課題と認識しており、GPA2.0以上の取得を卒業要件とした。また、GPAを継続的に優秀者の表彰や学業不振者への指導等に活用している。デザイン工学部においては、育英奨学金候補者の抽出条件、領域・分野分けの指標、領域・分野変更試験の受験基準に活用している。 2019年実施の大学院入試以降、学部から修士課程への学科推薦による学内進学において、出願資格の基準を学部時のGPAに基づくこととした。2018年まではデザイン工学部生に限りGPAを学科推薦の出願資格としていたが、全学部に展開した。</p>	

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	芝浦工業大学
④取組の実績 【4ページ以内】	
<p>(9) 教務システムの国際通用性 教育プログラムの国際通用性と質保証を、全学で推進してきた。ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの3つのポリシーを、大学、大学院・学部、学科・専攻の各階層で体系的、階層的に設定し公表しており、年度毎に見直しを行っている。学習教育目標は国際エンジニアリング連盟（IEA）およびJABEEをリファレンスとして全学で策定している。また、大学と大学院の3つのポリシーは英語化し公表している。</p> <p>卒業研究、修士研究の学修・教育目標の体系的設定、ルーブリックや学修ポートフォリオによる学修成果のアセスメント等の導入による質保証においては、基準として、1) 卒業研究の学修・教育目標の体系的な設定、2) 卒業研究の学修成果の水準を示すルーブリックの導入、3) 卒業研究の過程において、ルーブリックを学生に示し、その成果を確認し、学生の振り返りを促すプロセスの実施、4) ルーブリックを学修ポートフォリオに登録・可視化し、学生と指導教員間で共有する仕組みの実施、5) 学修成果を教員組織として体系的に可視化し、成績評価に用いるプロセスの実施と継続的改善、の5項目を設け、全学科が3項目以上を達成した。</p> <p>2017年度には、Learning Management System (LMS) を英語、日本語のバイリンガルシステムとし、さらにポートフォリオやルーブリックを接続。2018年度には、質保証をサポートする仕組みを構築した。</p> <p>修士課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げる技術者を養成するため、以下の方針に基づきカリキュラムを編成している。1) 英語による「専門科目」を配置し、グローバル社会で対応できる専門分野でのコミュニケーション基礎能力の養成を行う。また、学位取得に必要な「専門科目」の単位を英語のみで取得することも可能とする。2) 「研究指導」では、研究計画の策定、研究関連論文の調査、指導教員との議論、国内外の学会等での発表、学術論文の発表等を行うことを通して、グローバル社会で活躍できる技術者・研究者の養成を行う。3) 世界と社会の多様性の認識、倫理観やコミュニケーション基礎力を養成するために専攻横断型の「共通科目」を設置する。4) 複眼的工学能力、技術経営能力およびメタナショナル能力を併せ持つシグマ型統合能力人材の育成を目的として「共通科目」の一部で構成される「技術経営副専攻プログラム」を設置する。</p> <p>東南アジア工科大学コンソーシアム(SEATUC)として連携関係にある東南アジアの各工科大学とは、グローバルPBL等の共同科目を設置するとともに、タイのKMUTTとは、ALの質保証に関しての、連携活動、共同研究を推進している。</p> <p>(10) 外国人留学生OBの活用 2015年度に外国人特命教員規程を制定し、本学で博士学位を取得した卒業生を中心に本学の教員として任用できるように整えた。当初は3名であったが、2021年度は13名に拡大した。これは、構想時の客員教員に対応するものである。特命教員は本学教員との共同研究や海外でのグローバルPBL等での学生指導、また来日時には本学研究室で学生指導補助を行っている。</p> <p>2015年にタイに卒業生を中心としたOB支部を設置したが、組織的活動が積極的に行えるよう、校友会の協力を得て、校友会タイ支部が設立された。タイ支部では本学卒業生である外国人特命教員が幹事となり、本学学生がグローバルPBL等で留学した際等、協力を受けている。タイ以外でも2014年にはシンガポール、2016年には上海に支部が設置され、学生の海外留学や海外インターンシップ時に卒業生からの協力を得ている。</p> <p>(11) 国際化へ対応するための教員の資質向上 テニユアトラック助教制度は、現在も継続して実施している。また、教職員のグローバル化対策のひとつとして、教員のサバティカル休暇の取得促進（研究留学促進）を図るため、2016年度には、全教員に対しアンケートを実施、120名の教員から回答を得た。海外経験に対する個々の教員の要望やライフイベントへの配慮、留学実現に向けた障壁などの実態を踏まえ、研究留学派遣計画を立案した。具体的には、各学部長に調査結果を報告し、今後は各学部において、学科間および学科内の調整を行いながら、留学派遣計画を長期的視野に立って作成し、多くの教員に留学経験ができるような仕組みづくりをした。最大の教育研究成果が上がるよう全学的に推進している。</p> <p>また、本学は理工学教育共同利用拠点に採択されており、本学教員のみならず他学の教員にも開放して英語による授業の開講方法やアクティブラーニングの手手法などのFDを行っている。</p>	

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	千葉大学		
⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】			
大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果			
整理番号	42	大学等名	千葉大学
テーマ	テーマⅢ（高大接続）		
<p>（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）</p> <p>【総括評価】</p> <p>S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。</p> <p>【コメント】</p> <p>大学改革の加速については、高大接続の多角化による双方向での高大接続カリキュラム開発にも積極的に取り組んだことにより、大学・高校双方がカリキュラムを有機的に結合する土壌が出来上がり、本事業で開発したカリキュラムや講座が発展的に継承可能となっている。また、本事業の成果を受け、新AO入試と先進科学プログラムの飛び入学では本事業で開発されたプログラムでの学修及び活動経験が評価されるようになるなど、AO入試改革も推進された。これにより高大接続カリキュラムの実効性が増し、大学教育の高度化が可能となり、令和2年度より独自の「ENGINEプログラム」の開始という新たなステージへ移行していることから、本事業を起点に、入試、そして教育課程の改革が一気通貫で行われたと言え、申請時の計画を上回るものであると高く評価できる。</p> <p>事業の具体的な取組の進捗状況については、高大連携体制の充実による高校担当者側との「顔の見える関係」の構築、大学と高校の教員が協働した講座開催、評価手法の開発や探究活動・国際教育等に関する高大連携での研究・研修会の開催、高校からの視点を踏まえた新規の高大接続プログラムの開発・開始、高校との人事交流など、多岐にわたる取組によって、高大接続、高大連携が多様な面で展開されている。また、補助期間終了後の自走化に向けた学内体制の充実、入試改革及び入学前教育の大学での単位認定を伴う初年次教育改革にも取り組まれており、十分評価できる。なお、一部目標値に達していない指標が見られるものの、総合的には十分評価に値する。</p> <p>事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、補助期間終了後の自走化のため、「次世代才能支援室」が高大接続センターの下に明確に位置付けられたことに加え、令和2年度からは、高大接続教育強化の組織改革として、全学部から選出された委員、高大接続・連携に関わる各センター、「高大連携支援室」、「次世代才能支援室」の代表者及び講座等の実施担当者からなる組織である「高大連携専門部会」が設置されている。これらの体制の整備は、高大連携・接続に関する情報の全学的共有を徹底し、プログラムの継続的实施を可能にするものであり、十分評価できる。また、学内での資金調達に加えて、令和元年度には試行的に受益者負担を取り入れている。資金面で完全に目途がついたとは言えない状態だが、補助期間終了後の継続・発展に向けた取組が進んでいる点は十分評価できる。評価・改善の仕組み構築のため、収集したデータをデータマイニングなどの手法を用いて分析・検討されていることも、十分評価に値する。</p> <p>事業成果の普及については、高大接続・高大連携の先駆的なモデルとして、高校関係者や学内ステークホルダーに対して積極的に広報・周知が行われてきたことが、本事業を受講する高校生の増加や各種研究・研修会への参加者の増加などに結果として表れている。他大学への波及という点についても、学会・論文発表、以前より連携関係にある大学への働きかけや、全国の学長会議・学部長会議の場などにより積極的に情報を発信してきた点は、十分評価できる。</p>			

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	千葉大学		
⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】			
地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+) 事後評価結果			
整理番号	11	COC+大学名	千葉大学
事業名	都市と世界をつなぐ千葉地方圏の”しごと”づくり人材育成事業		
(「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業委員会」による評価)			
【総括評価】			
S:計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。			
【コメント】			
<p>1. 事業の実施計画及び目標については、各年度の計画に基づき、事業が着実に実施されており、さらに地域志向科目や必修科目の増設等も行われている。事業協働地域においては、産業振興に係る共同研究及び実践に取り組む「ローカルイノベーションコンソーシアム」の件数が増え、また「事業協働機関へのインターンシップ参加者数」が増加している。こうした点は、十分に評価できる。</p> <p>一方で、「教員・卒業生によるローカルベンチャー起業数」については、目標値を達成していないが、最終年度には学生アンケートを基に、地方の起業家と対話を行うフォーラム等、新たな取組が拡充されている。今後さらに、起業を支えるエコシステムの形成を進めていくことが期待される。</p> <p>なお、中間評価及びフォローアップにおいて指摘された課題については対応がなされており、また、各経費の内容は明確かつ妥当であると評価できる。</p> <p>2. 事業協働機関との連携・協働については、地域協働地域の課題やニーズを把握し、産業振興に関わる取組として、各市町の企業、市民等向けの「地域産業イノベーションスクール」を開講し、延べ120人の受講生を輩出している。また、エキスパート人材バンクの制度運用を開始し、産業振興のベストプラクティスのデータベースの構築を進めており、十分に評価できる。</p> <p>加えて、事業協働地域の自治体や企業へのインターンシップとして、COC+大学では、単位科目として「地域活動体験」「地域志向型インターンシップ」を開講し、さらにCOC+大学、COC+参加校それぞれが独自のインターンシッププログラムを実施している。学生の地域企業への就職も実現しており、こうした取組も十分に評価できる。</p> <p>COC+大学とCOC+参加校の共同プロジェクトの実施や、COC+参加校と事業協働地域のマッチングの支援を展開しており、評価できる。市町をまたいだ事業連携などにつながる事業協働地域間のマッチングについては、事業の推進に伴い、今後さらに充実させていくことが期待される。</p> <p>3. 地方創生に必要なCOC+大学の教育カリキュラムの構築・実施については、特定の学部学生に履修が偏らないように配慮し教育プログラムが構成されたことにより、地域関連科目の受講人数を大幅に増やすことができている。</p> <p>また、学生の地元志向については、千葉地方圏への就職志向が増加している。令和2年度から新たに多様な学部教員により実施される「ホリスティック地域学入門」を開講したことや副専攻の統合、台湾の5大学との連携により令和2年度に開始される互いの地域でのPBLプログラムの新設等、教育プログラムの改善が図られている点は十分に評価できる。</p>			

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	千葉大学
⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】	
大学の世界展開力強化事業（平成27年度採択）事後評価結果	
大学名	千葉大学
整理番号	L-3
事業名	ポスト・アーバン・リビング・イノベーション・プログラム
◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価	
総括評価 A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント	
<p>本プログラムは、日本と中南米諸国の都市圏が抱える課題に挑み、新たなポスト・アーバン・リビング・イノベーションに貢献する実践型人材の育成を目指し、「文系」学生が得意な事業計画や販売戦略と「理系」学生が得意な技術開発とその応用を組み合わせた文理混合の全学型プログラムを実施するとともに、事業成果を産業化する枠組みとして大学発ベンチャー企業の定着をアウトカムに据えたプログラムとして実施され、企業の製品・事業開発のプロセスをカリキュラムに導入している点がユニークであり、インターンシップも含めたジョブ・ベースド・ラーニング（JBL）型の新しい方法を確立している。</p> <p>プログラム展開では、学部学生に対しては、「国際日本学」として副専攻の学位とサーティフィケートを、大学院の学生に対しては、「大学院国際実践教育プログラム」として副専攻の学位とサーティフィケートを付与する制度を整備し、学部・大学院の正式科目として取組むことで、派遣・受入双方の学生に関して、プログラムの質の保証を担保している。また、大学発ベンチャー企業への展開を見据えて、次世代の人間生活に関する多様な課題を設定した8つのプロジェクトにおいても複数の起業に繋がる事例が出るなど、着実な成果をあげており、本プログラムの目指す実践型人材育成がなされている。さらに、プログラム運営においては、メキシコ・モンテレイ IEC(International Exchange Center)オフィスの設置及び学内での専門職員（アマヌエンシス）の配置により、渡日前後に渡り一貫した受入体制が整備されていることに加え、在日本メキシコ大使館、在日本パナマ大使館、在メキシコ日本大使館、在パナマ日本大使館との連携協力体制が確立されている点は評価できる。</p> <p>一方で、派遣・受入実績数が計画を下回っており、派遣学生数のほとんどが短期派遣で占められていることや、目標に掲げたジョイント・ディグリーとダブル・ディグリーの設置が未達である。本プログラムの8つのプロジェクトと5つのチャレンジの成果の関係性及び人材育成に関する具体的な評価指標や方法が不明確であることから対応が望まれる。</p> <p>最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的なプログラム展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、さらなるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。</p>	

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	千葉大学
⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】	
スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果	
大学名	千葉大学
整理番号	B01
構想名	グローバル千葉大学の新生 - Rising Chiba University -
◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）	
（総括評価） A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
（コメント）	<p>本構想は、「4つの改革による大学の新生」という目標を掲げ、学長直轄組織を整えて「4つの改革」、「3つの力の育成」、「4つの独自目標」を軸に「グローバル千葉大学」を目指すものである。構想の実現に向け、全学を対象とした英語教育の改革、入試改革の取組み、教育制度の国際標準化、ダブル・メジャー設置に向けたプログラムの設置、大学院の総合国際学位プログラムの設置、海外拠点の整備と海外キャンパスでのプログラム実施、学内環境の国際化等、様々な取組を着実に実施している。</p> <p>継続的で一貫したサポート体制の構築、教職協働の仕組みとしてのSULAの試みも高く評価できる。新設された国際教養学部は倍率も留学率も確実に上昇しており、順調に卒業生を輩出している。学生の意識改革も進んでおり、取組の成果が出ていると見受けられる。加えて、ENGINEプランを実行し、学生全員の留学、英語履修単位の倍増、スマートラーニングの推進等、引き続き国際化に邁進する大学の姿勢が認められる。</p> <p>SGU事業の成果を起爆剤とした全学対象のプログラム拡張は、財政支援期間終了後を見据えた自走化に向けた優れた展開として評価できる。また、事業縮小ではなく20%の学費値上げに踏み込む攻めの経営姿勢や発展的自走化戦略は、今後の大学改革の可能性としても期待できる。総合国際学位プログラム等の構想を超えたアウトカムの創出、学内ガバナンスの継続的な強化等、大学全体のチャレンジ意識も高く、今後も先端的グローバル大学へのさらなる発展が期待できる。</p> <p>一方で、学部における目標値に対して実績が著しく低いところが見られる。問題点は把握されており、それらに対する具体策が既に検討されており、引き続き、達成に向けた戦略が求められる。</p> <p>また、恒久的な財源として有償型プログラムが検討されているが、それぞれのプログラムへの学生の参加率を注視し、検証しながら進めていく必要がある。コンテンツの検討には引き続き力を注ぐことが期待される。</p>

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	千葉大学
⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】	
大学の世界展開力強化事業（平成30年度採択）中間評価結果	
大学名	千葉大学
整理番号	AA01
事業名	COILを使用した日米ユニーク・プログラム
総括評価	<p style="text-align: center;">S</p> <p>優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。</p>
コメント	
<p>本プログラムは、日本と米国双方の特長を活かし、COIL型教育を活用して幅広い教育組織でプログラムを開講し、両国の学生に教育プログラムを提供するものであり、貴学においては全学部及び大学院を対象とする意欲的な取組を実施している。</p> <p>COIL型教育システムを活用した新規プログラム開講数と受講学生数については、中間評価までに構築予定としていたプログラム想定数を上回っている。COIL型教育の普及も企図した全学生必修の「国際日本学」が有効に作用し、幅広い教育組織の学生が受講しており、本プログラム受講者から多くの学生が海外留学していることは評価できる。また、新規開講された科目について、学生相互学習を目的に複数タイプに分類している点は新しい試みであり、今後は、各タイプに参加した学生の学習到達度を比較した結果を活用しながら、プログラム改善などに繋げていくことが期待できる。さらに、本プログラムが千葉大学の中期計画に「ネットワークの構築によるグローバル化」を推進する事業として位置付けられ、大学全体の取組として順調に推移しており、貴学が進める国際化の取組において、COIL型事業を将来的に米国4大学のみならず、欧州の大学や貴学のバンコク・キャンパスにも拡大する予定であるとともに、日本国内においてはインターンシップ実施において連携している新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学及び熊本大学を含めた国立6大学での国際協働学修実施に向けた準備も意欲的に行われるなど、今後の発展が大いに期待できる。また、学生の派遣・受入に対するサポートも十分になされている。</p> <p>一方で、COIL型教育プログラム受講生の外国語力向上に向けた取組と、米国の学生が日本のプログラムに参加した後、所属大学における成績評価及び単位認定について明確にすることが望まれる。また、園芸学部と海外相手大学との連携によるプログラム開講と、補助期間終了後も見据えた事業の自走化について、資金面も含めたさらなる検討が望まれる。</p> <p>最後に、今後も本プログラム終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と、将来の我が国の更なる発展に向け積極的なプログラム展開に取り組まれることを期待する。</p>	

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	千葉大学
⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】	
「課題解決型高度医療人材養成プログラム」(精神関連領域) の取組概要及び中間評価結果	
整理番号	2
申請担当大学名 (連携大学名)	千葉大学
領域	精神関連領域
事業名	メンタル・サポート医療人とプロの連携養成
事業推進責任者	大学院医学研究院 認知行動生理学 教授 清水 栄司
取組概要	
<p>一般日常診療の場で遭遇する軽症の不眠、不安、うつ、認知症、依存症等を持つ患者および家族が向精神薬依存にならないよう、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、コメディカル等がセルフヘルプをガイドする月1回30分計6回の簡易(低強度)認知行動療法的アプローチによる相談支援を行うメンタルサポート医療人(メンサポ:英国でのPsychological Wellbeing Practitionerに該当)養成をオンライン授業やネット教材を活用して行う。同時に、統合失調症や双極性障害等の難治性精神疾患や司法精神保健、ギャンブル依存に対して精神科医が生物-心理-社会的観点からの適切な診断と薬物治療を提供できるメンタルプロフェッショナル(メンプロ)養成を行う。一般医療者と精神科医が共に学ぶ症例検討会を演習として行い、うつ不安尺度のデータを基にした軽症者と重症者の相互紹介ネットワークモデルを推進し、全国に普及する。</p>	
中間評価結果	
(総合評価) A	
順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を達成することが可能と判断される。	
(コメント) ○:優れた点等 ●:改善を要する点等	
<p>○認知行動療法への社会的ニーズは高く、他大学とも連携して学習の機会を設けていることは評価できる。 ○メンタルサポート医療人とメンタルプロフェッショナルを区分してそれぞれのニーズに沿った学習が行える体制が整っている。 ○メンタルサポート医療人養成コースは、認知行動療法に焦点化した演習が特色であり、専門職認定につながるようなキャリアパスについて計画されている。</p> <p>●メンタルプロフェッショナルコースの教育効果の評価が、論文・研究発表やチーム医療等における発言だけでは足りないのではないかと。 ●この知識やスキルを身に付ければ所属する職場でどのような役割をとれるかなど、メンタルヘルス問題への臨床実践能力を高めるキャリアパス形成支援の具体的な方策を明らかにしてほしい。 ●受講人数にもよるが、受講料のみの財源では持続性に疑問が残る。 ●外部評価委員は多職種から選択してほしい。 ●他大学・大学病院への普及・展開における取り組みの内容が不十分である。</p>	

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	芝浦工業大学		
⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】			
大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果			
整理番号	24	大学等名	芝浦工業大学
テーマ	テーマⅠ・Ⅱ複合型		
<p>(「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価)</p> <p>【総括評価】</p> <p>S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。</p> <p>【コメント】</p> <p>大学改革の加速については、工学系大学という専門性を生かし、学生の学修成果を可視化するシステム開発を行ったことは特筆すべき取組であり、高く評価できる。また、その開発したシステムによって、学生の多様な学修成果をより明確に可視化する努力を行い、教学IRの強化を含めてエビデンス・ベースで改革を進めようとする姿勢は、教学マネジメントを推進するにあたり重要な要素であると言える。</p> <p>事業の具体的な取組の進捗状況については、本事業において開発された「SITポートフォリオ」は、これまで散見されていた各種データをこのシステムに取り込み、学生自身がそのデータを就職活動等で活用することが可能なほか、大学としてそのデータを包括的に分析するIR機能も有している。これにより、大学全体（マクロ）、学位プログラムごと（ミドル）、そして個々の学生の学修に関すること（マイクロ）という3層のチェック機能も強化されていると考えられ、エビデンス・ベースの改革が期待されるものである。しかし、これらの学修成果の可視化に関する取組に対して、アクティブ・ラーニングの組織化については取組が十分になされていたとは判断できず、必須指標である「アクティブ・ラーニング科目のうち、必修科目数の割合」が伸びていない。理工系科目のアクティブ・ラーニング化は今後の日本経済の発展には不可欠であるということから、一層の取組強化を期待する。</p> <p>事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、学長のリーダーシップの下に「アクティブ・ラーニング&アセスメント・オフィス」が設置され、組織的かつ全学的に取組が展開されている。また、学内の教学マネジメントの中に、本事業における取組がしっかりと位置付けられていることもうかがえる。さらに、他工業大学との横の連携を通じて、更に質の向上に取り組む環境が整っていることも高く評価できる。</p> <p>事業成果の普及については、本事業で開発されたシステムは先駆的なモデルとして、多くの教育関係への普及が見込まれるものである。この改革の流れを自大学のみならず、「工大サミット」の積極的实施・参加等により情報共有することで、これら本事業で培われた知見が広く周知、共有されることが期待される。</p>			

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	芝浦工業大学		
⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】			
平成28年度評価 評価結果			
選定年度	平成25年度	整理番号	36
大学等名称	芝浦工業大学		
事業名称	「まちづくり」「ものづくり」を通じた人材育成推進事業		
(「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業委員会」による評価)			
(総合評価)			
A: 計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。			
[コメント]			
【優れている点】			
<ul style="list-style-type: none"> ・地方公共団体や地域と連携してまちづくりに貢献していく力があり、今後もプロジェクトの発展が期待できる。 ・さいたま市との連携に新しい展開への可能性がうかがえることは評価できる。 ・プロジェクト参加学生数が増加しており、今後の継続性や学内浸透が期待でき評価できる。また、実り多い学生成果報告会を実施している。 			
【改善を要する点】			
<ul style="list-style-type: none"> ・PBL や地域連携の内容にどのような先進性を見出したのか、また、将来に向けてどのような課題があるのかについて、今後総括を進めていくことが望まれる。 ・事業の成果を教育効果など内向きの内容に留めず、地域貢献を念頭に置いた評価が求められる。 			

(大学名：千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	芝浦工業大学
⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】	
スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果	
大学名	芝浦工業大学
整理番号	B14
構想名	価値共創型教育を特徴とする理工系人材育成モデルの構築と世界の発展への貢献
◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）	
（総括評価） S	優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。
（コメント）	<p>本構想は、「私立理工系大学として世界に通用するブランドの構築」を目標に、世界水準の大学制度の実現、学修・教育双方の質を保证する価値共創型教育による実践型グローバル技術者の育成と、教育・研究・開発コンソーシアム（Global Technology Initiative（GTI））の構築を目指す取組であり、理工系大学のロールモデルとして期待されるプログラムである。</p> <p>目標実現のため、東南アジアを中心とする国際的産学官連携ネットワークであるGTIコンソーシアムを構築し、それを基にしたグローバルPBLの実施や国際産学共同研究の推進など、他の理工系大学の参考となる先進的な取組が行われている。特に、GTIコンソーシアム参加企業から提案された企業連携型グローバルPBLは、企業が抱える課題をテーマとして設定し、日本人学生と海外学生が協力してその解決に取り組むという実践的なものであり、その単位認定制度も含め非常に特徴的である。その他の多くの目標設定も意欲的であり、その成果は海外派遣学生数や受け入れ留学生数、外国人教員等の割合、海外論文数の顕著な増加等に現れており、高く評価出来る。また、工科系大学であるが、女性教員の比率が高い点や女子学生の割合を増やす女子指定校の導入など、多様性の確保にも熱心である。さらに、令和2年度からは英語のみで実施する多国籍の教員が指導する学部の先進国際課程も運用されており、先進的取組として高く評価できる。これらの実現は、SGU推進本部を中心とした学長付託型のガバナンスが優れている証左である。</p> <p>一方で、日本人学生に占める留学経験者数や外国語力の基準を満たす学生数は、特に大学院において必ずしも十分とは言えない。また、学部における外国語のみで卒業できるコースの在籍者数など、数値目標を下回る項目も認められる。今後、ジョイントディグリー（JD）やダブルディグリー（DD）協定校数の増加や大学院進学率等の大学独自の意欲的な数値目標を達成するためには、更なる具体策の検討が望まれる。私立工科系大学唯一の採択大学として、世界に通じるロールモデルの策定とその波及への努力を期待したい。</p> <p>財政支援期間終了後を見据えた自走化については、産学連携等により、取組の成果を更に発展させることが望まれる。</p>

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	千葉大学
⑥他の公的資金との重複状況 【2ページ以内】	
<p>【卓越大学院プログラム】</p> <p>○アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム（令和元～7年度） 「課題先進地域」としてのアジアユーラシア多言語多文化理解、アジアユーラシアと人文学の対象に向けてローカライズされた分析のデータサイエンス（Digital Humanities 2.0）の二つの技法を統合的に修得することにより、しなやかな文化的想像力と文理融合的な俯瞰的学知を兼ね備えた人材養成を行っていくことはもちろん、本学における大学院改革を先導し、さらには波及的に我が国の人文社会系大学院自体の改革を促していく。</p> <p>○革新医療創生CHIBA卓越大学院（令和元～7年度） 国内外の一流研究機関及び国内企業と連携し、新しい大学院教育「クラスター制CHIBA教育システム」の下、様々な分野のトップの大学院生が、既成の枠を越えて組織された6つの教育研究クラスターの複数クラスターで学修し、複数の分野で主専攻とサブ専攻を修め、俯瞰力と多角的な視点、柔軟な思考、イノベーションマインド、失敗を恐れないスピリッツとレジリエンスを有し世界を先導する革新医療創生のイノベーターを育成する。</p> <p>【基礎研究医養成活性化プログラム】</p> <p>○病理・法医学教育イノベーションハブの構築（平成29～令和3年度） 千葉・群馬・山梨の三大学連携とその関連病院や部局をこえて行うOn-the-Job trainingの運営と教育プログラム修了者のポジション確保を、三大学連携のマイルストーンとし、基礎と臨床医学の知識・先端技術の取得を通じて、基礎医学の成果を臨床ヘトランスレーションする際のリーダーとなる病理・法医学研究医育成を行う。</p> <p>【課題解決型高度医療人材養成プログラム】</p> <p>○病院経営スペシャリスト養成プログラム（平成29～令和3年度） 実務能力に長けた講師陣が、医師を中心に、コメディカルや事務職、地域医療政策を担う自治体職員など将来の病院運営を担う者を対象とし、DPC/PDPS制度に基づく病院経営指標の管理やコストの適正化、診療内容の最適化・質向上といった実践的な学習内容を提供し、病院経営のスペシャリストを養成・輩出する。</p> <p>○メンタル・サポート医療人とプロの連携養成（平成30～令和4年度） 軽症の不眠、不安、うつ、認知症、依存症等を持つ患者および家族に、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、コメディカル等が簡易（低強度）認知行動療法的な相談支援を行うメンタルサポート医療人養成をオンライン授業やネット教材を活用して行う。同時に、精神科医が難治性精神疾患や司法精神保健、ギャンブル依存に対して適切な診断と薬物治療を提供できるメンタルプロフェッショナル養成を行う。</p> <p>【感染症医療人材養成事業】</p> <p>○千葉大学 感染症医療人材養成事業（令和2～令和3年度） 医学部、看護学部など医療系学部の学生ならびに医師、看護師など現職の医療職に対する教育を充実させることにより、有効な感染対策を実践できる医療人を育成する。また、十分な感染対策を行ったうえでの人工呼吸器管理、基本的臨床手技、身体診察などの医療行為を修得するための教育を行うことにより、高度な感染症診療を行える医療人を育成する。</p> <p>【知識集約型社会を支える人材育成事業】</p> <p>○インテンシブ・イシュー教育プログラムのモデル展開（申請中） 本事業は、課題から考えかつ、その課題を深めるために、横断する学問領域の教員による連携的かつ集約的なチームと、野外実習・実験、インターン、留学等、学外での学びを個々の学生がカスタマイズしやすいセルフデザインギャップチームを組み合わせたカリキュラムの構築を目的とする。連携的かつ集約的なチームにおいて専門的な知識・技術を学び、セルフデザインギャップチームにおいて学外で学びを深める、メリハリのある課題解決型のカリキュラム運営を構築する。</p>	

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	千葉大学
⑥他の公的資金との重複状況 【2ページ以内】	
<p>【大学の世界展開力強化事業】</p> <p>○「極東ロシアの未来農業に貢献できる領域横断型人材育成プログラム (FARM)」(平成29～令和3年度) 我が国最大規模の植物工場を有する千葉大学環境健康フィールド科学センターを中心に、未来農業ビジネスの一つで先進型園芸施設である、人工光型植物工場、太陽光利用型植物工場の計画、生産から販売までのマネジメントに関わるプロフェッショナルな人材を日本とロシアが共同して育成する。</p> <p>○「COIL を使用した日米ユニーク・プログラム (JUSU)」(平成30～令和4年度) 千葉大学と米国4大学の特色や強みを活かしたユニークな分野で、オンラインを活用しながら、アクティブラーニング型講義を展開し、日米の学生が各専門分野を教え合う双方向共同教育を行うことで、自分の専門にとらわれることのない学びを実現できる人材を育成する。 COIL：オンライン国際協働学習</p> <p>【多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン】 ○関東がん専門医療人養成拠点（平成29～令和3年度） 連携8大学による“関東AYA希少がんセンターネットワーク”を教育拠点として整備し、がんゲノム医療、がんライフ・QOL医療の教育実践の場とする。</p> <p>【スーパーグローバル大学等事業】 ○「グローバル千葉大学の新生－Rising Chiba University－」(平成26～令和5年度) グローバル人材に必要とされる「人間力」として、「俯瞰力」、「発見力」、そして「実践力」を取り上げ、それらの育成に特化した教育プログラムを新たに準備し、さらに、これらの人間力の育成を各学生にテラーメードで行うために、SULA (Super University Learning Administrator) という新しい教育人材を配置する。このような人間力を身に付けたグローバル人材の育成に向けて、千葉大学を新生させる覚悟で改革を進める。</p> <p>令和3年度海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）に採択されたプログラムのうち、本事業の申請内容と関連性のあるものはない。</p>	

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	芝浦工業大学
⑥他の公的資金との重複状況 【2ページ以内】	
<p><大学改革推進等補助金> ●デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン 2027年にアジア工科大学トップ10を目指すための改革「Centennial SIT Action」を、DXで強化する。ビッグデータ、クラウド、IoT、AIなどのデジタル技術の活用推進を通して加速度的に改革を進め、ポストコロナを見据えたさらなる教育の質向上を目指す取組。</p> <p><国際化拠点整備事業補助金> ●スーパーグローバル大学創成支援事業 グローバルPBLや海外インターンシップ等、国際プログラムを実施する等、留学生数を増やすことでキャンパスにしながら、学生が多文化・多国籍な環境の中に身を置くことができる機会を提供し、「コミュニケーション能力」「問題発見解決能力」「技術経営能力」「メタナショナル能力」の4つの能力を有する理工系人材育成を目指した取組。 ●大学の国際化促進フォーラム形成支援 専門知識・プロジェクト推進知識の修得を目的として、海外の協定校と共同で実施するワークショップ型プログラムである「グローバルPBL」について、実践手法を他の大学と共有し拡充し、学問分野の枠を越えて社会問題の解決を目指す学際プログラムの創出や教員間交流の活発化も図っていく取組。</p> <p><独立行政法人日本学生支援機構令和3年度海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）> 採択件数派遣11件、受入2件。グローバルPBL、工学英語研修等の海外学生派遣・受入プログラム。グローバルPBLを実施するが、本申請事業の対象としない。</p> <p><独立行政法人日本学術振興会 国際共同研究事業> ●スイスとの国際共同研究プログラム（JRP's）</p> <p><独立行政法人日本学術振興会 外国人研究者招へい事業> ●令和3年度 外国人招へい研究者(短期)第1回 2件 - Collective Memory and Contemporary Discussions in Philosophy of Memory - 高エントロピー金属硫化物の高圧合成と機能開拓 ●令和3年度 外国人特別研究員(欧米短期) 1件 ●令和3年度 外国人特別研究員(一般)第2回 7件 - ジャバ州の再生可能エネルギー潤沢地域におけるSSR低減のための電力貯蔵設備の活用 - 熱電および光電エネルギー生成用の透明な多機能酸化物薄膜 - ハーフ及びフルホイスター合金に基づく薄膜の熱電並びに磁気特性 他</p>	

(大学名： 千葉大学) (タイプ A①:CAプラス)